様式1－1

大学等名	静岡県立大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

薬学部

③ 修了要件

全学部で共通の講座1科目1単位、および、各学部のPCを用いたデータリテラシーなどで構成される1科目1～2単位、合計2科目2～3単位（各学部の卒業要件で定められた科目：学部（・学科）の必修科目）を履修すること。
1. 全学部共通（全5学部）：数理・データサイエンス・AI入門（必修科目、1年前期、1単位）
2. 薬学部：科学演習（学部の必修科目、1年通年、1単位）
　＊薬学科（6年制）と薬科学科（4年制）の2学科で共通

必要最低科目数・単位数　2 科目　2 単位　履修必須の有無　令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○							
科学演習	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・人間の知的活動とAIの関係性 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目)
	1-6	・AI最新技術の活用例（深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど） ［数理・データサイエンス・AI入門］(8回目) ・基礎モデル、大規模言語モデル、拡散モデル ［数理・データサイエンス・AI入門］(2回目)
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・1次データ、2次データ、データのメタ化 ［数理・データサイエンス・AI入門］(2回目) ・構造化データ、非構造化データ（文章、画像/動画、音声/音楽など） ［数理・データサイエンス・AI入門］(4回目)
	1-3	・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用 ［数理・データサイエンス・AI入門］(4回目)
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など ［数理・データサイエンス・AI入門］(5, 8回目) ・非構造化データ処理：言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など ［数理・データサイエンス・AI入門］(8回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ ［数理・データサイエンス・AI入門］(8回目) ・マルチモーダル（言語、画像、音声など）、生成AIの活用（プロンプトエンジニアリング） ［数理・データサイエンス・AI入門］(4回目)
	1-5	・データサイエンスのサイクル（課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案） ［数理・データサイエンス・AI入門］(5, 8回目)

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題 (ELSI:Ethical, Legal and Social Issues) [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護 [数理・データサイエンス・AI入門](7回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断) [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介 [数理・データサイエンス・AI入門](7回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成)、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)
	3-2	・情報セキュリティの3要素 (機密性、完全性、可用性) [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ承認、パスワード、アクセス制限、悪意ある情報搾取 [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 [数理・データサイエンス・AI入門](6回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数) [数理・データサイエンス・AI入門](2回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)[数理・データサイエンス・AI入門](3回目)、[科学演習](3回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い) [数理・データサイエンス・AI入門](2回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値 [数理・データサイエンス・AI入門](3回目)、[科学演習](5回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い [数理・データサイエンス・AI入門](7回目) ・打ち切りや欠測を含むデータ、層別の必要なデータ [数理・データサイエンス・AI入門](2, 5回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡) [数理・データサイエンス・AI入門](4, 5回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図) [数理・データサイエンス・AI入門](3, 4回目)、[科学演習](3回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)、[科学演習](5回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)、[科学演習](3回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)、[科学演習](3回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)[科学演習](2回目)
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)[科学演習](3回目) ・データの集計(和、平均)[科学演習](3回目) ・データの並び替え、ランキング [科学演習](4回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)[科学演習](5回目) ・表形式のデータ(csv)[科学演習](4回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

5学部全体の到達目標
・Society 5.0時代の礎である数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する。
・データ倫理、情報セキュリティ、AI社会原則などデータ・AI利活用の基礎を理解する。
・目的に応じてPCでデータを分析・可視化 (図表化) し結果を説明する基礎的な能力を養う。
・データ利活用により、実課題解決に向けた提案ができる基礎力を養う。

様式1－2

大学等名	静岡県立大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

食品栄養科学部

③ 修了要件

全学部で共通の講座1科目1単位、および、各学部のPCを用いたデータリテラシーなどで構成される1科目1～2単位、合計2科目2～3単位（各学部の卒業要件で定められた科目：学部（・学科）の必修科目）を履修すること。
1. 全学部共通（全5学部）：数理・データサイエンス・AI入門（必修科目、1年前期、1単位）
2. 食品栄養科学部（3学科）
・情報科学演習（学部・学科の必修科目、1年前期、1単位）
・情報科学(栄養)（学部・学科の必修科目、1年前期、2単位）
・情報科学(環境)（学部・学科必修科目、1年前期、2単位）

必要最低科目数・単位数　2 科目　2 単位　履修必須の有無　令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					
情報科学演習	1			○					
情報科学(栄養)	2			○					
情報科学(環境)	2			○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					
情報科学演習	1			○					
情報科学(栄養)	2			○					
情報科学(環境)	2			○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					
情報科学演習	1			○					
情報科学(栄養)	2			○					
情報科学(環境)	2			○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○							
情報科学演習	1		○	○	○						
情報科学(栄養)	2		○	○	○						
情報科学(環境)	2		○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット ［数理・データサイエンス・AI入門](1回目） ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化 ［数理・データサイエンス・AI入門](1回目） ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 ［数理・データサイエンス・AI入門](1回目） ・複数技術を組み合わせたAIサービス ［数理・データサイエンス・AI入門](1回目） ・人間の知的活動とAIの関係性 ［数理・データサイエンス・AI入門](1回目） ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方 [数理・データサイエンス・AI入門](1回目）
	1-6	・AI最新技術の活用例（深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど） [数理・データサイエンス・AI入門](8回目） ・基礎モデル、大規模言語モデル、拡散モデル ［数理・データサイエンス・AI入門](2回目)、[情報科学演習](1回目)、[情報科学(栄養)](6, 15回目)、[情報科学(環境)](8回目）
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・1次データ、2次データ、データのメタ化 [数理・データサイエンス・AI入門](2回目） ・構造化データ、非構造化データ（文章、画像/動画、音声/音楽など） [数理・データサイエンス・AI入門](4回目）
	1-3	・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど [数理・データサイエンス・AI入門](1回目） ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など [数理・データサイエンス・AI入門](1回目） ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用 ［数理・データサイエンス・AI入門](4回目)、[情報科学演習](1回目)、[情報科学(栄養)](15回目)、[情報科学(環境)](9回目）
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など [数理・データサイエンス・AI入門](5, 8回目） ・非構造化データ処理：言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など [数理・データサイエンス・AI入門](8回目） ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ [数理・データサイエンス・AI入門](8回目） ・マルチモーダル（言語、画像、音声など）、生成AIの活用（プロンプトエンジニアリング） [数理・データサイエンス・AI入門](4回目）
	1-5	・データサイエンスのサイクル（課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案） [数理・データサイエンス・AI入門](5, 8回目）

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題 (ELSI:Ethical, Legal and Social Issues) [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護 [数理・データサイエンス・AI入門](7回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断) [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介 [数理・データサイエンス・AI入門](7回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成)、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)
	3-2	・情報セキュリティの3要素 (機密性、完全性、可用性) [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ承認、パスワード、アクセス制限、悪意ある情報搾取 [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・サイバーセキュリティ [情報科学演習](1, 2回目)、[情報科学(栄養)](1, 2回目)、[情報科学(環境)](1回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数) [数理・データサイエンス・AI入門](2回目)、[情報科学演習](12回目)、[情報科学(栄養)](15回目)、[情報科学(環境)](3回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)[数理・データサイエンス・AI入門](3回目)、[情報科学演習](13回目)、[情報科学(栄養)](15回目)、[情報科学(環境)](3, 5回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い) [数理・データサイエンス・AI入門](2回目)、[情報科学演習](13回目)、[情報科学(栄養)](12～14回目)、[情報科学(環境)](3, 5回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値 [数理・データサイエンス・AI入門](3回目)、[情報科学演習](13回目)、[情報科学(栄養)](12～14回目)、[情報科学(環境)](3, 5回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い [数理・データサイエンス・AI入門](7回目)、[情報科学演習](12回目)、[情報科学(栄養)](12-14回目)、[情報科学(環境)](3, 5回目) ・打ち切りや欠測を含むデータ、層別の必要なデータ [数理・データサイエンス・AI入門](2, 5回目)、[情報科学演習](12回目)、[情報科学(栄養)](15回目)、[情報科学(環境)](3, 5回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡) [数理・データサイエンス・AI入門](4, 5回目)、[情報科学演習](11回目)、[情報科学(栄養)](15回目)、[情報科学(環境)](6回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)[情報科学演習](12回目)、[情報科学(栄養)](15回目)、[情報科学(環境)](3回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列 [数理・データサイエンス・AI入門](4, 7回目)、[情報科学演習](12回目)、[情報科学(栄養)](12-14回目)、[情報科学(環境)](6回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)[情報科学演習](12回目)、[情報科学(栄養)](15回目)、[情報科学(環境)](5回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図) [数理・データサイエンス・AI入門](3, 4回目)、[情報科学演習](11回目)、[情報科学(栄養)](15回目)、[情報科学(環境)](5回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)、[情報科学演習](12回目)、[情報科学(栄養)](15回目)、[情報科学(環境)](6回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)、[情報科学演習](6～8回目)、[情報科学(栄養)](15回目)、[情報科学(環境)](5回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)、[情報科学演習](12回目)、[情報科学(栄養)](15回目)、[情報科学(環境)](6回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)、[情報科学演習](6～8回目)、[情報科学(栄養)](4, 5, 8, 10, 11回目)、[情報科学(環境)](12, 13回目)
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)[情報科学演習](9～13回目)、[情報科学(栄養)](12～14回目)、[情報科学(環境)](4回目) ・データの集計(和、平均)[情報科学演習](10回目)、[情報科学(栄養)](15回目)、[情報科学(環境)](4回目) ・データの並び替え、ランキング [情報科学演習](11回目)、[情報科学(栄養)](15回目)、[情報科学(環境)](4回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)[情報科学演習](10回目)、[情報科学(栄養)](12～14回目)、[情報科学(環境)](4回目) ・表形式のデータ(csv)[情報科学演習](10回目)、[情報科学(栄養)](15回目)、[情報科学(環境)](5回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

5学部全体の到達目標
・Society 5.0時代の礎である数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する。
・データ倫理、情報セキュリティ、AI社会原則などデータ・AI利活用の基礎を理解する。
・目的に応じてPCでデータを分析・可視化 (図表化)し結果を説明する基礎的な能力を養う。
・データ利活用により、実課題解決に向けた提案ができる基礎力を養う。

様式1-3

大学等名	静岡県立大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

国際関係学部

③ 修了要件

全学部で共通の講座1科目1単位、および、各学部のPCを用いたデータリテラシーなどで構成される1科目1～2単位、合計2科目2～3単位（各学部の卒業要件で定められた科目：学部（・学科）の必修科目）を履修すること。
1. 全学部共通（全5学部）：数理・データサイエンス・AI入門（必修科目、1年前期、1単位）
2. 国際関係学部：コンピュータ・リテラシー（a, b, c, d, e, f）［選択（卒業要件）科目、1、2年前期（a～e）・後期（f）、2単位］、もしくは、情報検索実習［全学共通の選択（卒業要件）の科目、1年生前期、2単位］
＊カリキュラム編成と学則変更により、2025年度の入学生から、コンピュータ・リテラシーは選択（卒業要件）科目から必修（卒業要件）科目となる。また、情報検索実習は「廃止」し、コンピュータ・リテラシーは現在の6講座より前期に1講座増やした7講座（a～f, g）［前期（a～e, g）・後期（f）］となる。

必要最低科目数・単位数	2	科目	3	単位	履修必須の有無	令和9年度までに履修必須とする計画

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○	コンピュータ・リテラシー（g）	2			○
コンピュータ・リテラシー（a）	2			○					
コンピュータ・リテラシー（b）	2			○					
コンピュータ・リテラシー（c）	2			○					
コンピュータ・リテラシー（d）	2			○					
コンピュータ・リテラシー（e）	2			○					
コンピュータ・リテラシー（f）	2			○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○		情報検索実習（全学共通科目） （R7年度廃止）	2		○	○	○
コンピュータ・リテラシー (a)	2		○	○	○	コンピュータ・リテラシー (g) （R7年度より開講）	2		○	○	○
コンピュータ・リテラシー (b)	2		○	○	○						
コンピュータ・リテラシー (c)	2		○	○	○						
コンピュータ・リテラシー (d)	2		○	○	○						
コンピュータ・リテラシー (e)	2		○	○	○						
コンピュータ・リテラシー (f)	2		○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・人間の知的活動とAIの関係性 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目)
	1-6	・AI最新技術の活用例（深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど） ［数理・データサイエンス・AI入門］(8回目) ・基礎モデル、大規模言語モデル、拡散モデル ［数理・データサイエンス・AI入門］(2回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・1次データ、2次データ、データのメタ化 ［数理・データサイエンス・AI入門］(2回目) ・構造化データ、非構造化データ（文章、画像/動画、音声/音楽など） ［数理・データサイエンス・AI入門］(4回目)
	1-3	・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用 ［数理・データサイエンス・AI入門］(4回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など ［数理・データサイエンス・AI入門］(5, 8回目) ・非構造化データ処理：言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など ［数理・データサイエンス・AI入門］(8回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ ［数理・データサイエンス・AI入門］(8回目) ・マルチモーダル（言語、画像、音声など）、生成AIの活用（プロンプトエンジニアリング） ［数理・データサイエンス・AI入門］(4回目)
	1-5	・データサイエンスのサイクル（課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案） ［数理・データサイエンス・AI入門］(5, 8回目)

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題 (ELSI:Ethical, Legal and Social Issues) [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護 [数理・データサイエンス・AI入門](7回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断) [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介 [数理・データサイエンス・AI入門](7回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成)、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)
	3-2	・情報セキュリティの3要素 (機密性、完全性、可用性) [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ承認、パスワード、アクセス制限、悪意ある情報搾取 [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・サイバーセキュリティ [コンピュータ・リテラシー (a, g)](1, 2, 12回目)、[コンピュータ・リテラシー (b)](1回目)、[コンピュータ・リテラシー (c)](1, 2回目)、[コンピュータ・リテラシー (d, e, f)](1, 2回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数) [数理・データサイエンス・AI入門](2回目)、[コンピュータ・リテラシー (b)](6回目)、[コンピュータ・リテラシー (c)](9回目)、[コンピュータ・リテラシー (d, e, f)](11, 13回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)[数理・データサイエンス・AI入門](3回目)、[コンピュータ・リテラシー (a, g)](7回目)、[コンピュータ・リテラシー (b)](5回目)、[コンピュータ・リテラシー (c)](10回目)、[コンピュータ・リテラシー (f)](12回目)、[情報検索実習](8回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い) [数理・データサイエンス・AI入門](2回目)、[コンピュータ・リテラシー (a, g)](7回目)、[コンピュータ・リテラシー (b)](5, 9回目)、[コンピュータ・リテラシー (c)](10, 11回目)、[コンピュータ・リテラシー (d, e)](12, 13回目)、[コンピュータ・リテラシー (f)](12回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値 [数理・データサイエンス・AI入門](3回目)、[コンピュータ・リテラシー (a, g)](7, 8回目)、[コンピュータ・リテラシー (b)](5, 6, 9回目)、[コンピュータ・リテラシー (c)](10, 11回目)、[コンピュータ・リテラシー (d, e, f)](11-13回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い [数理・データサイエンス・AI入門](7回目) ・打ち切りや欠測を含むデータ、層別の必要なデータ [数理・データサイエンス・AI入門](2, 5回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡) [数理・データサイエンス・AI入門](4, 5回目)[コンピュータ・リテラシー (a, g)](7回目)、[コンピュータ・リテラシー (b)](5, 9回目)、[コンピュータ・リテラシー (c)](10, 11回目)、[コンピュータ・リテラシー (d, e, f)](11-13回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列 [数理・データサイエンス・AI入門](4, 7回目)、[コンピュータ・リテラシー (b)](7回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図) [数理・データサイエンス・AI入門](3, 4回目)、[コンピュータ・リテラシー (a, g)](7, 8回目)、[コンピュータ・リテラシー (b)](5, 8回目)、[コンピュータ・リテラシー (c)](12回目)、[コンピュータ・リテラシー (d, e)](12, 13回目)、[コンピュータ・リテラシー (f)](12回目)、[情報検索実習](8回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)、[情報検索実習](8回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)、[コンピュータ・リテラシー (f)](11回目)、[情報検索実習](8回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)、[コンピュータ・リテラシー (a, g)](8回目)、[コンピュータ・リテラシー (b)](8回目)、[コンピュータ・リテラシー (c)](12回目)、[コンピュータ・リテラシー (d, e)](13回目)、[情報検索実習](8回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど) [コンピュータ・リテラシー (a, g)](9, 10, 11, 14, 15回目)、[コンピュータ・リテラシー (b)](10～12回目)、[コンピュータ・リテラシー (c)](13～15回目)、[コンピュータ・リテラシー (d, e, f)](14, 15回目)
	2-3	・データの集計(和、平均)[コンピュータ・リテラシー (a, g)](7, 8回目)、[コンピュータ・リテラシー (b)](5回目)、[コンピュータ・リテラシー (c)](10, 11回目)、[コンピュータ・リテラシー (d, e, f)](12, 13回目)、[情報検索実習](8回目) ・データの並び替え、ランキング [コンピュータ・リテラシー (a, g)](7回目)、[コンピュータ・リテラシー (b)](5回目)、[コンピュータ・リテラシー (c)](10, 11回目)、[コンピュータ・リテラシー (d, e)](13回目)、[コンピュータ・リテラシー (f)](11, 13回目)、[情報検索実習](8回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)[情報検索実習](8回目) ・表形式のデータ(csv)[コンピュータ・リテラシー (b)](7回目)、[情報検索実習](8回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

5学部全体の到達目標
・Society 5.0時代の礎である数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する。
・データ倫理、情報セキュリティ、AI社会原則などデータ・AI利活用の基礎を理解する。
・目的に応じてPCでデータを分析・可視化 (図表化)し結果を説明する基礎的な能力を養う。
・データ利活用により、実課題解決に向けた提案ができる基礎力を養う。

様式1-4

大学等名	静岡県立大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

経営情報学部

③ 修了要件

全学部で共通の講座1科目1単位、および、各学部のPCを用いたデータリテラシーなどで構成される1科目1～2単位、合計2科目2～3単位（各学部の卒業要件で定められた科目：学部（・学科）の必修科目）を履修すること。
1. 全学部共通（全5学部）：数理・データサイエンス・AI入門（必修科目、1年前期、1単位）
2. 経営情報学部：情報リテラシⅠ（ 学部の必修科目、1年前期、2単位）

必要最低科目数・単位数　2 科目　3 単位　履修必須の有無　令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					
情報リテラシI	2			○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○							
情報リテラシI	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・人間の知的活動とAIの関係性 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目)
	1-6	・AI最新技術の活用例（深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど） ［数理・データサイエンス・AI入門］(8回目) ・基礎モデル、大規模言語モデル、拡散モデル ［数理・データサイエンス・AI入門］(2回目)
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・1次データ、2次データ、データのメタ化 ［数理・データサイエンス・AI入門］(2回目) ・構造化データ、非構造化データ（文章、画像/動画、音声/音楽など） ［数理・データサイエンス・AI入門］(4回目)
	1-3	・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用 ［数理・データサイエンス・AI入門］(4回目)
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など ［数理・データサイエンス・AI入門］(5, 8回目) ・非構造化データ処理：言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など ［数理・データサイエンス・AI入門］(8回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ ［数理・データサイエンス・AI入門］(8回目) ・マルチモーダル（言語、画像、音声など）、生成AIの活用（プロンプトエンジニアリング） ［数理・データサイエンス・AI入門］(4回目)
	1-5	・データサイエンスのサイクル（課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案） ［数理・データサイエンス・AI入門］(5, 8回目)

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題 (ELSI:Ethical, Legal and Social Issues) [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護 [数理・データサイエンス・AI入門](7回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断) [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介 [数理・データサイエンス・AI入門](7回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成)、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)
	3-2	・情報セキュリティの3要素 (機密性、完全性、可用性) [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ承認、パスワード、アクセス制限、悪意ある情報搾取 [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・サイバーセキュリティ[情報リテラシⅠ](1,3,4回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数) [数理・データサイエンス・AI入門](2回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)[数理・データサイエンス・AI入門](3回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い) [数理・データサイエンス・AI入門](2回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値 [数理・データサイエンス・AI入門](3回目)、[情報リテラシI](10回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い [数理・データサイエンス・AI入門](7回目) ・打ち切りや欠測を含むデータ、層別の必要なデータ [数理・データサイエンス・AI入門](2, 5回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡) [数理・データサイエンス・AI入門](4, 5回目)、[情報リテラシI](10回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列 [数理・データサイエンス・AI入門](4, 7回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図) [数理・データサイエンス・AI入門](3, 4回目)、[情報リテラシⅠ](12回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)、[情報リテラシI](12回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)、[情報リテラシI](12回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)、[情報リテラシI](12回目)
	2-3	・データの集計(和、平均)[情報リテラシⅠ](10回目) ・データの並び替え、ランキング [情報リテラシI](10回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)[情報リテラシI](10回目) ・表形式のデータ(csv)[情報リテラシI](10回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

5学部全体の到達目標
・Society 5.0時代の礎である数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する。
・データ倫理、情報セキュリティ、AI社会原則などデータ・AI利活用の基礎を理解する。
・目的に応じてPCでデータを分析・可視化 (図表化)し結果を説明する基礎的な能力を養う。
・データ利活用により、実課題解決に向けた提案ができる基礎力を養う。

様式1−5

大学等名	静岡県立大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

看護学部

③ 修了要件

全学部で共通の講座1科目1単位、および、各学部のPCを用いたデータリテラシーなどで構成される1科目1～2単位、合計2科目2～3単位（各学部の卒業要件で定められた科目：学部（・学科）の必修科目）を履修すること。
1. 全学部共通（全5学部）：数理・データサイエンス・AI入門（必修科目、1年前期、1単位）
2. 看護学部：情報処理演習（学部の必修科目、1年後期、1単位）
　＊看護学部の3年次編入学生は、前期に数理・データサイエンス・AI入門、後期に情報処理演習を卒業要件として履修する。

必要最低科目数・単位数　2 科目　2 単位　履修必須の有無　令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
数理・データサイエンス・AI入門	1	○	○	○							
情報処理演習	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・人間の知的活動とAIの関係性 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方 ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目)
	1-6	・AI最新技術の活用例（深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど） ［数理・データサイエンス・AI入門］(8回目) ・基礎モデル、大規模言語モデル、拡散モデル ［数理・データサイエンス・AI入門］(2回目)
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・1次データ、2次データ、データのメタ化 ［数理・データサイエンス・AI入門］(2回目) ・構造化データ、非構造化データ（文章、画像/動画、音声/音楽など） ［数理・データサイエンス・AI入門］(4回目)
	1-3	・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など ［数理・データサイエンス・AI入門］(1回目) ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用 ［数理・データサイエンス・AI入門］(4回目)
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など ［数理・データサイエンス・AI入門］(5, 8回目) ・非構造化データ処理：言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など ［数理・データサイエンス・AI入門］(8回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ ［数理・データサイエンス・AI入門］(8回目) ・マルチモーダル（言語、画像、音声など）、生成AIの活用（プロンプトエンジニアリング） ［数理・データサイエンス・AI入門］(4回目)
	1-5	・データサイエンスのサイクル（課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案） ［数理・データサイエンス・AI入門］(5, 8回目)

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題 (ELSI:Ethical, Legal and Social Issues) [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護 [数理・データサイエンス・AI入門](7回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断) [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介 [数理・データサイエンス・AI入門](7回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成)、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)
	3-2	・情報セキュリティの3要素 (機密性、完全性、可用性) [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ承認、パスワード、アクセス制限、悪意ある情報搾取 [数理・データサイエンス・AI入門](6回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 [数理・データサイエンス・AI入門](6回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数) [数理・データサイエンス・AI入門](2回目)、[情報処理演習](8回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)[数理・データサイエンス・AI入門](3回目)、[情報処理演習](8, 11回目)、 ・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い) [数理・データサイエンス・AI入門](2回目)、[情報処理演習](8, 10回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値 [数理・データサイエンス・AI入門](3回目)、[情報処理演習](8, 11回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い [数理・データサイエンス・AI入門](7回目)、[情報処理演習](10, 12回目) ・打ち切りや欠測を含むデータ、層別の必要なデータ [数理・データサイエンス・AI入門](2, 5回目)、[情報処理演習](8, 9回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡) [数理・データサイエンス・AI入門](4, 5回目)、[情報処理演習](9, 10回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出[情報処理演習](11回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列 [数理・データサイエンス・AI入門](4, 7回目)、[情報処理演習](8, 13回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない[情報処理演習](8回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図) [数理・データサイエンス・AI入門](3, 4回目)[情報処理演習](6回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)[情報処理演習](13, 14回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)、[情報処理演習](8, 9回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など) [数理・データサイエンス・AI入門](4回目)、[情報処理演習](6, 8回目)、 ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)[情報処理演習](6、8、9回)
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)[情報処理演習](6、8、9回) ・データの集計(和、平均[情報処理演習](5回目)] ・データの並び替え、ランキング[情報処理演習](5回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)[情報処理演習](6回目) ・表形式のデータ(csv)[情報処理演習](5回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

5学部全体の到達目標
・Society 5.0時代の礎である数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する。
・データ倫理、情報セキュリティ、AI社会原則などデータ・AI利活用の基礎を理解する。
・目的に応じてPCでデータを分析・可視化 (図表化)し結果を説明する基礎的な能力を養う。
・データ利活用により、実課題解決に向けた提案ができる基礎力を養う。

様式2

静岡県立大学

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度　令和6　年度（和暦）

②大学等全体の男女別学生数　男性 1056 人　女性 1886 人　（ 合計 2942 人 ）

（令和6年5月1日時点）

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
薬学部	683	120	640	129	122											129	20%
食品栄養科学部	335	70	280	83	83											83	30%
国際関係学部	878	180	720	204	136											204	28%
経営情報学部	551	125	500	135	126											135	27%
看護学部 *	495	120	530	120	119											120	23%
*看護学部の収容定員は編入学生を含む																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合　計	2,942	615	2,670	671	586	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	671	25%

様式3

大学等名 静岡県立大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 （常勤） 282 人 （非常勤） 249 人

② プログラムの授業を教えている教員数 10 人

③ プログラムの運営責任者

（責任者名） 栗木 清典 （役職名） 教授

④ プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）

教務委員会 情報教育部会 MDASH推進部門

（責任者名） 武藤 伸明 （役職名） 教授

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

静岡県立大学情報教育部会内規

⑥ 体制の目的

情報教育部会は、情報教育に関する科目の実施・運営及び情報教育に関する科目の将来方向等を調査、審議することを目的とする。
情報教育に関する多様な情報教育のうち、文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）（以下、「教育プログラム」）を含む専門の事項を調査・審議するため以下の専門部門を置く。ただし、MDASH推進部門とMDASH自己点検・評価部門の双方に所属することはできない。
1. 情報教育部会 MDASH推進部門
（1）教育プログラムの立案、実施に関すること。
（2）教育プログラムの改善に関すること。
（3）その他前2号に掲げる事項に付随すること。
2. 情報教育部会 MDASH自己点検・評価部門
（1）教育プログラムの自己点検・評価に関すること。
（2）教育プログラムの改善に関すること。
（3）その他前2号に掲げる事項に付随すること。

⑦ 具体的な構成員

1. 教務委員会 情報教育部会 MDASH推進部門

経営情報学部	教授	武藤 伸明
薬学部	教授	橋本 博
食品栄養科学部	准教授	中野 祥吾
国際関係学部	准教授	宮崎 晋生
看護学部	教授	山田 紋子（令和7年3月31日まで）
	教授	富安 眞理（令和7年4月1日から）

2. 教務委員会 情報教育部会 MDASH自己点検・評価部門

食品栄養科学部	教授	栗木 清典
薬学部	講師	伊藤 由彦
国際関係学部	助教	青山 知靖
経営情報学部	教授	六井 淳
看護学部	准教授	堀 芽久美（令和7年3月31日まで）
	准教授	榊原 直喜（令和7年4月1日から）

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	25%	令和7年度予定	46%	令和8年度予定	69%
令和9年度予定	92%	令和10年度予定	96%	収容定員（名）	2,670

具体的な計画

本教育プログラムは2科目で構成されており、そのうちの1科目を全5学部がオンデマンド教材を用いたフルオンライン授業によるアクティブラーニングの全学共通科目を必修（卒業要件）科目としている。5学部のうち4学部が、PC演習を含むデータリテラシーの科目を必修（卒業要件）としている。残る1学部も、選択（卒業要件）科目として開講しているが、令和7年度の学則変更により必修（卒業要件）科目となった。したがって、本教育プログラムの全2科目は、すべての学部、すべての学生の卒業要件科目となり、すべての学生は修了者として卒業する。令和6年度入学の薬学部（薬学科）の6年次学生が修了者となる令和11年に、履修率が100%となると期待している。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本教育プログラムは2科目で構成されており、そのうちの1科目「数理・データサイエンス・AI入門」は、全5学部の1年次に必修（卒業要件）科目の全学共通科目として履修し、もう1つの学部別のPC演習を含むデータリテラシ—の科目は、4学部（看護学部の編入生を含む）で必修（卒業要件）科目である。

残る1学部は国際関係学部で、海外留学を希望する学生に配慮した1～2年次の履修としており、令和6年度入学生には、データリテラシ—の科目「コンピュータ・リテラシー」(6講座）と、開講日時の異なる全学共通科目の選択（卒業要件）科目「情報検索実習」で補完できるように実施した。令和7年度より、カリキュラム編成と学則変更に則って「情報検索実習」を廃止するが、「コンピュータ・リテラシー」の選択（卒業要件）科目を必修（卒業要件）科目に変更し、かつ、1講座増やして計7講座とした。

これより、令和7年度以降は、すべての学部の、すべての学生が本教育プログラムを履修する体制を整えた。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本教育プログラムを構成する2科目のうちの1つは、全5学部で共通の全学共通科目科で1年生・前期のオンデマンド教材を用いたアクティブラーニングのフルオンライン授業であることから、各部局の入学者ガイダンスやオリエンテーションなどで、「必修（卒業要件）科目であること」、「履修の仕方」、「修了要件」、「単位取得までの流れ」を丁寧に説明している。フルオンライン授業への履修登録漏れがないよう、他の科目で履修方法に慣れた時期に履修登録するよう工夫している。そのうえで、すべての学生が履修したことを各学部の学生室の事務員、および、担当教員により履修登録を確認している。履修を終えていない学生には、履修するよう個別に連絡し、履修登録完了の返信をもらうようにしている。

もう1つのPC演習を含むデータリテラシーの科目も4学部で1年次の必修（卒業要件）科目であるため、前期の開講分は、入学者ガイダンスやオリエンテーションなどで、後期の開講分は、学生へのメールで漏れなく周知している。令和7年度より、必修（卒業要件）科目となる国際関係学部も同様で、留学希望者への配慮として1～2年次に、多くの講座（異なる曜日、時間、講師）で履修できるようカリキュラムを工夫している。教員志望者の必修（卒業要件）科目であることもリマインドして履修漏れを防いでいる。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムの2科目のうち1つはフルオンライン授業で、かつ、アクティブラーニングであることから、すべての学部の、すべての学生が、平日や土日の時間を問わず、いつでもどこでも受講できる。各学部の建物の1階はPC等で修学できる電源タップ、Wi-Fiルーター、テーブルと椅子を設置し学習支援している。空きコマの時間帯は、各学部の建物にあるPC室を利用できる。学生からの質問は、オンライン上で質疑応答を行っている。

なお、令和7年度以降、すべての学部の、すべての学生が、PC演習のある科目を含む2科目で構成された本教育プログラムを履修する体制を整えた際、サポート体制に問題がないことを確認している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本教育プログラムのフルオンライン授業について、すべての学生の出席は、1コマ毎のオンデマンド教材の視聴後に問う小問題の提出（必要条件）と正答率（十分条件）で出席状況と修学度を確認し、モニタリングしている。学生の理解できなかったことや質問などはオンラインシステムの掲示板を通じて教員とやり取りすることで、すべての学部の、すべての学生と教員がコミュニケーションを図って教育を行っている。対面授業のPC演習を含むデータリテラシーの科目では、授業時間内で質問し、その時、その場で回答やアドバイスを受けて理解できる教育を行っている。なお、本大学では、すべての教員がオフィスアワーを設け、シラバスに明記することで、学生が質問を気軽に行える環境を整備している。

様式4

大学等名 静岡県立大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

教務委員会 情報教育部会 MDASH自己点検・評価部門

（責任者名）栗木 清典　（役職名）教授

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本学では、本教育プログラムを含むすべての科目の開講状況、履修状況、単位修得状況を、学生室の各学部に専属の担当事務員、および、各学部の教務委員が把握しており、当教務委員会 情報教育部会 MDASH推進部門（以下、推進部門という）は、本教育プログラムに関する情報を共有している。推進部門は、学生室の各学部に専属の担当事務員、および、各学部の教務委員と協力して全学の学内質保証規程に基づき、毎年度、本教育プログラムを検証することで、本教育プログラムの開発、管理、運営、質の向上を図り、見つかった課題を推進部門が中心となって改善に向けて取り組む体制を整備している。なお、本教育プログラムの開始年度である令和6年度の履修率は20%以上で、4年生が卒業する令和9年度の履修率は92%（様式2の③）、薬学部薬学科（6年制）が卒業する令和11年度に履修率が100%となる見込みである。
学修成果	本教育プログラムでは、5学部全体の到達目標、および、各学部の学修のねらいを設定し、学習成果は、5学部全体の到達目標に対する修学度を重視し、各学部の専門性に応じた学修のねらいへの修学度を考慮して総合的に評価している。履修成果である受講確認の小テストや、課題レポート（定期試験を含む）などの成績で修学度を確認している。 本学では、すべての科目に学生（授業評価）アンケートを実施していることから、本教育プログラムに関する科目も学生アンケートを実施し、その結果を基に学生の学習動機や学修成果を把握し、FD活動に活用している。学生アンケートでは、具体的に、学習時間、分量、スピード、難易度、満足度を定量的に問い、改善項目については記述式で問うて確認している。 推進部門は、全5学部の教務委員会の協力の下、学修成果、履修記録、学生アンケート等から学生の学習動機や学修成果との関連を把握し、本教育プログラムが目指す基本指針と、5学部全体の到達目標、および、学部別の学修のねらいについて継続的に検討している。自己点検・評価部門は、修学成果や学生アンケート結果より、本教育プログラムが目指す基本指針と、5学部全体、および、学部別の到達目標の達成について総合的に評価し、改善案を協議して具体的な案を提示する他、実施体制の強化などを総合的に検討している。 なお、各学部における教授会・教員総会、および、全学の教務委員会で、本教育プログラムが目指す基本方針を報告し、検討することで、効果的な授業方法や適切な成績評価について情報共有し、継続的に議論している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	毎年、各々の授業科目で実施する学生（授業評価）アンケートの結果を要約する。 令和6年度、多くの学生は、本教育プログラムのフルオンライン授業によるオンデマンド教材を用いたアクティブラーニング（主体的な学習）の科目とPC演習を含むデータリテラシーの科目により、数理・データサイエンス・AIの知識や技術が深まったと評価していた。ただし、文系学生の修学度は高いものの、難しさを感じるとの意見があった。 今後は、学生間のスキルの差に配慮した授業設計が課題である。国際関係学部では、講座数の増設やAI活用事例の導入など、学習負担の軽減と満足度向上を図る。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	受講生に実施する学生（授業評価）アンケートを参考とする。 令和6年度、本教育プログラムは、5学部のうち4学部で必修（卒業要件）科目としていることから、学生間の推奨ではく、（配当年次が1年次のため、）新入生オリエンテーションやガイダンスで教員による履修を徹底している。 残る1学部（国際関係学部）では、PC演習を含むデータリテラシーの科目は、海外留学の機会を考慮して配当年次を1～2年次、履修時期を前期もしくは後期と分散し、選択（卒業要件）科目としていたが、学生間の推奨は把握できていない。そこで、令和7年度以降、カリキュラム編成と学則変更により、当該科目を必修（卒業要件）科目とし、現在の6講座から1講座を増やした7講座とした。 以上より、令和7年度以降、全学部で履修が統一されるたことにより、すべての学部の、すべての学生が、本教育プログラムで修学する体制を整えた。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムの2科目のうちの1科目「数理・データサイエンス・AI教育入門」は、全5学部の1年次に必修（卒業要件）科目の全学共通科目として履修し、もう1科目の学部別のPC演習を含むデータリテラシーの科目は、全5学部のち4学部（看護学部の編入生を含む）で必修（卒業要件）科目である。残る1学部（国際関係学部：海外留学を希望する学生に配慮した1～2年次の履修）では、令和7年度から当該の選択（卒業要件）科目を必修（卒業要件）科目とするカリキュラム編成により、学則変更した。これより、令和7年度以降は、すべての学部の、すべての学生が本教育プログラムを履修することになる。 なお、当該の1学部の令和6年度入学生には、データリテラシーの科目「コンピュータ・リテラシー」（6講座）と、開講日時の異なる全学共通科目の選択（卒業要件）科目「情報検索実習」で補完できるように実施した。2025年度より、カリキュラム編成と学則変更に則って「情報検索実習」を廃止するが、「コンピュータ・リテラシー」を1講座増やして計7講座とした。 なお、教務委員会 情報教育部会 MDASH自己点検・評価部門は、情報教育部会 MDASH推進部門と共に、さらには学生室の学部担当事務員と学部教務委員と協力して、本教育プログラムの受講生の履修状況を見守り、すべての履修者が修了できるアドバイス提供の体制作りに励んでいる。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムは令和6年度に開始し、まだ卒業生を輩出していないため、現在のところ、本教育プログラム修了者の進路調査や活躍状況調査を実施しておらず、企業からの評価は受けていない。本学では、キャリア支援室および本学部キャリア支援委員会において、卒業生の進路調査、就活、活躍状況を統計調査していることから、本教育プログラムの開始前後で比較することで、本教育プログラムが進路、就職、活躍状況に及ぼす影響について検証できるよう整備している。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	企業等との連携や共同研究等の様々な機会をとらえて産業界からの意見を伺い、教育プログラム改善の参考とする。また、各部局で、OB・OGなどとも定期的に意見交換を行い、本教育プログラムへの要望・期待などを取り入れる。なお、令和5年度の半ばに東海デジタル人材育成プラットフォーム（名古屋大学 数理データ科学教育センター：https://www.mds.nagoya-u.ac.jp/tokai-digital-human-resource-education-platform）の会員校となったことを受け、教育モジュール検討会議や教育カリキュラム検討会議で議論した産業界への橋渡しの意見・内容、また、会員企業からの産業界の取り組み紹介などで得られた知見を学内で共有して、産業界の幅広い視点を取り入れた教育プログラムに改善する。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	学生が「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を実感できるよう、本教育プログラムは、「専門性を探求する『データリテラシー』×『AI』の実践的基礎力を養う！」を特徴としている。本教育プログラムを構成2科目のうち1科目は、数理・データサイエンス・AIの基礎的な能力を全5学部で共通のオンデマンド教材を用いてアクティブラーニングで学習する。講義期間中、オンデマンド教材は何度も視聴きることから、この科目を苦手とする学生は繰り返し視聴して理解を深めることができる。夏季の一定期間も復習できるようにしている。もう1科目の、各学部で実施され、各分野の専門性を探求するPC演習を含むデータリテラシーの科目は、様々な分野のデータの集計、作図、比較、解析等の操作技術を習得し、データを可視化して説明すること、理解することで、各分野における専門性の高い問題解決に向けた提案ができる実践的基礎力を養うことをめざしている。そこで、本教育プログラムの全学的な到達目標（様式1，⑪）とは別に、各学部の修学のねらいを次のように設定した。 1. 薬学部：Society 5.0の実現に向けて、数理・データサイエンス・AIの基礎を身につけ、データ収集・解析・可視化を通して、「データ+根拠」に基づく薬学的判断力および説明力を養うとともに、科学的根拠に基づいた医療（EBM）への理解を深め、研究や医療の場で活躍できる実践的基礎力を培うことができる。 2. 食品栄養科学部：Society 5.0時代に必要とされる数理・データサイエンス・AIの基礎を修得し、データの収集・分析・可視化を通じて、科学的根拠に基づいた課題解決の提案力を養い、「食」の知識を有する専門家として活躍できる実践的基礎力を培う。 3. 国際関係学部：Society 5.0時代に不可欠な数理・データサイエンス・AIの基礎を理解し、データ収集・分析・可視化を通じて、実社会における国際的課題の解決に向けた提案力を養い、国際社会で活躍できる実践的基礎力を培う。 4. 経営情報学部：Society 5.0時代に不可欠な数理・データサイエンス・AIの意義を理解し、データ収集・分析・可視化の能力を修得することで、現代社会でのイノベーションの担い手として課題を論理的に探求し克服していくための実践的基礎力を培う。 5. 看護学部：Society 5.0時代に対応するため、数理・データサイエンス・AIの基礎を理解し、データの収集・分析・可視化する能力を修得することで、科学的根拠に基づいた課題解決の提案力を養い、看護職として活躍できる実践的基礎力を培う。 このように、すべての学部の、すべての学生に学ぶことの意義を明確にし、数理・データサイエンス・AIの基礎知識を深めた上で、学生間および学生・教員間のコミュニケーションを図り、学生自身が各分野の専門性の高いデータを可視化することで、数理・データサイエンス・AIの理解が深まり、データの可視化や解釈への好奇心が高まるよう工夫しており、楽しく学べる学習環境を提供している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	本教育プログラムにおいて、アクティブラーニングで修学する科目「数理・データサイエンス・AI入門」で用いる全5学部共通のオンデマンド教材（生成AIを含む）は、国立大学法人静岡大学の数理データサイエンス教育プロジェクト研究所にて作成された教材を本学で利用することの契約下で利用している。本学の受講生の特性を鑑みて、受講内容を確認する小問題は、本学の推進部門と自己点検・評価部門の教員が意見交換を重ねて作成しており、単位を認定する課題も本学の同教員が作成している。すべての学部の、すべての学生が履修するPC演習を含むデータリテラシーの科目（生成AIの授業を含む・含める）とともに、本教育プログラムの全2科目の内容や水準は、受講確認の小テストの正答率や、課題レポート（定期試験を含む）などの成績に基づく修学度、出席状況、および、学生（授業評価）アンケート結果を自己点検・評価部門で解析し、その結果を推進部門にフィードバックして、本教育プログラムをより良いものにPDCAサイクルする。また、その結果は、全5学部の各学部にフィードバックし、本教育プログラムの科目以外においても活用されるようして、各学部の専門分野に役立ててもらうようにして「AI」とのダブルメジャーの特性を高めることで、学生の興味・関心と修学の意欲を高める。「知りたい」という意欲が、「分かりやすさ」となり修学度が高まるように工夫する。さらに、東海デジタル人材育成プラットホームの教育モジュール検討会議、カリキュラムモジュール検討会議、会員企業からの産業界の取組紹介など、他大学や企業の視点・外部評価を組み入れて、本教育プログラムの内容・水準を維持・向上し、より「分かりやすい」授業とする。 なお、文系学生への課題の難易度と分量を考慮し、すべての学生の修学度と満足度が高い状態を維持しつつ、分かりやすいAI・生成AIの授業内容を増やし、AI・生成AIの講義内容を展開するよう、本教育プログラムを精査し改善を進める。

【科目名】	数理・データサイエンス・AI入門		Introduction to Mathematics, Data Science and Artificial Intelligence		
【開講時期】	2024年度前期		【開講時限】	月曜6限	
【科目責任者】	武藤伸明				
【担当教員】	武藤伸明、六井淳、栗木清典、中野祥吾、橋本博、伊藤由彦、青山知靖、宮崎晋生、堀芽久美、山田紋子				
【授業目標】	現在社会のさまざまな局面で活用される、数理・データサイエンス・AI と関連する情報技術について、基本的な概念や考え方を学ぶ。				
【授業概要】	数理・データサイエンス・AI を構成し支える学問や技術、その応用について学習する。特に次のことを学ぶ。 1. 数理・データサイエンス・AI が現代社会の基盤をなすものであることを理解し、各分野における活用事例を学ぶ 2. データから特徴を抽出し、可視化する方法を理解し、より高度なデータ分析の例を学ぶ 3. 個人情報保護やデータの収集や活用における倫理、データを活用する社会におけるリスクを学ぶ 4. データサイエンスに関連する情報技術や人工知能技術を学ぶ				
【授業方法】	オンデマンド形式で授業を実施する。数理・データサイエンス・AI について動画を視聴する。授業は全 8 回で、授業への取り組みと試験またはレポートにより成績評価する。				
【授業展開】	1. ビックデータと AI、社会における活用 2. 統計学入門 ―尺度水準と代表値― 3. データの可視化 4. データの関係を調べる ―相関係数、回帰直線、相関関係と因果関係― 5. データ分析の流れ ―データの収集、データの保存、前処理、データの前処理、分析手法の選択、回帰分析― 6. データの取り扱い 1 ―個人情報保護法、データの取り扱いに関する注意、情報セキュリティ― 7. データの取り扱い 2 ―情報の信頼性、改竄、再現性、チャンピオンデータ― 8. PPDAC サイクル、人工知能と機械学習				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	授業への取り組み（50%）と試験またはレポート（50%）により成績評価する。他人のレポートをコピーした場合、成績を不可とする。				
【テキスト】	動画による講義資料として配信する。				
【参考書】	授業中に適宜指示する。				
【備考】	・令和 6 年度以降入学生は必修科目であり、卒業要件に該当する。ただし、進級要件については各学部の定めによる。 ・【遠隔授業】オンデマンド形式で授業を実施する。 参考資料: 文部科学省 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル） https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00002.htm				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	科学演習		Scientific Practice		
【配当年次】	1年	【必修・選択】	両学科必修	【授業区分】	前期(週間授業、実習)、後期(実習)
【科目責任者】	吉成浩一、石川智久、橋本博、木村俊秀				
【担当教員】	吉成浩一、石川智久、橋本博、木村俊秀、ホークフィリップ、原幸大、伊藤由彦、金子雪子、志津怜太、菱木麻美、山口桃生、保坂卓臣、渕上壮太郎他				
【ディプロマー対応】	薬科学科：DP5、薬学科：DP1, 2, 3, 5				
【授業目標】					
●科目のねらい	薬学を含む生命科学や医療に関わる社会的問題をとりあげ、それらの問題を調査し、日本語と英語で発表、討議を行うことで、薬学人・医療人の社会における役割を理解する。さらに、それらの議論を通して、基本的なデータの整理やプレゼンテーション及びコミュニケーションに必要な技術を学修する。本科目は、薬学的知見の発揮によって得られる成果(アウトカム)の可視化に生かすことを目的とする。				
●学修目標	・生命・医療に係る倫理観を身に付け、医療人としての感性を養い、様々な倫理的問題や倫理的状況において主体的に判断し、プロフェッショナルとして行動する。 ・医療における統計資料を把握し、国民の健康と医療安全を確保するための施策を講ずる上で、統計資料やデータを利活用する重要性を説明する。 ・デジタル技術の利活用に係る課題について理解を深め、デジタル技術に係る倫理・法律・制度・規範を遵守して、環境や状況に応じ適切な判断に基づいて利活用する重要性を認識する。 ・医療に関わるインターネット上の情報について、その作成機関や背景を確認した上で、適切に使用する。 ・医学・薬学文献データベースについて、そのデータベースの特徴を理解し、検索におけるシソーラスの役割を理解して適切に検索する。 ・調査目的に対して収集した情報をその情報のエビデンスの質や、信頼性、妥当性に配慮しながら解析・評価する。 ・収集した情報をデジタル技術を用いて効率よく集計・解析し、効果的な図表表現を用いて適切に表現する。 ・関係者と相互理解を図り、信頼関係を構築した上で、他者の意見又は記述された文章を正しく理解し、それに対する自分の意見を効果的な説明方法や手段を用いて明確に表現する。				
【授業展開】	1. ガイダンス 2. コンピュータ・リテラシー（1）：プレゼンテーションソフトの基本 3. コンピュータ・リテラシー（2）： 表計算ソフトの基本（表計算とグラフの作成） 4. コンピュータ・リテラシー（3）： 表計算ソフトを用いたデータの整理（1）（データの集計とスプレッドシート） 5. コンピュータ・リテラシー（4）： 表計算ソフトを用いたデータの整理（2）（データの解析） 6. 日本語ディベート（1）：プレゼンテーションの練習（1） 7. 日本語ディベート（2）：プレゼンテーションの練習（2） 8. 日本語ディベート（3）：プレゼンテーション本番（1） 9. 日本語ディベート（4）：プレゼンテーション本番（2） 10. 英語によるディベート（1）：英語によるプレゼンテーション・コミュニケーション入門 11. 英語によるディベート（2）：英語によるプレゼンテーション準備 12. 英語によるディベート（3）：英語によるプレゼンテーション本番				
【事前学習・事後学習】	事前学習：講義資料の該当頁の通読 事後学習：授業内容の整理、復習				
【科目区分・履修条件】	共通基礎科目				
【評価方法】	原則として演習への取り組み75%、レポート・課題25%とし、演習態度を考慮して総合的に評価する。 全ての演習への出席が単位認定に必須である。				
【テキスト】	プリント（担当教員から配布予定）				
【参考書】	化学するアタマ：論理的思考力を鍛える本、J.ギャラット他著、山崎昶訳（化学同人） 学生・研究者のための使える！PowerPointスライドデザイン、宮野公樹著（化学同人）				
【備考】	原則、対面講義で行う。 また、ディスカッション、プレゼンテーション、ディベートを実施する。				
【コアカリ対応(薬学科)】					
【●担当学修目標番号】	B-1-1, 1); B-5-1, 1); B-5-2, 2); D-3-2, 6),7); D-3-3, 1); F-5-1, 3)				
【●関連学修目標番号】	B-1-1, 2),3),4); B-1-3, 1),3); B-2-2, 2); B-5-1, 2),3); B-5-2, 1),3); B-5-3, 1); D-3-2, 8); D-3-3, 2); D-3-4, 2); F-5-1, 2),5); G-1-1, 1)				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	情報科学演習		情報科学演習		
【開講学科】	食品生命科学科	【必修・選択】	学部基礎・必修	【単位数】	1.0単位
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度前期	【オフィスアワー】	月～金 12:10～ 13:00、部屋番号5207（代表：島村）
【科目責任者】	中野祥吾				
【担当教員】	中野祥吾、島村裕子、寺田祐子、本田千尋				
【授業目標】					
●授業目的	パーソナルコンピューター（PC）を用いたデータ処理（文書作成、プレゼンテーション、数値データの処理）、インターネットを介したデータ収集方法とそれを読み解く力を養い、実際のPC操作によりデータを扱い、Word、PowerPointおよびExcelの基本的な操作方法を習得する。本講義を通してデータの可視化・集計の方法を学び、データを適切に読み解き、扱うための基礎的な知識を習得する。				
●到達目標	1. PCを用いて電子メールの送受信ができる。(C) 2. MS-Wordを用いて文書作成ができる。(C) 3. MS-PowerPointを用いたプレゼンテーションにより、データを適切に説明できる。(C) 4. MS-Excelを用いてデータを扱い、表計算および図表の作成ができる。(C) 5. インターネットを介して食に関するデータを収集、適切に読み解き、それらを表やグラフにできる。(F, G)				
【授業展開】	項　　目　　内　　容 1 コンピュータの基本操作とネットワーク　【ログオンからメールの設定まで】 　学内メールアドレス等の設定・利用ができるようにする。(中野、島村、寺田、本田) 2 電子メールの基本操作と情報検索　【電子メールおよび情報検索の基礎知識】 　電子メールの作成およびインターネットを介した適切なデータ検索ができるようにする。(島村、寺田、本田) 3 MS-Wordを用いた文書作成I　【写真や図の挿入、レイアウト、実用文書の作成】 　Wordの基本的な操作方法を理解できるようにする。(寺田) 4 MS-Wordを用いた文書作成II　【写真や図の挿入、レイアウト】 　写真や図の挿入および一般的な実用文書を作成できるようにする。(寺田) 5 MS-Wordを用いた文書作成III　【課題作成】 　レポートの作成ができるようにする。(寺田) 6 MS-PowerPointを用いたプレゼンテーションI　【プレゼンテーションの基本知識】 　プレゼンデーションの基礎を理解して利用できるようにする。(本田) 7 MS-PowerPointを用いたプレゼンテーションII　【プレゼンテーションの構成要素と表現】 　プレゼンテーションの作成法とデータの図表表現およびChemDrawの操作法について学び、作成したプレゼンテーションを添付書類として提出できるようにする。(本田) 8 MS-PowerPointを用いたプレゼンテーションIV　【課題の発表、優れた可視化事例の紹介】 　プレゼンテーションによりデータを適切に説明できるようにする。(本田) 9 MS-Excelの利用法I　【表計算の概念と基本操作】 　データの種類を理解し、四則演算を使った計算および表を作成できるようにする。(島村) 10 MS-Excelの利用法II　【表計算を用いたデータ処理とグラフ作成】 　データの分布と代表値を理解し、適切なグラフを作成できるようにする。(島村) 11 MS-Excelの利用法III　【セル参照とセルの固定、相関と因果】 　セル参照、データの並び替え、散布図と相関について理解できるようにする。(島村) 12 MS-Excelの利用法IV　【データの適切な理解】 　打ち切りや脱落を含むデータ、母集団と標本抽出、分割表とクロス集計表などについて学び、統計情報を正しく理解できるようにする。(島村) 13 MS-Excelの利用法V　【データのばらつきと誤差の扱い】 　データの集計を行い、ばらつきを示すことができるようにする。(島村) 14 講義のまとめ1　【講義全体のまとめ】 　ExcelでPowerPointで編集し、Wordに貼り付けて資料を仕上げるまでの一連の操作ができるようにする。(島村) 15 講義のまとめ2　【総合演習】 　MS-Officeの機能を活用して課題を作成し、添付書類として提出できるようにする。(島村、寺田、本田)				
【評価方法】	講義後に出された各課題を成績評価の対象とする。100点満点（MS-Word、MS-PowerPoint、MS-Excelの各課題25点および試験25点）で、MS-Word、MS-PowerPoint、MS-Excelの3つのソフトの機能を理解し、データを適切に扱い、読み解き、説明できることを合格点（60点以上）とする。 各課題、試験の内容：MS-Word（講義時指示した内容でのレポート作成）、MS-PowerPoint（講義時指示した内容での口頭発表）、MS-Excel（インターネットを介したデータ収集およびグラフの作成）、実技試験（MS-Officeの機能を活用したレポート作成）。				
【テキスト】	特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布する。また、適宜課題を提示する。				
【参考書】					
【その他（注意事項）】	実技試験の受験資格として3分の2以上の出席を必要とする。 適宜課題を配布するとともに、課題を採点後に返却するので自主学習に活用すること。 JABEE関連項目（食品生命科学科） JABEE学習・教育到達目標との対応：C(◎)、F(○)、G(○)				

【授業評価の意見に対する対応】	授業評価は5段階評価で平均が4.84であったが、PowerPointの投影に注意を払うとともに学生とのコミュニケーションをより大切にするよう心がける。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	情報科学		Computer Science		
【開講学科】	栄養生命科学科	【必修・選択】	学部専門・必修 管理栄養士・必修 栄養士・必修	【単位数】	2.0単位
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度前期	【オフィスアワー】	月～金 12:10～12:50 部屋番号 5321 (栗木) 水 5限 部屋番号5127 (太田)
【科目責任者】	栗木清典				
【担当教員】	栗木清典、太田敏郎、榛葉有希				
【授業目標】					
●授業目的	パーソナルコンピューター(PC)の性能の向上と高速なネットワークの普及により、PCを道具として使いこなす技術は今や必要不可欠である。この授業では、主としてPCを用いた情報処理(文書作成、プレゼンテーション、数値データ処理とグラフ作成)などについて、実際のコンピュータの操作を含めて解説する。				
●到達目標	1. 情報リテラシーについて理解する。 2. パーソナルコンピューター(PC)を用いて電子メールの送受信ができる。 3. Web学生サービス支援システム(UNIVERSAL PASSPORT)を利用できる。 4. インターネットの危険性を理解した上で情報の検索や収集に利用できる。 5. MS-Wordを用いて文書作成ができる。 6. MS-PowerPointを用いてプレゼンテーションを行える。 7. MS-Excelを用いて表計算やグラフ作成ができる。 8. 政府統計データから、「食と健康」の課題を見つけることができる。				
【授業展開】	項目 1 コンピュータの基本操作：ログイン、学内メールの設定など 2 MS-Wordを用いた文書作成I：文字入力とMS-Wordの基本操作 3 MS-Wordを用いた文書作成II：基本的な文書の作成 4 MS-Wordを用いた文書作成III：様々なレイアウトの文書作成 5 MS-Wordを用いた文書作成IV：自己紹介文の作成I 6 MS-Wordを用いた文書作成V：自己紹介文の作成II 7 MS-Wordを用いた文書作成VI：課題文の作成 8 MS-PowerPointの利用法I：プレゼンテーションの基礎知識 9 MS-PowerPointの利用法II：プレゼンテーションの構成要素と表現 10 MS-PowerPointの利用法III：プレゼンテーション課題の作成I 11 MS-PowerPointの利用法IV：プレゼンテーション課題の作成II 12 MS-PowerPointの利用法V：プレゼンテーション課題の発表 13 MS-Excelの利用法I：論理関数とグラフ（データの集計、並び替え、各種のグラフ作成） 14 MS-Excelの利用法II：データ解析（データの種類、図表化、データの比較、データ解析ツール） 15 MS-Excelの利用法III：Excelを用いた実習「ボルケーノプロットを用いた運動後の血中メタボローム可視化」 16 政府統計データの検索：政府統計データで「食と健康」の課題を見つける （一部の講義内容や順番は変わる場合があります）				
【評価方法】	成績は課題の提出状況と内容によって100%評価し、100点満点で60点以上を合格とする。 ただし、成績評価の要件として3分の2以上出席すること。				
【テキスト】	特定のテキストは使用せず、プリント等を教材として利用する。				
【参考書】					
【その他（注意事項)】	初心者には授業時間のみの実習では不十分であるので、コンピュータ実習室や家庭での自習が必要不可欠である。 他の授業との関連で授業内容の順番を入れ替えること、担当者によって取り上げる内容を変更することや担当者が変更になることがある。 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行時の授業や、対策を講じた授業となる場合 ・フィジカル・ディスタンスを保つなど感染症防止対策に留意して授業を行う。 ・授業は対面で開講する予定であるが状況によってはオンライン開講もありうる。				
【授業評価の意見に対する対応】	進むのが速くてついていけない時があるという意見が少数ながら出るので、個別に対応するなど遅れがちな学生へのサポートを心がけている。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	情報科学		Computer Science		
【開講学科】	環境生命科学科	【必修・選択】	学部基礎科目・必修	【単位数】	2.0単位
【配当年次】	1年	【開講時期】	2024年度前期	【オフィスアワー】	毎日AM9:00-10:30（代表：唐木）12309室
【科目責任者】	唐木晋一郎				
【担当教員】	唐木晋一郎、藁科力、岩瀬麻里				
【授業目標】					
●授業目的	現代の社会活動において、コンピューターと情報ネットワーク（インターネット）を利用して情報を収集し、収集した情報（データ）を解析・処理して、文書・プレゼンテーションを作成し、発信する知識と技術は、必須のスキルとなっている。本講義では、パーソナルコンピューター（PC）を用いたデータ通信（e-mail, クラウド利用)、情報・データリテラシー基礎、Excelを用いたデータ集計・解析・表現、Wordを用いた文書（レポート・論文）作成、ChemDrawを用いた化学構造式の作図、Powerpointを用いたプレゼンテーション（ポスター、スライド、動画）作成と発表（対面、オンライン）についての知識と技術、実践力を身に着けることを目的とする。				
●到達目標	1. 基本的なPCやネットワークの仕組みを理解し、インターネットを用いた情報の収集や発信、クラウド利用を安全・適切に行うことができる 2. 情報・データリテラシーの基礎を身に着けている 3. 表計算ソフトウェア（MS-Excel）を用いて、データを集計・解析し、適切なグラフや表の作成ができる 4. 文書作成ソフトウェア（MS-Word）を用いて、レポート・論文作成ができる 5. 簡単な化学構造式の作図ができる（ChemDraw） 6. プレゼンテーション・ソフトウェア（MS-PowerPoint）を用いてプレゼンテーション（ポスター、スライド、動画）を作成し、対面・オンラインで発表することができる				
【授業展開】	1. 学内のPC・ポータシステムの利用法・授業ガイダンス ・PC室、県大ポータルサイト・WEBメール、WEB学生支援システム（ユニバーサル・パスポート）の利用法 ・Windows, MS-Officeの利用法（各自のPCへのインストール方法、OneDriveの使い方他） ・授業ガイダンス：　課題、プレゼン発表会、成績について 2. オペレーティング・システム(OS)、Officeソフトウェアとは ・OS／Officeソフトウェアの役割・歴史・種類、WindowsとMS-Officeの基本操作、タッチタイプ 3. 情報・データリテラシー基礎 ・「情報・データ」とは何か：情報の定量的尺度、データの種類・母集団と標本抽出・分布と代表値・ばらつき・誤差 4. Excelの基礎 ・表計算ソフトとは ・Excelの基本操作（セルと参照、関数）とデータの扱い（集計・並び替え・ランキング・CSV） 5. Excelを用いたデータ解析と表現① ・Excelでのデータ解析（分布・代表値・ばらつき・誤差）とグラフ表現（棒グラフ・折れ線グラフ・散布図・ヒートマップ） ・チャートジャンク 6. Excelを用いたデータ解析と表現② ・Excelでのデータ解析（回帰直線・相関係数・決定係数）と有意差検定（f検定・t検定） ・優れた可視化事例の紹介 7. Wordの基礎 ・Word文書のページ設定・ヘッダーとフッター・編集記号・フォント・段落、Wordで作製されたレポート・卒業論文の例 8. Wordを用いたレポート・論文（卒業論文）作成テクニック① ・スタイル・アウトライン、図・表・数式の挿入と相互参照 9. Wordを用いたレポート・論文（卒業論文）作成テクニック② ・セクション、目次の自動生成法 10. ChemDraw の基本操作と課題提出 11. PowerPointの基礎 ・プレゼンテーションとは ・PowerPointを用いたポスター・プレゼン作成法 12. PowerPointによるプレゼン作成法（発展） ・発表者ツール、PowerPointによる動画作成法 13. PowerPointによるプレゼン作成の準備と練習 14. プレゼン発表会 ① 15. プレゼン発表会 ②				
【評価方法】	Excel課題（30)、Word課題（30)、ChemDraw課題（10)、PowerPoint課題（10)、プレゼン発表（20）				
【テキスト】	特定のテキストは使用しない。				
【参考書】					
【その他（注意事項)】	各自、USBメモリを用意してくること（作成した課題のデータや素材を保存するため)。				
【授業評価の意見に対する対応】	担当教員に申し出ること。				

【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	

【科目名】	コンピュータ・リテラシー (a)		Computer Literacy		
【科目種別】	LC1アカデミック・リテラシー（国際関係学科） LC1アカデミック・リテラシー（国際言語文化学科）		【配当年次】	1・2	
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	金曜5限	【オフィス・アワー】	木曜3限
【科目責任者】	青山知靖				
【担当教員】	青山知靖				
【授業目標】					
●授業目的	Windowsパソコンによる文書作成・プレゼンテーションの基礎的な技術・知識を習得する。				
●到達目標	1. インターネットやコンピューター実習室の利用についての本学独自のルールを理解し、技術を習得する。 2. Microsoft Officeの機能を組み合わせて、定型文書や学術レポートを作成・編集する。 3. プレゼンテーションに必要となる機器やソフトウェアを適切に選定・設営する。 4. 他の受講者のプレゼンテーションを建設的に批判する。				
【授業概要】	本学での学生生活を送る上で欠かせないWindowsパソコンによる文書作成の基礎的な技術を習得する。Excelを活用したデータの可視化・集計の方法を学び、データを適切に読み解き、扱うための基礎的な知識を習得する。インターネット時代の大学生が身につけておくべきルールやマナーを理解する。				
【授業方法】	実習形式で授業を進めていく。もちろん、予習・復習が重要であることは言うまでもない。コンピューター実習室を活用し、授業時間外の活動を行うこと。				
【授業展開】	受講者の興味関心に応じて、内容や進度を柔軟に変更していく。 1. 初回ガイダンス　コンピューター実習室利用者講習、担当教員の自己紹介 2. 電子メール　Active! Mailの操作、メール利用のルールとマナー、教職員とのコミュニケーション 3. 効率のよいパソコン操作　タッチタイピング、ショートカットキー 4. World Wide Web 効率的な情報検索、情報・データの引用・参照 5. Word（1）　ドキュメント作成の基礎、定型文書・学術レポートの作成、マルチメディアデータの挿入 6. Word（2）　ドキュメント作成の応用、読者の視点からのデザイン、多言語入力の基礎 7. Excel（1）　データの可視化、集計、読み解きの基礎、合計・平均の算出 8. Excel（2）　データの可視化、集計、読み解きの応用、標準偏差・偏差値の解釈 9. PowerPoint（1）　スライドショー作成の基礎、図表の作成 10. PowerPoint（2）　読者の視点からのデザイン、スライドショー設定の基礎 11. PowerPoint（3）　クラウドコンピューティング時代のプレゼンテーション、モバイル端末との連携 12. 情報セキュリティ・モラル　ICT活用の最新動向・時事問題の分析 13. 語学学習とICT活用　自習支援サービスの批判的検討、オリジナル教材の作成 14. プレゼンテーション実習（1）　プレゼンテーション機器の設営、プレゼンテーションとピアレビューの実施 15. プレゼンテーション実習（2）　プレゼンテーション機器の設営、プレゼンテーションとピアレビューの実施				
【履修条件】	1. パソコンの操作やプレゼンテーションの実施についての苦手意識や不安を克服する意思を持つこと。 2. 自己研鑽に努め、課題に真摯に取り組むこと。他の受講者のスキルアップを支援する姿勢を持つこと。				
【評価方法】	欠席回数が3回以上の場合、評価は「不可」とする。7月末までにタッチタイピング技能が実務レベルに達しない場合、評価を1段階下げる。期末試験は実施しない。				
【テキスト】	指定しない。				
【参考書】	さらなるスキルアップのために購入してほしい。 『よくわかる Word 2021 & Excel 2021 & PowerPoint 2021』、2022年、株式会社富士通ラーニングメディア、FOM出版、2,640円 『学校教育と情報機器』、2018年、堀田博史・森田健宏（編著）、ミネルヴァ書房、2200円+税				
【備考】	本授業は対面授業形式で実施する。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	コンピュータ・リテラシー (b)		Computer Literacy		
【科目種別】	LC1アカデミック・リテラシー（国際関係学科） LC1アカデミック・リテラシー（国際言語文化学科）		【配当年次】	1・2	
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	月曜5限	【オフィス・アワー】	授業の終了後に質問してください。メールでの問い合わせも受け付けます。
【科目責任者】	天野 豊己				
【担当教員】	天野 豊己				
【授業目標】					
●授業目的	レポートや論文を書くために、マイクロソフトオフィスの使用方法と著作権について理解し、インターネットから必要な情報を引き出しそれらを活用できるようになる。				
●到達目標	パーソナルコンピュータなど情報機器の基本的知識と操作技能を修得する。				
【授業概要】	コンピュータやインターネットの基本的なしくみや用語を解説するとともに、オペレーティングシステムの操作、電子メールの送受信、インターネットの利用、ワープロソフトによる文書の作成、表計算・データベース・ソフトによるデータ処理やグラフ作成、プレゼンソフトを用いたデジタルプレゼンテーションなどの実習を行う。Excelを活用したデータの可視化・集計の方法を学び、データを適切に読み解き、扱うための基礎的な知識を習得する。				
【授業方法】	演習を基本として授業を進める。課題提出はメールもしくはUNIVERSAL PASSPORTを用いる。				
【授業展開】	1. Word 2019 さあ、はじめよう 2. Word 2019 文書を作成しよう 3. Word 2019 グラフィック機能を使ってみよう 4. Word 2019 表のある文書を作成しよう 5. Excel 2019 さあ、はじめよう- データの可視化、集計、読み解き 6. Excel 2019 データを入力しよう 7. Excel 2019 表を作成しよう 8. Excel 2019 グラフを作成しよう 9. Excel 2019 データを分析しよう 10. PowerPoint 2019 さあ、はじめよう 11. PowerPoint 2019 プレゼンテーションを作成しよう 12. PowerPoint 2019 スライドショーを実行しよう 13. アプリ間でデータを共有しよう 14. 総合問題 15. 著作権への対応法				
【履修条件】	予習・復習を行うこと。				
【評価方法】	出席状況と課題の提出状況、期末試験などに基づいて評価する。				
【テキスト】	よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019 富士通エフ・オー・エム株式会社著 制作 税込価格： 2,640（本体 ： 2,400） 出版 ： ＦＯＭ出版 サイズ ： A4変型判 / 325ページ ISBN ： 978-4-86510-399-1 発行年月 ： 2019年6月17日				
【参考書】					
【備考】	主に初級者向けに、大学生活に役立つパソコンの使い方について解説します。パソコンにはじめて触れる方を中心にやさしく進める予定です。質問がありましたら、amano.toyoki@shizuoka.ac.jpまでお願いします。可能であれば各自でパソコンを購入し、自宅でも活用すると上達が早いと思います。				
【社会人聴講生】	特別な措置なく正規受講生と同等に履修できる方なら可。	【科目等履修生】	特別な措置なく正規受講生と同等に履修できる方なら可。	【交換留学生】	特別な措置なく正規受講生と同等に履修できる方なら可。授業は日本語で行う。

【科目名】	コンピュータ・リテラシー (c)		Computer Literacy		
【科目種別】	LC1アカデミック・リテラシー（国際関係学科） LC1アカデミック・リテラシー（国際言語文化学科）		【配当年次】	1・2	
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	金曜1限	【オフィス・アワー】	授業直後の10:30-10:40頃。それ以外は、電子メール（「@u-shizuoka-ken.ac.jp」の前に半角アルファベットの「takeuchi」をつけたアドレスまたは「@shizuoka.ac.jp」の前に半角アルファベットの「takeuchi.hiroaki」をつけたアドレス）で対応します。
【科目責任者】	竹内　浩昭				
【担当教員】	竹内　浩昭				
【授業目標】					
●授業目的	パーソナルコンピュータ（パソコン）など情報機器やインターネットを適切に利用する。				
●到達目標	パーソナルコンピュータ（パソコン）など情報機器やインターネットを適切に利用するため、それらの基本的知識と操作技能を修得する。 具体的には、(1) コンピュータを介したコミュニケーションができるようになる、(2) 高度な文書やグラフの作成や複雑な計算を行うためにワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトといったOfficeソフトウェアが利用できるようになる、(3)「情報」を適切に扱うことができるようになる、(4) コミュニケーションツールとしてコンピュータを適切に利用できるようになる、(5) 基本的なデータ処理を表計算ソフトで行うことができるようになることを目指します。				
【授業概要】	コンピュータの操作と情報処理・データサイエンスの基本を学習します。 具体的には、電子メール、ブラウザ、情報倫理、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの知識と利用方法を学習します。 また、Excelを活用したデータの可視化・集計の方法を学び、データを適切に読み解き、扱うための基礎的な知識を習得します。				
【授業方法】	実習室のパソコンを一人一台用い、教科書や参考資料に沿って演習・実習を行う。 ほぼ毎回の授業でメールあるいはインターネット（UNIVERSAL PASSPORT）を利用した課題提出（4～8月に総数40～70件程度）を求める。				
【授業展開】	01　ユーザID・パスワードの管理，電子メール（Webメール）の設定 02　情報機器の基本（UNIVERSAL PASSPORT操作，PC操作と情報倫理） 03　インターネットを使ったコミュニケーション（ネットワークエチケット） 04　インターネットサービスの活用１（ブラウザを使った情報検索） 05　インターネットサービスの活用２（画像検索・地図検索・旅程検索・データ処理） 06　ドキュメント作成１（ワープロソフトWordの基本操作） 07　ドキュメント作成２（ワープロソフトWordによる書式設定，作表） 08　ドキュメント作成３（ワープロソフトWordによる数式ツール，作図） 09　データ処理１（表計算ソフトExcelの基本操作） 10　データ処理２（表計算ソフトExcelによるデータの集計・読み解き，関数の基礎） 11　データ処理３（表計算ソフトExcelによるデータの集計・読み解き，関数の応用） 12　データ処理４（表計算ソフトExcelによるデータの分析・可視化） 13　プレゼンテーション１（プレゼンソフトPowerPointの基本操作） 14　プレゼンテーション２（プレゼンソフトPowerPointによる動きのあるプレゼン） 15　プレゼンテーション３（プレゼンソフトPowerPointによる動画作成）				
【履修条件】	授業に遅刻せず出席し、授業中は集中して作業できること。 充分な予習・復習を行い、電子メールおよび UNIVERSAL PASSPORT を用いて課題の提出ができること。				
【評価方法】	授業への取り組みと課題の提出状況・完成度、期末試験・期末レポートの成績などに基づいて評価する。				
【テキスト】	Let's Enjoy Computing [2024] — 情報処理・データサイエンス演習 —, 静岡大学情報教育プロジェクト編，学術図書出版社，2024. 2024年３月発刊予定				
【参考書】	参考資料を UNIVERSAL PASSPORT で提示または配付します。				
【備考】	質問があれば、なるべく授業中あるいは授業直後にしてください。 ただし、電子メールでの質問にも対応します。 可能であれば各自でパソコンを購入し、大学でも自宅でも活用することを心掛けてください。				
【社会人聴講生】	条件付きで受入 社会人聴講生に対する特別な配慮がなくても国際	【科目等履修生】	条件付きで受入 科目等履修生に対する特別な配慮がなくても国際	【交換留学生】	

	関係学部１年生と同じ程度に授業内容が理解できると予想される方のみ受け入れます。 端末PCの台数に限りがあるので、正規受講生の受講に影響が出ない程度の人数のみ受け入れ可能。		関係学部１年生と同じ程度に授業内容が理解できると予想される方のみ受け入れます。 端末PCの台数に限りがあるので、正規受講生の受講に影響が出ない程度の人数のみ受け入れ可能。		

【科目名】	コンピュータ・リテラシー (d)		Computer Literacy		
【科目種別】	LC1アカデミック・リテラシー（国際関係学科） LC1アカデミック・リテラシー（国際言語文化学科）		【配当年次】	1・2	
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	月曜1限	【オフィス・アワー】	授業終了時に相談してください．また電子メールでも対応します．
【科目責任者】	坂本 孝丈				
【担当教員】	坂本 孝丈				
【授業目標】					
●授業目的	あらゆる分野の課題解決や研究活動において情報技術を使いこなすことが必須のスキルになりつつあります．そこで，情報技術の基礎的な知識を身に着け，実際に情報技術を活用するためのスキルを獲得できるようになることを目指します．				
●到達目標	大学における学習/研究活動に必要とされる情報技術の基本的知識と基本的技能を習得します．				
【授業概要】	本授業では, 情報社会で必要な情報技術の基本的知識と基本的技能を習得します．具体的には，コンピュータの基本的なしくみや用語の理解，オペレーティングシステム（OS）の操作，ワープロソフトによる文書の作成，電子メール，インターネット情報検索とネットワークの利用に関する知識を習得します．Excelを活用したデータの可視化・集計の方法を学び，データを適切に読み解き，扱うための基礎的な知識を習得します．図表やプレゼンテーション資料の作成を行います．				
【授業方法】	実習形式で行います．課題提出は適宜あります．提出はUniversal Passportまたはメールで行う必要があります．				
【授業展開】	1. アカウントの取得と電子メールの送受信設定 2. 情報技術の発展と情報リテラシー 3. OS，Word，Excel，PowerPoint の基本的な利用方法 4. 電子メールの利用法 (1)：メールの仕組みとメールソフト 5. 電子メールの利用法 (2)：メール送信時のマナー 6. 情報検索と調べ学習 (1)：インターネットの仕組みと利用方法 7. 情報検索と調べ学習 (2)：文献の調査 8. WordやExcel による参考文献のまとめ方 9. Word (1)：レポートや論文の書き方 10. Word (2)： 応用的な機能の活用 11. Excel（1)：基本操作と計算 12. Excel（2)：データの可視化，集計，読み解き 13. Excel（3)：データの可視化，集計，読み解きに関する応用的な機能の活用 14. PowerPoint (1)：スライドの作成 15. PowerPoint (2)：プレゼンテーションの方法				
【履修条件】	高等学校必修科目「情報」の履修を想定しています． 授業出席の際にはUSBメモリ（初回に紹介）を必ず持参のこと．				
【評価方法】	評価は，実習で作成したファイルの提出，最終課題（レポート）により行います．実習を主体とする科目であるため，出席（実習で作成したファイルの提出）を重視します．				
【テキスト】	テキストは指定しませんが，電子メール，Word，Excel，PowerPoint 等の情報処理に関するマニュアルは適宜参照ください．なお，授業資料はウェブサイトを通じて閲覧できますので，テキストがなくても授業の進行上問題が生じることはありません．ウェブサイトでは，具体的な図を用いた操作方法の説明，演習問題の提示があります．授業時には，ウェブサイトを閲覧しながら操作の演習を通じて技能の習熟をはかります．				
【参考書】	若山 芳三郎, 学生のための情報リテラシー Office 2016/Windows 10 版, 東京電機大学出版局 (2016). 草薙信照, 植松康祐: 文科系のためのコンピュータリテラシ [第 5 版]：Microsoft Office による サイエンス社(2011). 矢沢久雄, コンピュータはなぜ動くのか：知っておきたいハードウエア&ソフトウエアの基礎知識, 日経 BP社 (2003). 佐藤望他: アカデミック・スキルズ大学生のための知的技法入門 第 2 版, 慶応義塾大学出版会 (2012). モーティマー・J. アドラー, C.V. ドーレン, 本を読む本, 講談社 (1997). 井下千以子, 思考を鍛えるレポート・論文作成法, 慶應義塾大学出版会 (2014). ウンベルト・エーコ, 論文作法：調査・研究・執筆の技術と手順, 教養諸学シリーズ, 而立書房 (1991)				
【備考】	情報リテラシー，電子メール，学術文献検索，HTML，ワープロ，表計算，メール，プレゼンテーション				
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】	

【科目名】	コンピュータ・リテラシー (e)		Computer Literacy		
【科目種別】	LC1アカデミック・リテラシー（国際関係学科） LC1アカデミック・リテラシー（国際言語文化学科）		【配当年次】	1・2	
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	月曜2限	【オフィス・アワー】	授業終了時に相談してください．また電子メールでも対応します．
【科目責任者】	坂本 孝丈				
【担当教員】	坂本 孝丈				
【授業目標】					
●授業目的	あらゆる分野の課題解決や研究活動において情報技術を使いこなすことが必須のスキルになりつつあります．そこで，情報技術の基礎的な知識を身に着け，実際に情報技術を活用するためのスキルを獲得できるようになることを目指します．				
●到達目標	大学における学習/研究活動に必要とされる情報技術の基本的知識と基本的技能を習得します．				
【授業概要】	本授業では, 情報社会で必要な情報技術の基本的知識と基本的技能を習得します．具体的には，コンピュータの基本的なしくみや用語の理解，オペレーティングシステム（OS）の操作，ワープロソフトによる文書の作成，電子メール，インターネット情報検索とネットワークの利用に関する知識を習得します．Excelを活用したデータの可視化・集計の方法を学び，データを適切に読み解き，扱うための基礎的な知識を習得します．図表やプレゼンテーション資料の作成を行います．				
【授業方法】	実習形式で行います．課題提出は適宜あります．提出はUniversal Passportまたはメールで行う必要があります．				
【授業展開】	1. アカウントの取得と電子メールの送受信設定 2. 情報技術の発展と情報リテラシー 3. OS，Word，Excel，PowerPoint の基本的な利用方法 4. 電子メールの利用法 (1)：メールの仕組みとメールソフト 5. 電子メールの利用法 (2)：メール送信時のマナー 6. 情報検索と調べ学習 (1)：インターネットの仕組みと利用方法 7. 情報検索と調べ学習 (2)：文献の調査 8. WordやExcel による参考文献のまとめ方 9. Word (1)：レポートや論文の書き方 10. Word (2)： 応用的な機能の活用 11. Excel（1)：基本操作と計算 12. Excel（2)：データの可視化，集計，読み解き 13. Excel（3)：データの可視化，集計，読み解きに関する応用的な機能の活用 14. PowerPoint (1)：スライドの作成 15. PowerPoint (2)：プレゼンテーションの方法				
【履修条件】	高等学校必修科目「情報」の履修を想定しています． 授業出席の際にはUSBメモリ（初回に紹介）を必ず持参のこと．				
【評価方法】	評価は，実習で作成したファイルの提出，最終課題（レポート）により行います．実習を主体とする科目であるため，出席（実習で作成したファイルの提出）を重視します．				
【テキスト】	テキストは指定しませんが，電子メール，Word，Excel，PowerPoint 等の情報処理に関するマニュアルは適宜参照ください．なお，授業資料はウェブサイトを通じて閲覧できますので，テキストがなくても授業の進行上問題が生じることはありません．ウェブサイトでは，具体的な図を用いた操作方法の説明，演習問題の提示があります．授業時には，ウェブサイトを閲覧しながら操作の演習を通じて技能の習熟をはかります．				
【参考書】	若山 芳三郎, 学生のための情報リテラシー Office 2016/Windows 10 版, 東京電機大学出版局 (2016). 草薙信照, 植松康祐: 文科系のためのコンピュータリテラシ [第 5 版]：Microsoft Office による サイエンス社(2011). 矢沢久雄, コンピュータはなぜ動くのか：知っておきたいハードウエア&ソフトウエアの基礎知識, 日経 BP社 (2003). 佐藤望他: アカデミック・スキルズ大学生のための知的技法入門 第 2 版, 慶応義塾大学出版会 (2012). モーティマー・J. アドラー, C.V. ドーレン, 本を読む本, 講談社 (1997). 井下千以子, 思考を鍛えるレポート・論文作成法, 慶應義塾大学出版会 (2014). ウンベルト・エーコ, 論文作法：調査・研究・執筆の技術と手順, 教養諸学シリーズ, 而立書房 (1991)				
【備考】	情報リテラシー，電子メール，学術文献検索，HTML，ワープロ，表計算，メール，プレゼンテーション				
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】	

【科目名】	コンピュータ・リテラシー (f)		Computer Literacy		
【科目種別】	LC1アカデミック・リテラシー（国際関係学科） LC1アカデミック・リテラシー（国際言語文化学科）		【配当年次】	1・2	
【開講時期】	2024年度後期	【開講時限】	月曜5限	【オフィス・アワー】	授業終了時に相談してください．また電子メールでも対応します．
【科目責任者】	坂本 孝丈				
【担当教員】	坂本 孝丈				
【授業目標】					
●授業目的	自らが主体となり課題を見つけ，調査・探求し，論理的に主張を展開するプロセスにおいて，情報技術をどのように活かせば良いのかについて，実習を通して検討し，身につけることを目指します．				
●到達目標	大学における学習・研究活動，社会生活における課題解決に必要とされる情報技術の基本的知識と基本的技能（電子メールの作法，文献調査法，レポート・論文作成法など）を習得します．				
【授業概要】	本授業では，情報社会で必要な情報技術の基本的知識と基本的技能を習得します. 具体的には, コンピュータの基本的なしくみや用語の理解，オペレーティングシステム（OS）の操作，基本的なアプリケーション（メールソフト，ワープロソフト，表計算ソフト，Webブラウザ，プレゼンテーションソフト）の操作方法の学習を踏まえて，課題解決の方法（課題の発見，文献の調査と整理，データの管理や簡単な処理，レポートや論文の執筆，プレゼンテーションなど）について実習を行います．また，Excelを活用したデータの可視化・集計の方法を学び，データを適切に読み解き，扱うための基礎的な知識を習得します．				
【授業方法】	実習形式で行います．毎回の実習を通して自身で一つのテーマを決め，レポートを完成させていきます．このプロセスの途中経過として各回の授業中に作成した課題の提出が適宜あります．				
【授業展開】	1. アカウントの取得と電子メールの送受信設定 2. 電子メールの利用法 3. 情報技術の発展と情報リテラシー 4. OS，Word，Excel，PowerPoint の基本的な利用方法 5. 情報通信とコミュニケーション 6. 情報検索の方法と文献調査 7. Word や Excel による参考文献のまとめ方 8. 議論の方法 9. Word によるレポートや論文の書き方 10. Word の応用的な機能の利用 11. Excelを利用したデータの管理と簡単なデータ処理 12. Excelをデータの可視化，集計，読み解き 13. Excel の応用的な機能の利用 14. PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成 15. プレゼンテーションの方法				
【履修条件】	高等学校必修科目「情報」の履修を想定していますが履修条件はありません．				
【評価方法】	評価は, 実習で作成したファイルの提出, 出席, 最終課題（レポート）により行います. 実習を主体とする科目であるため，出席（実習で作成したファイルの提出）を重視し，出席が不足の場合は成績に大きく影響するものと考えてください．				
【テキスト】	テキストは指定しません．授業資料はウェブサイトを通じて閲覧できますので, テキストがなくても授業の進行上問題が生じることはありません．また適宜，自身で必要だと判断した資料を（図書館等を利用し）参照してください．				
【参考書】	若山 芳三郎, 学生のための情報リテラシー Office 2016/Windows 10 版, 東京電機大学出版局 (2016). 草薙信照, 植松康祐: 文科系のためのコンピュータリテラシ [第 5 版]: Microsoft Office による, サイエンス社(2011). 佐藤望他: アカデミック・スキルズ大学生のための知的技法入門 第 2 版, 慶応義塾大学出版会 (2012). 苅谷剛彦, 知的複眼思考法, 講談社 (1996). モーティマー・J. アドラー, C.V. ドーレン, 本を読む本, 講談社 (1997). 井下千以子, 思考を鍛えるレポート・論文作成法, 慶應義塾大学出版会 (2014). ウンベルト・エーコ, 論文作法: 調査・研究・執筆の技術と手順, 教養諸学シリーズ, 而立書房 (1991).				
【備考】					
【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】	

【科目名】	情報検索実習	Practice of Information Retrieval	
【開講時期】	2024年度前期	【開講時限】	木曜1限
【科目責任者】			
【担当教員】	*六井　淳		
【授業目標】	インターネットで公開されているウェブページを利用して，様々な情報を臨機応変に検索できるようにし，情報社会において勉学、仕事や生活に必要な情報を自ら得られるようにする．		
【授業概要】	まずは学内情報システムの使い方に習熟する． 次いで，実習中心の講義を通して，様々な情報の検索方法を学ぶ． 毎回講義の内容に沿った課題を提出するので，課題を解くことによって情報検索の理解を深めてもらう．		
【授業方法】	実習を中心に進める．毎回課題を出すので，情報を探し出し，Web学生サービス支援システムあるいはメールシステムを使ってレポートする．		
【授業展開】	1. 学内情報システムの使用方法の確認，レポート提出法などの確認 2. 情報検索とは 3. データベースと検索の仕組み 4. サーチエンジンの使用法 5. 図書館での情報検索方法（その１） 6. 図書館での情報検索方法（その２） <補足>図書館での情報検索方法は図書館の館員の方に講義していただく予定です． 　図書館の館員のご都合によって実施の回が前後にずれることがあります． 7. 論文検索と記事検索 8. 統計情報検索 9. 法律、判例検索 10. 機械翻訳 11. 論理和と上位概念（グループワーク） 12. 制限検索（グループワーク） 13. スニペット活用（グループワーク） 14. フィードバック検索（グループワーク） 15. まとめ		
【履修条件】	ウェブ閲覧ソフトウェア（インターネット・エクスプローラやグーグル・クローム等）の使用経験があること．また、Web学生サービス支援システムおよびメールシステムを使用するため、学内アカウントによるログイン経験があること．		
【評価方法】	個別レポート課題（42%）、附属図書館講習の演習課題成績（10%）、グループ課題（48%）の合計点数で評価する。		
【テキスト】	講義中に適宜提示する		
【参考書】			
【備考】	IT企業にて電子商取引やポータルサイト構築経験のある教員が，その経験を活かして，本実習を講義する． 経営情報学部の講義と一部重複するので，経営情報学部の学生は受講できない． 本講義は原則、対面講義です。ただし、感染症拡大等の事情があった場合には遠隔講義にて行われます．		

【社会人聴講生】		【科目等履修生】		【交換留学生】	

【科目名】	コンピュータ・リテラシー (g)		Computer Literacy		
【科目種別】	LC1アカデミック・リテラシー（国際関係学科） LC1アカデミック・リテラシー（国際言語文化学科）		【配当年次】	1・2	
【開講時期】	2025年度前期	【開講時限】	金曜3限	【オフィス・アワー】	木曜3限
【科目責任者】	青山知靖				
【担当教員】	青山知靖				
【授業目標】					
●授業目的	Windowsパソコンによる文書作成・プレゼンテーションの基礎的な技術・知識を習得する。				
●到達目標	1. インターネットやコンピューター実習室の利用についての本学独自のルールを理解し、技術を習得する。 2. Microsoft Officeの機能を組み合わせて、定型文書や学術レポートを作成・編集する。 3. プレゼンテーションに必要となる機器やソフトウェアを適切に選定・設営する。 4. 他の受講者のプレゼンテーションを建設的に批判する。				
【授業概要】	本学での学生生活を送る上で欠かせないWindowsパソコンによる文書作成の基礎的な技術を習得する。Excelを活用したデータの可視化・集計の方法を学び、データを適切に読み解き、扱うための基礎的な知識を習得する。インターネット時代の大学生が身につけておくべきルールやマナーを理解する。				
【授業方法】	実習形式で授業を進めていく。もちろん、予習・復習が重要であることは言うまでもない。コンピューター実習室を活用し、授業時間外の活動を行うこと。				
【授業展開】	受講者の興味関心に応じて、内容や進度を柔軟に変更していく。 1. 初回ガイダンス　コンピューター実習室利用者講習、担当教員の自己紹介 2. 電子メール　Active! Mailの操作、メール利用のルールとマナー、教職員とのコミュニケーション 3. 効率のよいパソコン操作　タッチタイピング、ショートカットキー 4. World Wide Web 効率的な情報検索、情報・データの引用・参照 5. Word（1）　ドキュメント作成の基礎、定型文書・学術レポートの作成、マルチメディアデータの挿入 6. Word（2）　ドキュメント作成の応用、読者の視点からのデザイン、多言語入力の基礎 7. Excel（1）　データの可視化、集計、読み解きの基礎、合計・平均の算出 8. Excel（2）　データの可視化、集計、読み解きの応用、標準偏差・偏差値の解釈 9. PowerPoint（1）　スライドショー作成の基礎、図表の作成 10. PowerPoint（2）　読者の視点からのデザイン、スライドショー設定の基礎 11. PowerPoint（3）　クラウドコンピューティング時代のプレゼンテーション、モバイル端末との連携 12. 情報セキュリティ・モラル　ICT活用の最新動向・時事問題の分析 13. 語学学習とICT活用　自習支援サービスの批判的検討、オリジナル教材の作成 14. プレゼンテーション実習（1）　プレゼンテーション機器の設営、プレゼンテーションとピアレビューの実施 15. プレゼンテーション実習（2）　プレゼンテーション機器の設営、プレゼンテーションとピアレビューの実施				
【履修条件】	1. パソコンの操作やプレゼンテーションの実施についての苦手意識や不安を克服する意思を持つこと。 2. 自己研鑽に努め、課題に真摯に取り組むこと。他の受講者のスキルアップを支援する姿勢を持つこと。				
【評価方法】	欠席回数が3回以上の場合、評価は「不可」とする。7月末までにタッチタイピング技能が実務レベルに達しない場合、評価を1段階下げる。期末試験は実施しない。				
【テキスト】	指定しない。				
【参考書】	さらなるスキルアップのために購入してほしい。 『よくわかる Word 2021 & Excel 2021 & PowerPoint 2021』、2022年、株式会社富士通ラーニングメディア、FOM出版、2,400円＋税 『学校教育と情報機器』、2018年、堀田博史・森田健宏（編著）、ミネルヴァ書房、2,200円+税 『教師のExcel　～校務（個人業務＋チーム業務）カイゼンのためのデジタルリテラシー～』、2024年、 久保栄 （著）・大村あつし（監）、技術評論社、2,600円＋税				
【備考】	本授業は対面授業形式で実施する。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	情報リテラシⅠ		Information Literacy Ⅰ		
【配当年次】	1年		【開講時期】	2024年度前期	
【科目責任者】	渡邉貴之				
【担当教員】	渡邉貴之 大久保誠也 天野政紀 小田紘久				
【授業目標】					
●授業目的	情報活用の基本技術を習得する。また、パソコンなどの情報機器の操作方法も身につける。 Excel等を活用したデータの可視化・集計の方法を学び、データを適切に読み解き、扱うための基礎的な知識を習得する。				
●到達目標	・パソコンの基本的な使い方を習得する。 ・タッチタイピングの基礎を身につける。 ・効果的なインターネット検索や情報モラルを守ったネットワークコミュニケーションの能力を身につける。 ・パソコンを活用した電子文書作成や表計算処理ができるようになる。 ・データの可視化・集計の方法を学び、データを適切に読み解き、扱うための基礎的な知識を習得する。				
【授業概要】	情報リテラシの基本を身につけるため、パソコンなどの情報機器を利用した、データや文書の処理、情報共有などの実習を行う。また、インターネット上などにある大量の情報を取捨選択するなど情報の取り扱い方法についての実習も行う。データを適切に読み、説明し、扱うための実習も行う。				
【授業方法】	一人一台のパソコンを使用した実習形式で授業を行う。 授業は対面での実施を基本とし、状況に応じて対面と遠隔を組み合わせて実施する場合がある。				
【準備学習】	タッチタイピングの練習を、授業時間以外にも自主的に行うこと。				
【授業展開】	１．はじめに－学内情報システム導入 ２．パソコンとWindowsの基本操作 ３．ネットワークを使うための準備 ４．電子メールを使った情報共有とビジネスチャット ５．情報検索（検索エンジン） ６．情報検索（ソフトウエアのダウンロード） ７．タッチタイピング ８．文書処理（文書作成入門） ９．文書処理（文書作成応用） １０．データ処理（データを読み解く：データ解析のツール・スプレッドシート） １１．データ処理（データを集計する：単純集計、クロス集計） １２．データ処理（データを説明し可視化する：棒グラフ、折線グラフ、円グラフ、散布図等） １３．データ処理（データを説明し可視化する：相関、回帰分析） １４．Webページ作成１ １５．Webページ作成２				
【履修条件】	情報リテラシⅡと併せて履修すること。				
【評価方法】	課題やレポート、グループチャットや授業への参加の積極性、タイピング試験、期末試験などを総合的に評価する。				
【テキスト】	初回授業時に指示する。				
【参考書】					
【備考】					
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	情報処理演習		Seminar in Information Prosessing		
【開講時期】	2024年度後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	＊東野定律				
【担当教員】	＊東野定律、＊大久保 誠也				
【授業の概要】	看護研究を進めていく上で必要となるデータの理解、可視化はもとより、集計をはじめとする統計の手順について解説し、具体例を使用しながら説明を行う。				
【キーワード】	情報科学、統計処理、看護における情報				
【ＤＰとの関連】	DP1-2				
【到達目標】	1. 情報の概念、Wordの使用方法を学び文章作成の知識を身につけている。 2. エクセルを用いてグラフや表作成方法を学び、使用方法に関する知識を身につけている。 3. データの理解、可視化、集計、統計処理の基本について理解している。				
【授業方法】	オンデマンド講義を中心としたWordやExcelといったソフトの使用方法をはじめとし、看護研究に必要とされるデータ処理、可視化、統計分析手法とその手順について、実際にコンピュータを使用しながら分析を行う。なお、講義した内容については、必ず演習問題を行う。				

【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】
第１回	はじめに（計算機へのログイン）（大久保誠也）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理
第２回	情報とは(大久保誠也)	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理
第３回	文章作成の基礎（PCの基礎とメモ張等による文章作成）（大久保誠也）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理
第４回	文章作成の基礎（MS-Wordによる文章作成）（大久保誠也）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理
第５回	表計算の基礎（MS-Excelによる表計算の基礎）（大久保誠也）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理
第６回	表計算の基礎（MS-WordとMS-Excelを組み合わせた利用） データ表現（棒グラフ、折線グラフ等）（大久保誠也）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理
第７回	中間まとめ(大久保誠也)	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理
第８回	基本統計量と統計的研究の予備知識、表形式のデータ説明、 データ解析（データの種類、分析ツール、図表化）（東野定律）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理
第９回	散布図・相関係数（東野定律）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理
第１０回	回帰直線と近似曲線（東野定律）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理
第１１回	正規分布（東野定律）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理
第１２回	統計的推定（東野定律）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理
第１３回	統計的検定（東野定律）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理
第１４回	一元配置分散分析(データの比較)（東野定律）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理
第１５回	まとめ	

【準備学習時間】	各回の標準学習時間90分程度
【履修条件】	特になし
【関連科目】	特になし
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 成績は演習問題40%（DP1-2：到達目標1～3に対応）と最終試験60%（DP1-2：到達目標1～3に対応）の結果により総合的に評価を行う。

【フィードバックの方法】	演習課題の質問等には、次週講義で説明、またはユニパ、メール等でコメントを行う。				
【テキスト】	必要に応じて、資料を配布する。石村 友二郎他「Excelで学ぶ医療・看護のための統計入門 」東京図書*のデータを使用しますので必ず持参のこと				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	実習／フィールドワーク				
【実務経験のある教員による授業】	＊担当教員においては、統計処理に関わる実務経験を有しており、業務の経験を活かした講義内容を展開している。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

令和６年度全学共通科目

＊表中、「相当科目」欄に記載された科目の単位を修得した場合は、同一行の「科目名」に記載された科目を履修できないので留意してください。

部門	科　目　名	単位数	担当教員 （*斜体*は非常勤講師）	＊相当科目
第1部門（リテラシーとスタディ・スキル）	ドイツ語入門	2	ファイファー・マティアス	
	フランス語入門	2	剣持　久木	
	スペイン語入門	2	*杉田和歌子*	
	中国語入門	2	*王元武*	
	日本語作文A	2	*逢坂里恵*	
	日本語作文B	2	*逢坂里恵*	
	中級日本語Ⅰ	2	*水野かほる*	
	中級日本語Ⅱ	2	*水野かほる*	
	情報検索実習	2	六井淳	
	数理・データサイエンス・AI入門　【遠隔授業】【必修科目】※	1	武藤伸明　ほか	
	ヒューマン・ケア	2	*飯島本子*	
	TOEFL留学英語Ⅰ	1	小田　透	TOEFL留学英語
	TOEFL留学英語Ⅱ	1	小田　透	
	TOEICビジネス基礎英語	1	*堀内裕晃*	
	TOEICビジネス英語Ⅰ	1	*山本好比古*	
	TOEICビジネス英語Ⅱ	1	*山本好比古*	
第2部門（概論）	自然科学概論	2	橋本博　ほか	
	化学入門	2	眞鍋敬　ほか	
	生物学入門	2	竹内英之　ほか	
	薬剤発達史入門	2	賀川義之　ほか	くすりと医療の歩み
	物理学入門	2	本同宏成　ほか	
	環境科学入門	2	谷幸則　ほか	自然と環境・環境と健康
	哲学入門	2	飯野勝己	
	社会思想史入門	2	犬塚協太	社会思想史
	歴史学入門	2	栗田和典	
	宗教学入門	2	*佐藤清子*	現代の問題と宗教
	社会学入門	2	石井由香	グローバル社会学入門
	国際関係学入門	2	小窪　千早　ほか	国際関係学への招待
	文化人類学入門	2	*金明美*	エスニシティ論、多文化共生論
	公共政策入門	2	藤本　健太郎	社会保障とソーシャルインクルージョン
	心理学入門	2	*西田公昭*	日常生活と心理学
	生涯発達心理入門	2	篁宗一　ほか	心の発達と行動
	知的財産管理入門	1	*居藤洋之*	
第3部門（現代教養）	国際安全保障入門Ⅰ	2	西恭之	
	国際安全保障入門Ⅱ	2	西恭之	
	くらしと化学A	1	近藤啓　ほか	
	くらしと化学B	1	近藤啓　ほか	
	実用科学英語基礎編	2	太田敏郎	
	実用科学英語応用編	2	太田敏郎	
	基礎生命科学Ⅰ　【英語による科目】	2	太田敏郎	
	基礎生命科学Ⅱ　【英語による科目】	2	太田敏郎	
	現代日本文化入門A　【英語による科目】	1	ファイファー・マティアス	
	現代日本文化入門B　【英語による科目】	1	ファイファー・マティアス	
	経営分析入門A　【英語による科目】	1	上野、竹下	
	経営分析入門B　【英語による科目】	1	上野、竹下	
	英語で学ぶ日本語学ⅠA　【英語による科目】	1	藤森敦之	
	英語で学ぶ日本語学ⅠB　【英語による科目】	1	藤森敦之	
	英語で学ぶ日本語学ⅡA　【英語による科目】	1	*吉村紀子*	
	英語で学ぶ日本語学ⅡB　【英語による科目】	1	*吉村紀子*	

部門	科　目　名		単位数	担当教員 （*斜体*は非常勤講師）	＊相当科目
第3部門（現代教養）	財務会計入門A	【英語による科目】	1	上野雄史	
	財務会計入門B	【英語による科目】	1	上野雄史	
	言語の学習・習得　ⅠA	【英語による科目】	1	*吉村紀子*	言語の学習・習得 A
	言語の学習・習得　ⅠB	【英語による科目】	1	*吉村紀子*	言語の学習・習得 B
	言語の学習・習得　ⅡA	【英語による科目】	1	藤森敦之	
	言語の学習・習得　ⅡB	【英語による科目】	1	藤森敦之	
	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	【しずおか学】	2	森本達也　ほか	
	静岡の防災と医療	【しずおか学】	2	森本達也　ほか	
	静岡地域食材学A	【しずおか学】	1	三好規之　ほか	
	静岡地域食材学B	【しずおか学】	1	江口智美　ほか	
	茶学入門	【しずおか学】	2	中村順行	
	ムセイオン静岡　－　MUSEUMと文化A	【しずおか学】	1	*立田洋司*	・MUSEUMと文化 ・ムセイオンⅠMUSEUMと文化A
	ムセイオン静岡　－　MUSEUMと文化B	【しずおか学】	1	*立田洋司*	・MUSEUMと文化 ・ムセイオンⅠMUSEUMと文化B
	ムセイオン静岡　－　世界の文化遺産A	【しずおか学】	1	*立田洋司*	・世界の文化遺産 ・ムセイオンⅡ世界の文化遺産A
	ムセイオン静岡　－　世界の文化遺産B	【しずおか学】	1	*立田洋司*	・世界の文化遺産 ・ムセイオンⅡ世界の文化遺産B
	ムセイオン静岡　－　舞台芸術A	【しずおか学】	1	*立田洋司*	・表現・コミュニケーション・カルチャー ・ムセイオンⅢ舞台芸術A
	ムセイオン静岡　－　舞台芸術B	【しずおか学】	1	*立田洋司*	・表現・コミュニケーション・カルチャー ・ムセイオンⅢ舞台芸術B
	静岡の市民活動	【しずおか学】	1	津富宏　ほか	
	歴史からみるしずおか学	【しずおか学】	2	上野雄史	
	新聞でもっと静岡を知ろう	【しずおか学】	2	上原克仁　ほか	
	企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	【しずおか学】	2	上原克仁　ほか	
	SDGs概論	【しずおか学】	2	谷晃　ほか	
	ふじのくにｶﾞｽﾄﾛﾉﾐｰﾂｰﾘｽﾞﾑ：観る・食べる・学ぶ	【しずおか学】	2	大久保あかね　ほか	
	静岡「知」各論−食品環境科学と地域企業の視点から−	【しずおか学】	2	伊藤創平　ほか	
総合科目	世界からしずおかを見る　しずおかから世界へ	【しずおか学】	2	横井　香織　ほか	
	ふじのくに学（お茶）	【しずおか学】	2	中村順行　ほか	
	ふじのくに学（観光学）	【しずおか学】	1	北上真一　ほか	
	ふじのくに学（演劇論）	【しずおか学】	2	宮城聰（静岡英和学院大学）　ほか	
	ふじのくに学（南アルプスの自然）	【しずおか学】	1	静岡大学教員　ほか	
	ふじのくに学（静岡県の産業イノベーション）	【しずおか学】	2	静岡産業大学教員　ほか	
	ふじのくに学（静岡県の産業イノベーションⅡ）	【しずおか学】	2	静岡産業大学教員　ほか	
	ふじのくに学（静岡県の産業イノベーションⅢ）	【しずおか学】	2	静岡産業大学教員　ほか	
	ふじのくに学（農林業）	【しずおか学】	1	静岡大学教員　ほか	
	ふじのくに学（森林生態系からの恵み）	【しずおか学】	1	静岡大学教員　ほか	
	ふじのくに学（伊豆の温泉と産業おこし）	【しずおか学】	2	楠城一嘉、鴨川仁　ほか	
	ふじのくに学（魅力ある食と地域づくり）	【しずおか学】	2	大久保あかね　ほか	
	ふじのくに学（静岡県西部地域の特性と産業）	【しずおか学】	2	静岡文化芸術大学教員　ほか	
	健康イノベーション教育プログラム	【しずおか学】	2	新井英一　ほか	
	キャリアデザイン概論		2	東野　定律	
	男女共同参画社会とジェンダー		2	犬塚協太　ほか	
	人権が支える社会		2	坪田　光平	人権問題を考える
	ジャーナリズム論		2	西恭之　ほか	
	キャリアと社会*1		2	羽衣国際大学教員　ほか	
	高野山で学ぶキャリアとわたし*1		2	高野山大学教員　ほか	
科目 身体運動学	身体運動科学A		2	窪田辰政　ほか	
	身体運動科学B		2	窪田辰政　ほか	

※しずおか学科目群から2単位以上を卒業までに修得すること。

※【必修科目】は令和6年度以降入学生を対象とし、卒業要件に該当する。ただし、進級要件については各学部の定めによる。

*1南大阪地域大学コンソーシアムの科目。

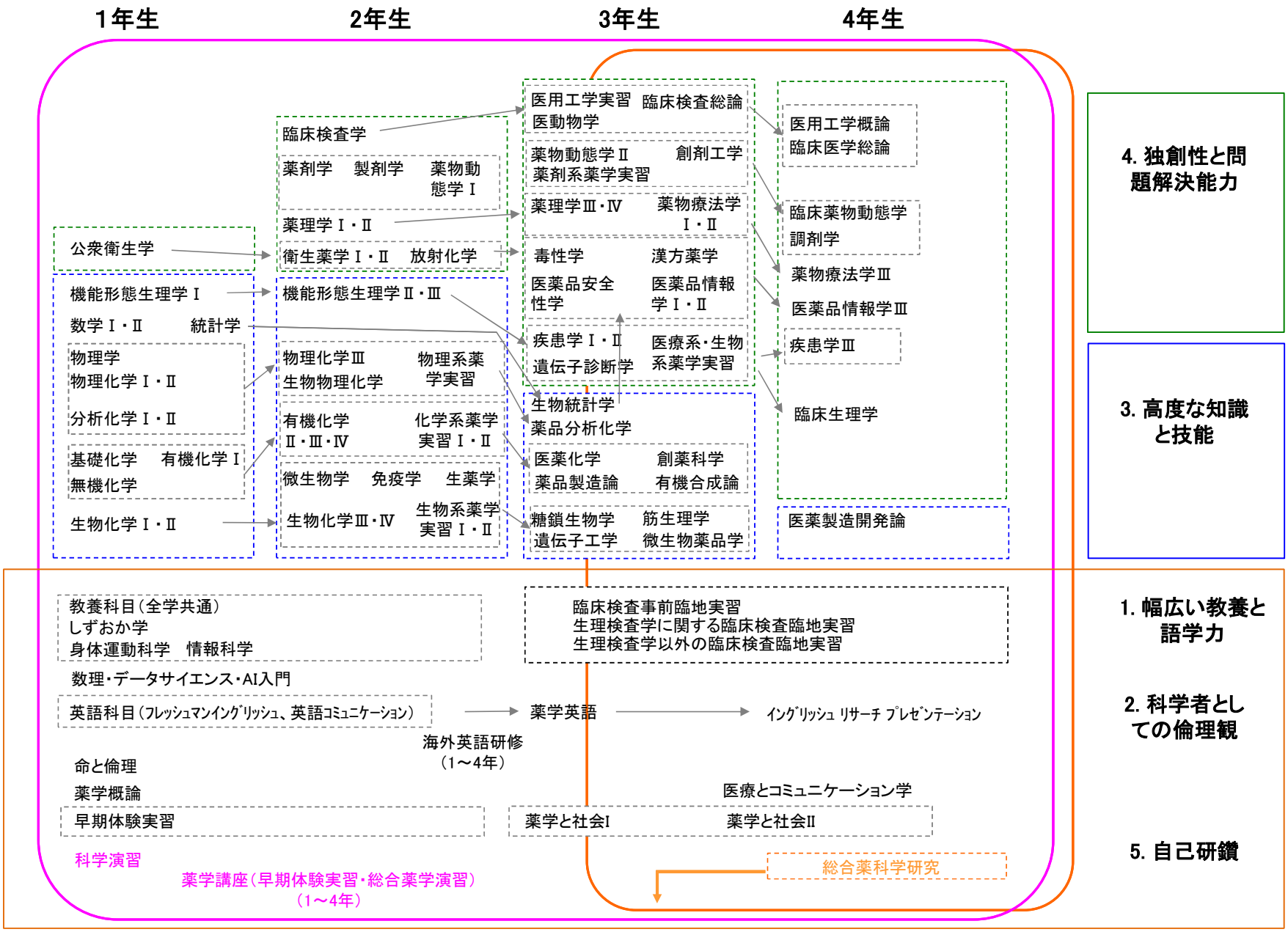
＜２０２４（令和６）年度以降入学者用＞

カリキュラム科目表（基礎科目）両学科共通

薬学科（６年制）					薬科学科（４年制）				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
フレッシュマンイングリッシュＩＡ	1	1			フレッシュマンイングリッシュＩＡ	1	1		
フレッシュマンイングリッシュⅡＡ	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅡＡ	1	1		
フレッシュマンイングリッシュＩＢ	1	1			フレッシュマンイングリッシュＩＢ	1	1		
フレッシュマンイングリッシュⅡＢ	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅡＢ	1	1		
物理学	1	2			物理学	1	2		
基礎化学	1	2			基礎化学	1	2		
数学Ⅰ	1	2			数学Ⅰ	1	2		
数学Ⅱ	1	2			数学Ⅱ	1	2		
統計学	1	1			統計学	1	1		
身体運動科学	1	2			身体運動科学	1	2		
命と倫理	1	2			命と倫理	1	2		
情報科学	1			1	情報科学	1			1
科学演習	1	1			科学演習	1	1		
英語コミュニケーションⅠ	2	1			英語コミュニケーションⅠ	2	1		
英語コミュニケーションⅡ	2	1			英語コミュニケーションⅡ	2	1		
英語コミュニケーションⅢ	2			1	英語コミュニケーションⅢ	2			1
英語コミュニケーションⅣ	2			1	英語コミュニケーションⅣ	2			1
薬学英語	3	2			薬学英語	3	2		
海外英語研修				1	海外英語研修				1

2024年9月版

静岡県立大学薬学部薬科学科カリキュラムツリー（令和 6 年度以降入学者）



静岡県立大学薬学部薬科学科 カリキュラムマップ（令和 6 年度以降入学者）

2024年9月版

必修科目　選択科目　自由選択科目

項目	ディプロマーポリシー	カリキュラムポリシー	学年科目			
			1年次	2年次	3年次	4年次
1. 幅広い教養と語学力	・多様な薬科学分野で活躍するための広範で深い教養を身につけている。 ・グローバルに活躍できる語学力とプレゼンテーション能力を有し、研究者・技術者として国際社会並びに地域社会に貢献する能力を身につけている。	創薬・生命薬学研究者に求められる高い教養と世界に通用する語学力を修得するため、1～2年次において教養科目等や英語基礎科目を履修する。加えて地域社会に貢献できる能力を身につけるため「しずおか学」科目群からの履修を必須とする。3年次からは卒業研究配属研究室ごとに行う「総合薬科学研究」において、世界水準の独創的・先端的な研究を行う。4年次には「イングリッシュ リサーチ プレゼンテーション」を提供し、最新情報を外国語で収集し、自らの研究成果を世界に発信できる能力を身につける。 これらの評価には、知識レベルについては筆記試験やレポート、口頭試験を用いる。「総合薬科学研究」では、日々の形成的評価に加え、研究室セミナー等での発表において成長過程も併せて評価する。	教養科目	教養科目	薬学英語	ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ ﾘｻｰﾁ ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ
			しずおか学	しずおか学		
			ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｲﾝｸﾞﾘｯｼｭIA	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝI		
			ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｲﾝｸﾞﾘｯｼｭIIA	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝII		
			ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｲﾝｸﾞﾘｯｼｭIB	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝIII		
			ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｲﾝｸﾞﾘｯｼｭIIB	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝIV		
			身体運動科学			
			数理・ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ・AI入門			
			科学演習			
			情報科学		総合薬科学研究（３年後期～）	
			薬学講座（早期体験実習、総合薬学演習）			
			海外英語研修（配当年次なし）			
2. 科学者としての倫理観	・生命の尊厳を守るための強い倫理観と豊かな人間性を身につけている。 ・社会や公益に対する研究活動の責任・使命を理解し、薬科学に携わる者として健全な科学倫理観を身につけている。	薬科学とその関連領域に関する科学技術が社会に及ぼす影響の大きさを認識し、科学技術に携わる者の責任感と倫理観を涵養するために、講義科目（「命と倫理」等）に加え、幅広い職種に触れる科目（「薬学概論」「薬学講座」）や体験型学習（「早期体験学習」「科学演習」）を通して必要な知識を修得するとともに薬科学研究者としての自覚を育む。3年次からはより高度な倫理観と使命感を修得するため、配属研究室にて実施される「総合薬科学研究」における研究活動を通して、専門職業人として自立するために求められる医療倫理ならびに研究倫理に関する教育を行うとともに、社会の規範やルールを尊重する姿勢も涵養する。さらに全学年を対象とした「薬学講座」では、薬害被害者等の講演から、倫理観・使命感を体得する。 これらの評価には、知識レベルについては筆記試験やレポートなどを用いる。体験型学習や実習科目ではレポートやルーブリック等を用いて評価する。「総合薬科学研究」では、日々の形成的評価に加え、研究室セミナー等での発表、および卒業研究発表により達成度を評価する。	命と倫理		薬学と社会Ⅰ	医療とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学
			薬学概論		医薬品安全性学	薬学と社会Ⅱ
			科学演習		漢方薬学	臨床医学総論
			早期体験学習		総合薬科学研究（３年後期～）	
			薬学講座（早期体験実習、総合薬学演習）			
3. 高度な知識と技能	・物理学・化学・生物学を基盤とする薬学的基礎知識・技能とその応用展開能力を身につけている。 ・創薬・生命薬学研究に必要な複数の薬学専門領域に関する知識・技能を体系的に身につけている。	1～2年次には、薬学人としての素養の修得を図り、薬学の概略や生物・物理・化学の基礎を身につけるための基礎科目及び共通専門科目を学修する。これらの科目の学修により薬科学研究への導入教育として医薬品およびその研究・開発等についての見聞を広め、さらに論理的思考、ディスカッション、プレゼンテーション等を体験し基礎能力を修得する。また、2～3年次には薬学に関する基礎知識の底上げを図るとともに、薬学専門科目の体系的な修得を進め、実験技能の修得のための実習科目（「物理系薬学実習」「化学系薬学実習Ⅰ・Ⅱ」「生物系薬学実習Ⅰ・Ⅱ」）を提供する。4 年次には疾患に対して有効かつ安全な医薬品の創製および医薬品の基礎に関する薬科学専門科目（「医薬品製造開発論」「医薬品情報学Ⅲ」「薬学と社会Ⅱ」等）を提供する。これら基礎薬学の知識と技能の修得は、科学的思考に基づく問題発見・解決能力の基盤となり、それらの能力を実践的に活用し、高度化するため3年次後期から「総合薬科学研究」に取り組む。本科目では各学生独自のテーマの研究を遂行することにより薬科学領域の知識、論理的思考や表現の手段を修得するとともに、科学的観点に立った問題発見および解決の基礎的能力を身につける。 これらの評価には、知識レベルについては筆記試験、レポートや口頭試験を用いる。「総合薬科学研究」では、日々の形成的評価に加え、研究室セミナー等での発表、および卒業研究発表により達成度を評価する。	物理学	有機化学Ⅱ	薬品分析化学	薬学と社会Ⅱ
			基礎化学	有機化学Ⅲ	創薬科学	医薬品製造開発論
			数学Ⅰ	有機化学Ⅳ	薬物動態学Ⅱ	臨床医学総論
			数学Ⅱ	生薬学	医薬品安全性学	医薬品情報学Ⅲ
			無機化学	物理化学Ⅲ	漢方薬学	
			有機化学Ⅰ	生物物理化学	薬学と社会Ⅰ	
			物理化学Ⅰ	生物化学Ⅲ	医薬品情報学Ⅰ	
			物理化学Ⅱ	生物化学Ⅳ	医薬化学	
			分析化学Ⅰ	微生物学	有機合成論	
			分析化学Ⅱ	免疫学	薬品製造論	
			生物化学Ⅰ	機能形態生理学Ⅱ	遺伝子工学	
			生物化学Ⅱ	機能形態生理学Ⅲ	糖鎖生物学	
			統計学	薬物動態学Ⅰ	生物統計学	
			科学演習	薬剤学	微生物薬品学	
			機能形態生理学Ⅰ	物理系薬学実習	筋生理学	
				化学系薬学実習Ⅰ	薬剤系薬学実習	
				化学系薬学実習Ⅱ	医用工学実習	
				生物系薬学実習Ⅰ	総合薬科学研究（３年後期～）	
				生物系薬学実習Ⅱ		
4. 独創性と問題解決能力	・創薬・生命薬学研究者に求められる独創性や問題解決の基礎的な能力を身につけている。 ・創薬・生命薬学研究を自ら計画・遂行する知識及び技術的基盤を身につけている。	世界水準の先端的な研究を遂行するために必要な情報収集力、発想力、独創性、論理的思考力は、主に2年次から4年次前期に開講される科目を通して修得する。1～2年次に開講される基礎薬学の履修と関連させ、２～４年次に薬科学の知識を修得するための共通専門科目及び薬科学科専門科目を配置したカリキュラムを構成する。また実習科目（「医療系・生物系薬学実習」「薬剤系薬学実習」等）により、医療薬学や臨床薬学の知識や技能を修得する。特許法や知財管理の基礎を修得するための科目（「知的財産管理入門」）や、薬務行政・保健衛生に関連するレギュラトリーサイエンスを理解するための科目（「医薬品安全性学」「薬学と社会Ⅱ」等）も開講する。3年次後期から取り組む「総合薬科学研究」では、各学生独自のテーマの研究を遂行しつつ、研究者として活躍するために必須となる問題発見および解決能力を身につけ、学修した知識やスキルを統合し、問題解決と新たな価値の創造に繋げていく科学的思考能力を育成する。 これらの評価には、知識レベルについては筆記試験、レポートや口頭試験を用いる。演習科目や実習科目では、上記の評	公衆衛生学	衛生薬学Ⅰ	漢方薬学	薬学と社会Ⅱ
				衛生薬学Ⅱ	薬物動態学Ⅱ	医薬品情報学Ⅲ
				放射化学	薬物療法学Ⅰ	医療とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学
				薬理学Ⅰ	薬物療法学Ⅱ	臨床薬物動態学
				薬理学Ⅱ	疾患学Ⅰ	薬物療法学Ⅲ
				製剤学	疾患学Ⅱ	疾患学Ⅲ
				薬剤学	創剤工学	調剤学
				薬物動態学Ⅰ	薬学と社会Ⅰ	医用工学概論
				臨床検査学	医薬品情報学Ⅰ	臨床検査総論

静岡県立大学薬学部薬科学科 カリキュラムマップ（令和 6 年度以降入学者）

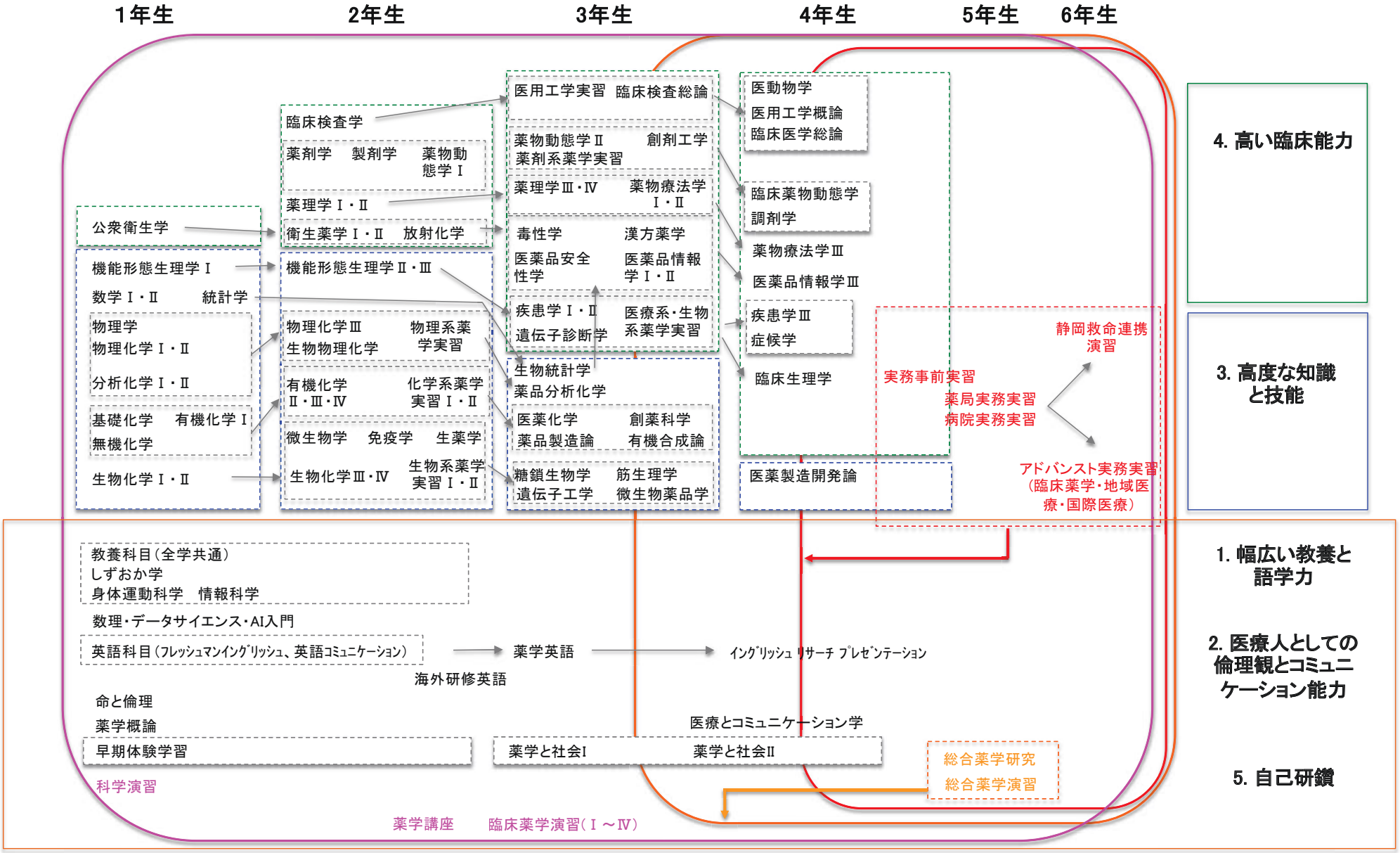
2024年9月版

必修科目　選択科目　自由選択科目

項目	ディプロマーポリシー	カリキュラムポリシー	学年科目			
			1年次	2年次	3年次	4年次
		価方法に加え、プレゼンテーションやルーブリック等を用いる。「総合薬科学研究」では、日々の形成的評価に加え、学会・研究室セミナー等での発表、および卒業研究発表により達成度を評価する。			医薬品情報学Ⅱ	臨床生理学
					遺伝子診断学	
					薬理学Ⅲ	
					薬理学Ⅳ	
					毒性学	
					医薬品安全性学	
					微生物薬品学	
					医療系・生物系薬学実習	
					薬剤系薬学実習	
					医用工学実習	
					医動物学	
					総合薬科学研究（３年後期～）	
5. 自己研鑽	・創薬・生命科学に関わる研究者として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を身につけている。 ・次世代を担う人材を育成する意欲と態度を身につけている。	創薬科学・生命薬学・医療薬学・臨床薬学及びその融合・接合領域の進歩に対応できるように、生涯にわたって自己研鑽し後進の教育に積極的に関わる使命感を涵養するための科目を１～4年次に履修する。「早期体験実習」「薬学概論」及び専門性の高い演習・実習科目により、主体的に学ぶ姿勢を涵養し、自己研鑽の重要性を感得する。「総合薬科学研究」では、チューター活動並びに研究活動を通して、生涯にわたる自己研鑽の態度を養い、後進の教育に積極的に関わることでその重要性や具体的技能を修得する。 これらの評価には、レポートやプレゼンテーション、ルーブリック等を用いる。	科学演習		薬学と社会Ⅰ	薬学と社会Ⅱ
						臨床医学総論
			早期体験学習		臨床検査事前臨地実習	
					生理検査学に関する臨床検査臨地実習	
					生理検査学以外の臨床検査臨地実習	
					総合薬科学研究（３年後期～）	
			薬学講座（早期体験実習、総合薬学演習）			

2024年4月版

静岡県立大学薬学部薬学科カリキュラムツリー



静岡県立大学薬学部　カリキュラムマップ

2024年4月改訂

必修科目　選択科目　自由選択科目

項目	ディプロマーポリシー	カリキュラムポリシー	学年科目 1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	薬学教育モデルコアカリキュラム　大項目との対応
1. 幅広い教養と語学力	・医療人に求められる高い教養を身につけている。 ・グローバルに活躍できる語学力を有し、国際感覚を身につけている。	医療人に求められる高い教養と世界に通用する語学力を修得するため、1-2年次において教養科目等や英語基礎科目を履修する。加えて地域社会に貢献できる能力を身につけるため「しずおか学」科目群からの履修を必須とする。3年次からは卒業研究配属研究室ごとに行う研究室セミナーである「総合薬学演習」及び卒業研究にあたる「総合薬学研究」において、学生独自のテーマについて研究を行いながら、最新情報を外国語で収集し、世界に発信できる能力を身につける。 これらの評価には、知識レベルについては筆記試験やレポート、口頭試験を用いる。「総合薬学演習」や「総合薬学研究」では、日々の形成的評価に加え、研究室セミナー等での発表において成長過程も併せて評価する。	教養科目	教養科目	薬学英語	ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ ﾘｻｰﾁ ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ			B. 社会と薬学 G. 薬学研究
			しずおか学	しずおか学					
			ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｲﾝｸﾞ ﾘｯｼｭIA	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝI					
			ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｲﾝｸﾞ ﾘｯｼｭIIA	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝII					
			ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｲﾝｸﾞ ﾘｯｼｭIB	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝIII					
			ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｲﾝｸﾞ ﾘｯｼｭIIB	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝIV					
			身体運動科学						
			数理・ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ・AI入門						
			科学演習						
			情報科学						
							アドバンスト実務実習-国際医療		
						総合薬学演習			
					総合薬学研究				
				薬学講座					
				海外研修英語（配当年次なし）					
2. 医療人としての倫理観とコミュニケーション能力	・生命倫理及び患者の人権を最優先するという強い倫理観を身につけている。 ・患者の命を守るという強い責任感・使命感を身につけている。 ・医療人として必要なコミュニケーション能力を身につけている	生命倫理及び患者の人権を最優先するという強い倫理観と使命感を涵養し、医療人として必要なコミュニケーション能力を身につけるために、講義科目（「倫理学」「医療とコミュニケーション学」等）に加え、幅広い職種に触れる科目（「薬学概論」「薬学講座」）や体験型学習（「早期体験学習」「科学演習」）を通して必要な知識を修得するとともに医療人としての自覚を育む。3年次からはより高度な倫理観と使命感を修得するため、実務実習科目関連科目（「実務事前実習」「薬局実務実習」「病院実務実習」等）を履修する。また「総合薬学演習」や「総合薬学研究」における研究活動を通して、自然科学と医療との結びつきを根源から深く理解し、人類の健康長寿に貢献することへの使命感を養成する。さらに全学年を対象とした「薬学講座」では、薬害被害者等の講演から、倫理観・使命感を体得する。 これらの評価には、知識レベルについては筆記試験やレポートなどを用いる。体験型学習や実習科目ではポートフォリオやルーブリック等を用いて評価する。「総合薬学演習」や「総合薬学研究」では、日々の形成的評価に加え、研究室セミナー等での発表、および卒業研究発表により達成度を評価する。	命と倫理		薬学と社会Ⅰ	医療とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学			B. 社会と薬学 G. 薬学研究
			薬学概論		医薬品安全性学	薬学と社会Ⅱ			
			科学演習		漢方薬学	臨床医学総論			
			早期体験学習		実務事前実習		病院実務実習		
							薬局実務実習		
							静岡救命連携演習		
							アドバンスト実務実習-地域医療		
							アドバンスト実務実習-国際医療		
							アドバンスト実務実習-臨床薬学		
						総合薬学演習			
					総合薬学研究				
				薬学講座					
			臨床薬学演習Ⅰ	臨床薬学演習Ⅱ	臨床薬学演習Ⅲ	臨床薬学演習Ⅳ			
3. 高度な知識と技能	・基礎科学に裏打ちされた最先端の知識と技能を有している。 ・情報共有及び課題解決に必要な能力を身につけている。	基礎科学に立脚した最先端の薬物治療を理解するために、1～2年次には物理学、化学、生物学などを基盤とした基礎科目及び共通専門科目を学修する。これらの科目の学修によりディプロマ・ポリシー「高い臨床能力」を修得するための基盤を作る。また、2～3年次には基本的な研究手法を修得するための実習（「物理系薬学実習」「化学系薬学実習Ⅰ・Ⅱ」「生物系薬学実習Ⅰ・Ⅱ」）を実施する。これら基礎薬学の知識と技能の修得は、科学的思考に基づく問題発見・解決能力の基盤となり、それらの能力を実践的に活用し、高度化するため3年次後期から「総合薬学演習」と「総合薬学研究」に取り組む。それらの科目では各学生独自のテーマの研究を遂行することにより、先導的立場の薬剤師や研究者に求められるより高度な科学的知識と問題解決能力を身につける。 これらの評価には、知識レベルについては筆記試験、レポートや口頭試験を用いる。「総合薬学演習」や「総合薬学研究」では、日々の形成的評価に加え、研究室セミナー等での発表、および卒業研究発表により達成度を評価する。	物理学	有機化学Ⅱ	薬品分析化学	薬学と社会Ⅱ			C. 基礎薬学 D. 医療薬学 E. 衛生薬学 G. 薬学研究
			基礎化学	有機化学Ⅲ	創薬科学	医薬品製造開発論			
			数学Ⅰ	有機化学Ⅳ	薬物動態学Ⅱ	臨床医学総論			
			数学Ⅱ	生薬学	医薬品安全性学				
			無機化学	物理化学Ⅲ	漢方薬学				
			有機化学Ⅰ	生物物理化学	薬学と社会Ⅰ				
			物理化学Ⅰ	生物化学Ⅲ	医薬品情報学Ⅰ				
			物理化学Ⅱ	生物化学Ⅳ	医薬化学				
			分析化学Ⅰ	微生物学	有機合成論				
			分析化学Ⅱ	免疫学	薬品製造論				
			生物化学Ⅰ	機能形態生理学Ⅱ	遺伝子工学				
			生物化学Ⅱ	機能形態生理学Ⅲ	臨床微生物学				
			統計学	薬物動態学Ⅰ	生物統計学				
			科学演習	薬剤学	微生物薬品学				
			機能形態生理学Ⅰ	物理系薬学実習	筋生理学				
				化学系薬学実習Ⅰ	薬剤系薬学実習				
				化学系薬学実習Ⅱ	医用工学実習	総合薬学演習			
				生物系薬学実習Ⅰ	総合薬学研究				
				生物系薬学実習Ⅱ					
4. 高い臨床能力	・医療現場で遭遇する様々な問題を発見・解決する臨床的な能力を身につけている。 ・薬物療法を提案・遂行する能力を身につけ、チーム医療に貢献できる。 ・医療薬学に根ざした研究を計画・遂行する能力を身につけている。	薬物療法を提案し主体的にチーム医療に参画するために必要となる知識は、主に2年次から4年次前期に開講される科目を通して修得する。1～2年次に開講される基礎薬学の履修と関連させ、２～４年次に医療薬学の知識を修得するための共通専門科目及び薬学科専門科目を配置したカリキュラムを構成する。また実習科目（「医療系・生物系薬学実習」「薬剤系薬学実習」等）により、医療薬学や臨床薬学の知識や技能を修得する。薬務行政・保健衛生に関連するレギュラトリーサイエンスを理解するための科目も1～4年次に開講される。さらに、学年進行に合わせて、学生の知識レベルに配慮した臨床症例を題材として、知識を統合して薬物治療を提案できる能力を養成する。実務実習科目（「薬局実務実習」「病院実務実習」等）では、実際の医療現場で主体的に薬物療法を提案し、チーム医療への参画を実践することにより、より高度な臨床能力を身につける。6年次には「臨床薬学演習」にチューターとして参画することにより、それまでの学修を振り返ることで知識の定着をはかる。3年次後期から取り組む「総合薬学演習」と「総合薬学研究」では、各学生独自のテーマの研究を遂行しつつ、医療・薬務行政・保健衛生・医薬品開発等に携わることのできる高度な臨床知識や問題解決能力を身につける。 これらの評価には、知識レベルについては筆記試験、レポートや口頭試験を用いる。演習科目や実習科目では、上記の評価方法に加え、ポートフォリオやルーブリック等を用いる。「総合薬学演習」や「総合薬学研究」では、日々の形成的評価に加え、学会・研究室セミナー等での発表、および卒業研究発表により達成度を評価する。	公衆衛生学	衛生薬学Ⅰ	漢方薬学	薬学と社会Ⅱ			B. 社会と薬学 D. 医療薬学 E. 衛生薬学 F. 臨床薬学 G. 薬学研究
				衛生薬学Ⅱ	薬物動態学Ⅱ	医薬品情報学Ⅲ			
				放射化学	薬物療法学Ⅰ	医療とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学			
				薬理学Ⅰ	薬物療法学Ⅱ	臨床薬物動態学			
				薬理学Ⅱ	疾患学Ⅰ	薬物療法学Ⅲ			
				製剤学	疾患学Ⅱ	疾患学Ⅲ			
				薬剤学	創剤工学	調剤学			
				薬物動態学Ⅰ	薬学と社会Ⅰ	症候学			
				臨床検査学	医薬品情報学Ⅰ	医用工学概論			
					医薬品情報学Ⅱ	臨床検査総論			
					遺伝子診断学	臨床生理学			
					薬理学Ⅲ	医動物学			
					薬理学Ⅳ				
					毒性学				
					医薬品安全性学		病院実務実習		
					微生物薬品学		薬局実務実習		
					医療系・生物系薬学実習		静岡救命連携演習		
					薬剤系薬学実習		アドバンスト実務実習-地域医療		
					医用工学実習		アドバンスト実務実習-国際医療		
							アドバンスト実務実習-臨床薬学		
					実務事前実習				
						総合薬学演習			
					総合薬学研究				
			臨床薬学演習Ⅰ	臨床薬学演習Ⅱ	臨床薬学演習Ⅲ	臨床薬学演習Ⅳ			
5. 自己研鑽	・医療人として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を身につけている。	創薬科学・生命薬学・医療薬学・臨床薬学及びその融合・接合領域で先導的役割を担い、生涯にわたって自己研鑽し後進の教育に積極的に関わる使命感を涵養するための科目を１～6年次に履修する。「早期体験実習」「薬学概論」及び実務実習科目（「薬局実務実習」「病院実務実習」等）により、幅広い職種に触れロールモデルから自己研鑽の重要性を感得する。「臨床薬学演習」（6年次）、「総合薬学演習」や「総合薬学研究」では、チューター活動並びに研究活動を通して、生涯にわたる自己研鑽の態度を養い、後進の教育に積極的に関わることでその重要性や具体的技能を修得する。 これらの評価には、レポートやポートフォリオ、ルーブリック等を用いる。	科学演習		薬学と社会Ⅰ	薬学と社会Ⅱ			B. 社会と薬学 G. 薬学研究
						臨床医学総論	病院実務実習		
			早期体験学習		実務事前実習		薬局実務実習		
							静岡救命連携演習		
							アドバンスト実務実習-地域医療		
							アドバンスト実務実習-国際医療		
							アドバンスト実務実習-臨床薬学		
						総合薬学演習			
					総合薬学研究				
			臨床薬学演習Ⅰ	臨床薬学演習Ⅱ	臨床薬学演習Ⅲ	臨床薬学演習Ⅳ			
				薬学講座					

食品栄養科学部履修細則別表（食品生命科学科）

（令和6年度以降入学生用）

区分		授業科目	必修	選択	備考
学部基礎科目		化学Ⅰ	2		
		化学実験	1		
		生物学Ⅰ	2		（必要修得単位数）
		生物学実験	1		
		物理学Ⅰ	2		
		食品・栄養・環境科学概論Ⅰ	2		・必修科目 22単位
		食品・栄養・環境科学概論Ⅱ	2		
		基礎統計学	1		合計 22単位
		オーラルコミュニケーションⅠ	1		
		オーラルコミュニケーションⅡ	1		
		オーラルコミュニケーションⅢ	1		
		オーラルコミュニケーションⅣ	1		
		リスニングⅠ	1		
		リスニングⅡ	1		
		TOEIC英語Ⅰ	1		
		TOEIC英語Ⅱ	1		
		食品栄養科学入門	1		
専門教育科目	必修科目	食品学総論	2		（最低必要修得単位数）
		栄養学総論	2		
		情報科学演習	1		
		食品化学	2		・必修科目76単位
		食品化学実験	2		・選択科目20単位
		有機化学Ⅰ	2		合計 96単位
		有機化学Ⅱ	2		
		有機化学Ⅲ	2		
		食品工学Ⅰ	2		
		食品工学Ⅱ	2		
		食品プロセス学	2		
		食品分析化学	2		
		食品包装論	1		
		発酵学	2		
専門教育科目	選択科目	化学Ⅱ		2	
		生物学Ⅱ		2	
		物理学Ⅱ		2	
		人体生理学		2	
		栄養化学		2	
		機器分析学		2	
		天然物化学		2	
		ヒューマンゲノミクス		1	
		放射化学		2	
		食料経済		2	
		蛋白質工学		1	
		バイオテクノロジー論		1	
		海外研修英語		1	
		インターンシップ		1	

区分		授業科目	必修	選択	備考
専門教育科目	必修科目	微生物学	2		
		免疫学	2		
		分子生物学	2		
		遺伝子工学	2		
		食品衛生学Ⅰ	2		
		食品衛生学Ⅱ	2		
		生物化学	2		
		生化学実験	1		
		物理化学	2		
		食品物理学	2		
		物理学実験	1		
		酵素学	2		
		数学	2		
		応用統計学	2		
		技術者倫理	2		
		バイオインフォマティクス	1		
		食品生命情報科学	2		
		食品生命科学実験Ⅰ	3		（食品有機化学分野）
		食品生命科学実験Ⅱ	2		（食品衛生学分野）
		食品生命科学実験Ⅲ	2		（食品生命工学分野）
		食品生命科学実験Ⅳ	2		（食品プロセス工学分野）
		英語で学ぶ食品生命科学	2		
		卒業研究	8		
専門教育科目	選択科目	基礎数学＊		2	＊卒業必要単位としては取り扱われない
		分析化学		2	
		植物学		1	
		環境工学		2	
		循環資源論		2	
		地学Ⅰ		2	
		地学Ⅱ		2	
		地学実験		1	
		代謝工学		2	
		食料生産学		2	
		食品機能学		1	
		食品マーケティング論		1	

（最低卒業必要修得単位数）132単位

食品栄養科学部履修細則別表（栄養生命科学科）

（令和6年度以降入学生用）

区分		授業科目	必修	選択	備考
学部基礎科目		化学Ⅰ	2		
		化学実験	1		
		生物学Ⅰ	2		
		生物学実験	1		（必要修得単位数）
		物理学Ⅰ	2		
		食品・栄養・環境科学概論Ⅰ	2		
		食品・栄養・環境科学概論Ⅱ	2		・必修科目 22単位
		基礎統計学	1		
		オーラルコミュニケーションⅠ	1		合計 22単位
		オーラルコミュニケーションⅡ	1		
		オーラルコミュニケーションⅢ	1		
		オーラルコミュニケーションⅣ	1		
		リスニングⅠ	1		
		リスニングⅡ	1		
		TOEIC英語Ⅰ	1		
		TOEIC英語Ⅱ	1		
		食品栄養科学入門	1		
専門教育科目	必修科目	生化学Ⅰ	2		（最低必要修得
		生化学Ⅱ	2		単位数）
		生化学実験	1		・必修科目84単位
		微生物学	2		・選択科目17単位
		免疫学	2		合計 101単位
		微生物学実験	1		
		食品衛生学実験	1		
		食品化学	2		
		食材学	2		
		基礎栄養学	2		
		応用栄養学Ⅰ	2		
		データサイエンス・AI	2		
専門教育科目	選択科目	化学Ⅱ		2	
		生物学Ⅱ		2	
		物理学Ⅱ		2	
		運動生理学		1	
		病理学		1	
		食品学実験		2	
		臨床栄養管理学Ⅱ		2	
		臨床薬理学		2	
		公衆栄養学実習		1	
		給食経営管理実習		2	
		調理科学実験		1	
		調理学実習		2	
		栄養カウンセリング論		2	
		食料経済		2	
		バイオテクノロジー論		1	
		遺伝子工学		2	
		放射化学		2	
		有機化学Ⅰ		2	
		有機化学Ⅱ		2	
		酵素学		2	
		ﾋｭｰﾏﾝｹﾞﾉﾐｸｽ		1	

区分		授業科目	必修	選択	備考
専門教育科目	必修科目	情報科学	2		
		応用栄養学Ⅱ	2		
		栄養学実験	1		
		栄養機能論	2		
		栄養化学実験	1		
		応用栄養学実習	1		
		臨床栄養学	2		
		臨床病態学	3		
		治療食実習	1		
		臨床栄養学実習	1		
		臨床栄養管理学Ⅰ	2		
		公衆衛生学	2		
		健康管理概論	1		
		公衆衛生学実験	1		
		栄養教育論Ⅰ	2		
		栄養教育論Ⅱ	2		
		栄養教育論実習	1		
		公衆栄養学Ⅰ	2		
		公衆栄養学Ⅱ	1		
		給食経営管理論Ⅰ	2		
		給食経営管理論Ⅱ	2		
		調理科学	2		
		応用統計学	2		
		栄養疫学	1		
		食品学総論	2		
		食品衛生学	2		
		解剖生理学	3		
		解剖生理学実験	1		
		保健医療福祉論	1		
		食品分析化学	2		
		分子生物学	2		
		栄養生命科学研究	3		
		卒業研究	8		
専門教育科目	選択科目	栄養生命科学英語		1	
		総合演習		2	
		臨地実習（臨床栄養学）		2	
		臨地実習（公衆栄養学）		1	
		校外実習（給食の運営）		1	
		海外研修英語		1	

（最低卒業必要修得単位数） 137単位

食品栄養科学部履修細則別表(環境生命科学科)

(令和6年度以降入学生用)

区分		授業科目	必修	選択	備考
学部基礎科目		化学Ⅰ	2		
		化学実験	1		
		生物学Ⅰ	2		(必要修得単位数)
		生物学実験	1		
		物理学Ⅰ	2		
		食品・栄養・環境科学概論Ⅰ	2		・必修科目 22単位
		食品・栄養・環境科学概論Ⅱ	2		
		基礎統計学	1		合計 22単位
		オーラルコミュニケーションⅠ	1		
		オーラルコミュニケーションⅡ	1		
		オーラルコミュニケーションⅢ	1		
		オーラルコミュニケーションⅣ	1		
		リスニングⅠ	1		
		リスニングⅡ	1		
		TOEIC英語Ⅰ	1		
		TOEIC英語Ⅱ	1		
		食品栄養科学入門	1		
専門教育科目	必修科目	環境学総論	2		(最低必要修得単位数)
		分析化学	2		
		植物学	1		・必修科目 54単位
		基礎生化学	2		・選択科目 34単位
		細胞生物学	2		合計 88単位
		生態遺伝学	2		
		基礎環境生命科学実験	1		
		物理学実験	1		
		物理化学	2		
		数学	2		
		情報科学	2		
		応用統計学	2		
		植物生理学	2		
		動物生理学	2		
		技術者倫理	2		
		環境生命科学実験Ⅰ	2		
		環境生命科学実験Ⅱ	3		
		環境生命科学実験Ⅲ	2		
		環境生命科学実験Ⅳ	2.5		
		環境科学英語Ⅰ	1.5		
		環境科学英語Ⅱ	1		
		Environmental and Life Sciences	2		
		環境生命科学英語	1		
		フィールドワーク	1		
		環境生命科学研究	3		
		卒業研究	8		

区分		授業科目	必修	選択	備考
専門教育科目	選択科目A	微生物学		2	・選択科目Aから2単位以上履修
		環境微生物学		2	
	選択科目B	食品衛生学Ⅰ		2	・選択科目Bから2単位以上履修
		食品衛生学Ⅱ		2	
		ヒューマンエコロジー		2	
	選択科目C	環境有機化学		2	・選択科目Cから2単位以上履修
		毒性学		2	
		反応有機化学		2	
		合成生物学		2	
		化学Ⅱ		2	
		食品化学		2	
	選択科目D	環境分析化学		2	・選択科目A～Dから22単位以上履修
		栄養学総論		2	
		発生遺伝学		2	
		放射化学		2	
		酵素学		2	
		食料生産学		2	
	選択科目E	環境工学		2	・選択科目A～Eから34単位以上履修
		植物環境学		2	
		代謝工学		2	
		環境計量論		2	
		環境応答学		2	
		循環資源論		2	
		食品学総論		2	
		インターンシップ		1	
		生物学Ⅱ		2	
		物理学Ⅱ		2	
		地学Ⅰ		2	
		地学Ⅱ		2	
		地学実験		1	
		遺伝子工学		2	
		発酵学		2	
		免疫学		2	
		食料経済		2	
		天然物化学		2	
		食品生命情報科学		2	
		海外研修英語		1	
		基礎数学＊		2	＊卒業必要単位としては取り扱われない

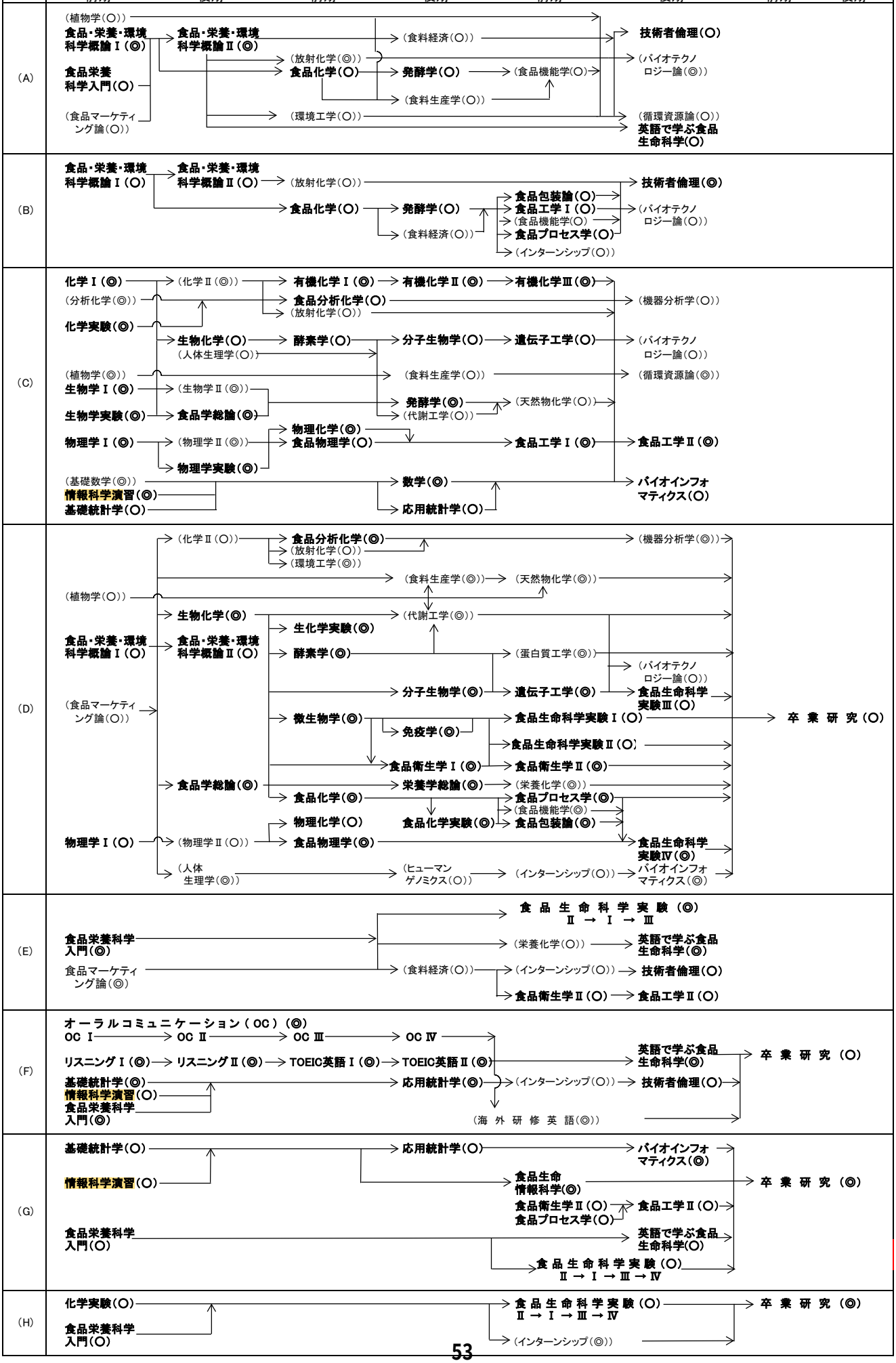
(最低卒業必要修得単位数) 124単位

食品生命科学科　授業科目の流れとディプロマ・ポリシーの関係

◎ー必修　(三)は三学科合同授業　(合)はニ学科合同授業
無印ー選択　(集)は集中講義　(全)は全学共通科目

ディプロマ・ポリシー		1年生	単位	2年生	単位	3年生	単位	4年生	単位
1	幅広い教養を身に付けた上で、食と健康に関わる食品科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。	◎化学Ⅰ（三） ◎生物学Ⅰ（三） ◎物理学Ⅰ（三） ◎食品学総論（合） ◎化学実験（三） ◎生物学実験（三） ◎情報科学演習 分析化学（合） 植物学（合） 化学Ⅱ（三） 生物学Ⅱ（三） 物理学Ⅱ（三）	2 2 2 2 1 1 1 2 1 2 2 2	◎有機化学Ⅰ（合） ◎物理化学（合） ◎有機化学Ⅱ（合） ◎発酵学（合） ◎数学（合） 地学Ⅰ（合） 地学Ⅱ（合） 地学実験（合、集）	2 2 2 2 2 2 2 1	◎有機化学Ⅲ 循環資源論（合）	2 2		
2	食品科学に関する広範な知識と関連技術に基づき、食品に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を備えている。	◎生物化学 ◎食品学総論（合） 人体生理学	2 2 2	◎食品分析化学（合） ◎酵素学（三） ◎微生物学（合） ◎食品化学（三） ◎食品物理学 ◎分子生物学（合） ◎免疫学（三） ◎栄養学総論（合） ◎生化学実験 ◎食品化学実験 食料生産学（合） 環境工学（合） 代謝工学（合） ヒューマンゲノミクス（合）	2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 1	◎食品プロセス学 ◎食品包装論（集） ◎遺伝子工学（三） ◎食品工学Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅳ 天然物化学（合） 蛋白質工学 食品機能学 栄養化学 機器分析学	2 1 2 2 2 2 1 1 2 2	◎卒業研究	8
3	食品科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を備えている。	◎基礎統計学（三） ◎数理・データサイエンス・AI入門（全）	1 1	◎応用統計学（三）	2	◎食品生命情報科学 ◎バイオインフォマティクス ◎食品生命科学実験Ⅰ ◎食品生命科学実験Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅲ ◎食品生命科学実験Ⅳ	2 1 3 2 2 2	◎卒業研究	8
4	食品科学に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。	◎オーラルコミュニケーションⅠ（三） ◎リスニングⅠ（三） ◎オーラルコミュニケーションⅡ（三） ◎リスニングⅡ（三）	1 1 1 1	◎オーラルコミュニケーションⅢ（三） ◎TOEIC英語Ⅰ（三） ◎オーラルコミュニケーションⅣ（三） ◎TOEIC英語Ⅱ（三）	1 1 1 1	◎英語で学ぶ食品生命科学 海外研修英語（集）	2 1	◎卒業研究	8
5	豊かな人間性と食の安全に対する高い倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。	◎食品栄養科学入門（三） ◎物理学実験（合） 食品マーケティング論	1 1 1	◎食品衛生学Ⅰ（合）	2	◎食品衛生学Ⅱ（合） ◎食品生命科学実験Ⅰ ◎食品生命科学実験Ⅱ ◎食品生命科学実験Ⅲ インターンシップ（合、集）	2 3 2 2 1	◎卒業研究	8
6	食品技術者としての社会的な役割と責任を理解し、食品関連産業の発展に貢献することができる。	◎食品・栄養・環境科学概論Ⅰ（三） ◎食品・栄養・環境科学概論Ⅱ（三）	2 2	放射化学（三） 食料経済（三）	2 2	◎食品工学Ⅰ ◎技術者倫理 バイオテクノロジー論（合） インターンシップ（合、集）	2 2 1 1		

食品生命科学科の授業科目の流れ（令和５年度入学生用）



*全学共通科目の数理データサイエンス・AI入門は記載されていない。

栄養生命科学科　授業科目の流れとディプロマ・ポリシーの関係

◎ー必修　(三)は三学科合同授業　(合)は食品生命科学科との合同授業
無印ー選択　(集)は集中講義　(全)は全学共通科目

ディプロマ・ポリシー		1年生	単位	2年生	単位	3年生	単位	4年生	単位
1	幅広い教養を身に付けた上で、食と健康に関わる栄養科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。	◎食品栄養科学入門（三）	1	◎分子生物学（合）	2	遺伝子工学（三）	2	◎卒業研究	8
		◎食品栄養環境科学概論Ⅰ（三）	2	◎免疫学（三）	2	バイオテクノロジー論（合）	1		
		◎食品栄養環境科学概論Ⅱ（三）	2	◎微生物学	2	◎栄養生命科学研究	3		
		◎化学Ⅰ（三）	2	◎応用統計学（三）	2				
		◎生物学Ⅰ（三）	2	ヒューマンゲノミクス（合）	1				
		◎物理学Ⅰ（三）	2	放射化学（三）	2				
		◎化学実験（三）	1	有機化学Ⅰ（合）	2				
		◎生物学実験（三）	1	有機化学Ⅱ（合）	2				
		◎基礎統計学（三）	1	酵素学（三）	2				
		◎情報科学	2						
		◎数理・データサイエンス・AI入門（全）	1						
		化学Ⅱ（三）	2						
		生物学Ⅱ（三）	2						
		物理学Ⅱ（三）	2						
2	食と健康に関する広範な知識と関連技術を駆使して、栄養に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を有している。	◎解剖生理学			3	◎公衆衛生学	2	◎卒業研究	8
		◎生化学Ⅰ	2	◎生化学Ⅱ	2	◎臨床栄養学	2		
		◎食品学総論	2	◎健康管理概論	1	◎臨床栄養管理学Ⅰ	2		
		◎調理科学	2	◎臨床病態学	3	○臨床栄養管理学Ⅱ	2		
				◎栄養教育論Ⅰ	2	◎公衆栄養学Ⅰ	2		
				◎食品衛生学	2	◎公衆栄養学Ⅱ	1		
				◎食材学	2	◎栄養疫学	1		
				◎食品分析化学（合）	2	○臨床薬理学	2		
				◎食品化学（三）	2	◎データサイエンス・AI	2		
				○運動生理学（集）	1	◎栄養生命科学研究	3		
				○病理学	1				
				食料経済（三）	2				
3	栄養科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を備えている。	○調理学実習	2	◎生化学実験	1	◎応用栄養学Ⅱ	2	◎卒業研究	8
				◎基礎栄養学	2	◎栄養教育論Ⅱ	2		
				◎応用栄養学Ⅰ	2	◎栄養機能論	2		
				○食品学実験	2	◎公衆衛生学実験	1		
				○調理科学実験	1	◎解剖生理学実験	1		
						◎微生物学実験	1		
						◎食品衛生学実験	1		
						◎栄養学実験	1		
						◎栄養化学実験	1		
						◎栄養生命科学研究	3		
4	栄養科学に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。	◎リスニングⅠ（三）	1	◎TOEIC英語Ⅰ（三）	1	栄養生命科学英語	1	◎卒業研究	8
		◎リスニングⅡ（三）	1	◎TOEIC英語Ⅱ（三）	1	◎栄養生命科学研究	3		
		◎オーラルコミュニケーションⅠ（三）	1	◎オーラルコミュニケーションⅢ（三）	1				
		◎オーラルコミュニケーションⅡ（三）	1	◎オーラルコミュニケーションⅣ（三）	1				
5	創造性あふれる豊かな人間性と栄養科学の専門家としての倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と 協働・連携することができる。	◎保健医療福祉論	1	◎給食経営管理論Ⅰ	2	◎応用栄養学実習	1	◎卒業研究	8
				◎給食経営管理論Ⅱ	2	◎臨床栄養学実習	1		
				○栄養カウンセリング論	2	◎治療食実習	1		
						◎栄養教育論実習	1		
						○公衆栄養学実習	1		
						○給食経営管理実習	2		
						◎栄養生命科学研究	3		
6	管理栄養士として人間の健康と長寿を支える栄養に関わる諸問題の解決に貢献することができる。					○総合演習	2	○臨地実習（公衆栄養学）	1
						○校外実習（給食の運営）	1	◎卒業研究	8
						○臨地実習（臨床栄養学）	2		
						◎栄養生命科学研究	3		

栄養生命科学科の授業科目の流れ（令和５年度入学生用）

●：必修、○：選択必修　無印：選択

		1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目	自然科学	●食品栄養科学入門 ●食品栄養環境科学概論Ⅰ・Ⅱ ●基礎統計学●化学実験●生物学実験 ●化学Ⅰ●生物Ⅰ●物理学Ⅰ 化学Ⅱ　生物Ⅱ　物理学Ⅱ	●食品分析化学●食品化学 ●分子生物学●免疫学●応用統計学 ヒューマンゲノミクス　放射化学 有機化学Ⅰ・Ⅱ　酵素学　食糧経済	遺伝子工学 バイオテクノロジー論	
	外国語	●リスニングⅠ・Ⅱ ●オーラルコミュニケーションⅠ・Ⅱ	●TOEIC英語Ⅰ・Ⅱ ●オーラルコミュニケーションⅢ・Ⅳ	栄養生命科学英語	
	保健体育	●身体運動科学A	●身体運動科学B		
専門基礎分野	社会・環境と健康	●情報科学 ●保健医療福祉論	●健康管理概論	●公衆衛生学 ●公衆衛生学実験	
	人体の構造と機能・疾病の成り立ち	●生化学Ⅰ ●解剖生理学	●生化学Ⅱ●解剖生理学 ●生化学実験●微生物学 ●臨床病態学○運動生理学○病理学	●解剖生理学実験 ●微生物学実験	
	食べ物と健康	●食品学総論 ●調理科学○調理学実習	●食品衛生学●食材学 ○食品学実験○調理科学実験	●食品衛生学実験	
専門分野	基礎栄養学		●基礎栄養学	●栄養学実験 ●栄養化学実験	
	応用栄養学		●応用栄養学Ⅰ	●応用栄養学Ⅱ ●栄養機能論 ●応用栄養学実習	
	栄養教育論		●栄養教育論Ⅰ ○栄養カウンセリング論	●栄養教育論Ⅱ ●栄養教育論実習	
	臨床栄養学			●臨床栄養学 ●臨床栄養管理学Ⅰ ○臨床栄養管理学Ⅱ ●臨床栄養学実習 ●治療食実習 ○臨床薬理学	
	公衆栄養学			●公衆栄養学Ⅰ ●公衆栄養学Ⅱ ○公衆栄養学実習 ●栄養疫学 ●データサイエンス・AI	
	給食経営管理論		●給食経営管理論Ⅰ ●給食経営管理論Ⅱ	○給食経営管理実習	
	総合演習			○総合演習	
	臨地実習			○校外実習（給食の運営） ○臨地実習（臨床栄養学）	○臨地実習（公衆栄養学）
	教職科目（栄養教諭）	日本国憲法　教職論	学校栄養教育論 教育原理　教育心理学 教育社会学　教育方法	学校栄養教育実践論 生徒指導　道徳指導論 教育課程・特別活動論 学校カウンセリング 特別支援教育 総合学習の指導法	栄養教育実習事前事後指導 栄養教育実習 教職実践演習（栄養教諭）

●栄養生命科学研究

●卒業研究

＊全学共通科目の数理データサイエンス・AI入門は記載されていない。

環境生命科学科　授業科目の流れとディプロマ・ポリシーの関係

◎ー必修　(三)は三学科合同授業　(合)は食品生命科学科との合同授業
無印ー選択　(集)は集中講義　(全)は全学共通科目

ディプロマ・ポリシー		1年生	単位	2年生	単位	3年生	単位	4年生	単位
1	幅広い教養を身につけた上で、食と健康に関わる環境科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。	◎化学Ⅰ（三） ◎生物学Ⅰ（三） ◎物理学Ⅰ（三） ◎食品栄養環境科学概論Ⅰ（三） ◎基礎統計学（三） ◎食品栄養科学入門（三） 基礎数学（合） ◎食品栄養環境科学概論Ⅱ（三） ◎環境学総論 食品学総論（合） 化学Ⅱ（三） 生物学Ⅱ（三） 物理学Ⅱ（三） ◎数理・データサイエンス・AI入門	25	◎数学（合） ◎応用統計学（三） ◎物理化学（合） 地学Ⅰ（合） 地学Ⅱ（合） 地学実験（合, 集）	11	食品生命情報科学（合）	2		
2	食と健康に関わる環境分野の知識と技術に基づき、環境に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を備えている。	◎分析化学（合） ◎基礎生化学	4	◎細胞生物学 ◎植物生理学 ◎動物生理学 ◎生態遺伝学 植物環境学 微生物学（合） 反応有機化学 食品化学（三） 食品衛生学Ⅰ（合）	18	◎環境生命科学実験Ⅱ ◎環境生命科学実験Ⅲ ◎環境生命科学実験Ⅳ ◎環境生命科学研究	10.5	◎卒業研究	8
3	環境科学と生命科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を備えている。	◎化学実験（三） ◎生物学実験（三） ◎植物学（合） ◎情報科学 ◎物理学実験（合）	6	◎基礎環境生命科学実験 ◎環境生命科学実験Ⅰ ◎フィールドワーク（集）	4	◎環境生命科学実験Ⅱ ◎環境生命科学実験Ⅲ ◎環境生命科学実験Ⅳ ◎環境生命科学研究 食品生命情報科学（合）	12.5	◎卒業研究	8
4	環境に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。	◎オーラルコミュニケーションⅠ（三） ◎リスニングⅠ（三） ◎オーラルコミュニケーションⅡ（三） ◎リスニングⅡ（三） ◎環境科学英語I	5.5	◎オーラルコミュニケーションⅢ（三） ◎TOEIC英語Ⅰ（三） ◎環境科学英語Ⅱ ◎オーラルコミュニケーションⅣ（三） ◎TOEIC英語Ⅱ（三）	5	◎Environmental and Life Sciences ◎環境生命科学英語	3		
5	豊かな人間性と環境保全に対する高い倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。	ヒューマンエコロジー	2			インターンシップ（合, 集） ◎技術者倫理	3		
6	環境計量と環境・生体影響評価に関する知識や技術を修得し、環境保全や食の生産に貢献することができる。			合成生物学 環境有機化学 環境分析化学 食料生産学 環境応答学 放射化学（三） 環境微生物学 発酵学（合） 免疫学（三） 食料経済（三）	20	毒性学 発生遺伝学 環境工学 環境計量論 循環資源論（合） 食品衛生学Ⅱ（合） 遺伝子工学（三） 天然物化学（合） 酵素学（三） 代謝工学（合） 栄養学総論（合）	22		

環境生命科学科の授業科目の流れ（令和5年度入学生用）

太字：必修科目　　細字：選択科目

1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年
食品・栄養・環境科学概論Ⅰ **食品栄養科学入門**	**食品・栄養・環境科学概論Ⅱ** **環境学総論** 食品学総論	食品化学	ヒューマンエコロジー 食品衛生学Ⅰ 食料経済	食品衛生学Ⅱ	**技術者倫理** 栄養学総論	
物理学Ⅰ	物理学Ⅱ 物理学実験	**物理化学** 地学Ⅰ 地学実験	地学Ⅱ			
化学Ⅰ **分析化学**	化学Ⅱ	反応有機化学 放射化学	環境有機化学 環境分析化学	環境工学 環境計量論 天然物化学	循環資源論	
化学実験		**基礎環境生命科学実験** フィールドワーク	**環境生命科学実験Ⅰ**	**環境生命科学実験Ⅳ**	**環境生命科学研究**	
生物学Ⅰ **植物学**	**基礎生化学** 生物学Ⅱ	**植物生理学** **動物生理学** **細胞生物学** 合成生物学 環境微生物学 微生物学	**生態遺伝学** 植物環境学 食料生産学 環境応答学 発酵学 免疫学	発生遺伝学 毒性学 酵素学 遺伝子工学	代謝工学	
生物学実験		**基礎環境生命科学実験** フィールドワーク		**環境生命科学実験Ⅱ** **環境生命科学実験Ⅲ**	**環境生命科学研究**	
基礎統計学 **情報科学**			**応用統計学** **数学**		食品生命情報科学	
オーラルコミュニケーションⅠ リスニングⅠ	オーラルコミュニケーションⅡ リスニングⅡ	オーラルコミュニケーションⅢ TOEIC英語Ⅰ	オーラルコミュニケーションⅣ TOEIC英語Ⅱ			
環境科学英語Ⅰ		**環境科学英語Ⅱ**		Environmental and Life Sciences	**環境生命科学英語**	
海外研修英語				インターンシップ		

卒業研究

＊全学共通科目の数理データサイエンス・AI入門は記載されていない。

（R6年度以前）

国際関係学部　国際関係学科　カリキュラムマップ

科目群	科目名	配当年次	DP1	DP2	DP3	DP4
LC1	国際政治入門Ⅰ	1･2	○	○		
	国際政治入門Ⅱ	1･2	○	○		
	国際政治入門Ⅲ	1･2	○	○		
	国際政治入門Ⅳ	1･2	○	○		
	政治学入門	1･2	○	○		
	外交史入門	1･2	○	○		
	国際法学入門	1･2	○	○		
	障害学入門	1･2	○	○		
	家族･ジェンダー論入門	1･2	○	○		
	グローバル化と地域社会	1･2	○	○		
	実践的文章論A･B	1･2	○	○		
	ベーシック･スタディⅠ	1･2	○	○		
	ベーシック･スタディⅡ	1･2	○	○		
	ベーシック･スタディⅢ	1･2	○	○		
	コンピュータ･リテラシー	1･2	○	○		
	社会調査法入門	1･2	○	○		
	社会統計学ⅠA･B	1･2	○	○		
	日本語教育学A	1･2	○	○		
	日本文学研究ⅠA･B	1･2	○	○		
LC2	フレッシュマンイングリッシュⅠA･B	1	○	○		
	フレッシュマンイングリッシュⅡA･B	1	○	○		
	英語コミュニケーションA･B	2	○	○		
	英会話A･B	1･2	○	○		
	英作文A･B	1･2	○	○		
	英語プレゼンテーションA･B	2･3	○	○		
	PBL English ⅠA･B	1･2	○	○		
	英語アクティブラーニング	1･2	○	○		
	時事英語	2･3	○	○		
	英語で読む国際関係入門A･B	1･2	○	○		
	PBL English ⅡA･B	2･3	○	○		

国際関係学部　国際言語文化学科　カリキュラムマップ

科目群	科目名	配当年次	DP1	DP2	DP3	DP4
LC1	国際言語文化入門Ⅰ	1･2	○	○		
	国際言語文化入門Ⅱ	1･2	○	○		
	国際言語文化入門Ⅲ	1･2	○	○		
	国際言語文化入門Ⅳ	1･2	○	○		
	比較文化入門Ⅰ	1･2	○	○		
	比較文化入門Ⅱ	1･2	○	○		
	比較文化入門Ⅲ	1･2	○	○		
	日本思想史A･B	1･2	○	○		
	ロシアの社会と文化	1･2	○	○		
	中華圏の社会と文化	1･2	○	○		
	韓国朝鮮の社会と文化	1･2	○	○		
	東南アジアの社会と文化	1･2	○	○		
	文学と社会	1･2	○	○		
	歴史と社会	1･2	○	○		
	比較文学入門	1･2	○	○		
	映像と社会	1･2	○	○		
	ヨーロッパ文学入門	1･2	○	○		
	西洋古典入門	1･2	○	○		
	コンピュータ･リテラシー	1･2	○	○		
	日本語教育学A	1･2	○	○		
	日本文学研究ⅠA･B	1･2	○	○		
	社会調査法入門	1･2	○	○		
	社会統計学ⅠA･B	1･2	○	○		
LC2	フレッシュマンイングリッシュⅠA･B	1	○	○		
	フレッシュマンイングリッシュⅡA･B	1	○	○		
	英語コミュニケーションA･B	2	○	○		
	英会話A･B	1･2	○	○		
	英作文A･B	1･2	○	○		
	英語プレゼンテーションA･B	2･3	○	○		
	PBL English ⅠA･B	1･2	○	○		
	英語アクティブラーニング	1･2	○	○		

国際関係学部　国際関係学科　専門教育科目

科目群			科目名	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	担当教員（*斜体*は非常勤講師）
ラーニングクラスター（46単位）	LC1 アカデミック・リテラシー（8単位）		国際政治入門Ⅰ	1･2		2	今年度開講せず(佐藤真)
			国際政治入門Ⅱ	1･2		2	山本
			国際政治入門Ⅲ	1･2		2	今年度開講せず(小窪)
			国際政治入門Ⅳ	1･2		2	浜
			政治学入門	1･2		2	前山
			外交史入門	1･2		2	森山
			国際法学入門	1･2		2	坂巻
			障害学入門	1･2		2	二羽
			家族･ジェンダー論入門	1･2		2	犬塚
			グローバル化と地域社会	1･2		2	高畑
			実践的文章論A･B	1･2		各2	A:飯野勝　B:*深津*
			ベーシック･スタディⅠ	1･2		2	宮崎
			ベーシック･スタディⅡ	1･2		2	飯野光
			ベーシック･スタディⅢ	1･2		2	青山
			コンピュータ･リテラシー	1･2		2	青山･*天野*･*竹内*･*坂本*
			社会調査法入門	1･2		2	坪田
			社会統計学ⅠA･B	1･2		各2	*渡邊*
			日本語教育学A	1･2		2	酒井
			日本文学研究ⅠA･B	1･2		各2	A:鈴木さ　B:細川
	LC2 英語コミュニケーション（14単位）	必修英語（6単位）	フレッシュマンイングリッシュⅠA･B	1	各1		Hernandez･ Lawrence･ Knowles･*Arshavskaia*
			フレッシュマンイングリッシュⅡA･B	1	各1		岡村･*辻*･*白畑*･*大瀧*
			英語コミュニケーションA･B	2	各1		Hernandez･*Suzuki*･田中 小田･ Arshavskaia･*青島*
		課題探究型英語Ⅰ（4単位）	英会話A･B	1･2		各1	Knowles･Hernandez Arshavskaia･Lawrence
			英作文A･B	1･2		各1	米山･岡村･*白畑*･Arshavskaia･相羽
			英語プレゼンテーションA･B	2･3		各1	A:ディハーン･ Knowles B:リダン･Knowles
			PBL English ⅠA･B	1･2		各2	リダン･*グランドン*
		課題探究型英語Ⅱ（4単位）	英語アクティブラーニング	1･2		2	澤田･岡村
			時事英語	2･3		2	澤田
			英語で読む国際関係入門A･B	1･2		各1	A:栗田･澤田･北野･村橋･*近藤* B:澤田･飯野光･青山･*近藤*
			PBL English ⅡA･B	2･3		各2	ディハーン
	LC3 地域実践力（16単位）	地域言語（8単位）	中国語ⅠA･B	1		各1	*王*
			中国語ⅡA･B	1		各1	奈倉
			中国語ⅢA･B	2		各1	*王*
			中国語ⅣA･B	2		各1	大野
			韓国語ⅠA･B	1		各1	小針･*金*
			韓国語ⅡA･B	1		各1	小針･*金*
			韓国語ⅢA･B	2		各1	小針
			韓国語ⅣA･B	2		各1	小針･*金*

履　修　方　法

LC1アカデミック・リテラシー
国際関係学科においては，国際関係学科LC1アカデミック・リテラシーに指定された科目のうちから8単位を修得しなければならない。

LC2英語コミュニケーション
（1）フレッシュマンイングリッシュⅠA・B，フレッシュマンイングリッシュⅡA・B及び英語コミュニケーションA・Bのすべてを修得しなければならない。

（2）課題探究型英語Ⅰに指定された科目のうちから4単位を修得しなければならない。ただし、各学期履修できる科目は原則1科目とする。
また、PBL EnglishⅠA・Bは必ずAを先に履修しなければならない。

（3）課題探究型英語Ⅱに指定された科目のうちから4単位を修得しなければならない。ただし、各学期履修できる科目は原則1科目とする。
また、PBL EnglishⅡA・Bは必ずAを先に履修しなければならない。

LC3地域実践力
（1）地域言語に指定された科目である，中国語ⅠA・B～ⅣA・B，韓国語ⅠA・B～ⅣA・B，フィリピン語ⅠA・B～ ⅣA・B，ドイツ語ⅠA・B～ⅣA・B，フランス語ⅠA・B～ⅣA・B，スペイン語ⅠA・B～ⅣA・B，ロシア語ⅠA・B ～ⅣA・B，日本語ⅠA・B～ⅣA・Bのうちから1言語8単位を修得しなければならない。ただし，日本語ⅠA・B～ ⅣA・Bは留学生に限る。いずれの言語も同一年度内にⅠA・B，ⅡA・B（またはⅢA・B，ⅣA・B）と連続して履修しなければならない。

（2）地域研究・フィールドワークに指定された科目のうちから8単位を修得しなければならない。

国際関係学部　国際言語文化学科　専門教育科目

科目群			科目名	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	担当教員（*斜体*は非常勤講師）
ラーニングクラスター（46単位）	LC1 アカデミック・リテラシー（8単位）		国際言語文化入門Ⅰ	1･2		2	澤田
			国際言語文化入門Ⅱ	1･2		2	米山
			国際言語文化入門Ⅲ	1･2		2	栗田
			国際言語文化入門Ⅳ	1･2		2	寺尾
			比較文化入門Ⅰ	1･2		2	栗田
			比較文化入門Ⅱ	1･2		2	米山
			比較文化入門Ⅲ	1･2		2	*永井*
			日本思想史A･B	1･2		各2	平山
			ロシアの社会と文化	1･2		2	堀内
			中華圏の社会と文化	1･2		2	奈倉
			韓国朝鮮の社会と文化	1･2		2	小針
			東南アジアの社会と文化	1･2		2	塩崎
			文学と社会	1･2		2	小谷
			歴史と社会	1･2		2	剣持
			比較文学入門	1･2		2	森
			映像と社会	1･2		2	ファイファー
			ヨーロッパ文学入門	1･2		2	西村
			西洋古典入門	1･2		2	橋川
			コンピュータ･リテラシー	1･2		2	青山･*天野*･*竹内*･*坂本*
			日本語教育学A	1･2		2	酒井
			日本文学研究ⅠA･B	1･2		各2	A:鈴木さ　B:細川
			社会調査法入門	1･2		2	坪田
			社会統計学ⅠA･B	1･2		各2	*渡邊*
	LC2 英語コミュニケーション（14単位）	必修英語（6単位）	フレッシュマンイングリッシュⅠA･B	1	各1		Hernandez･ Lawrence･ Knowles･*Arshavskaia*
			フレッシュマンイングリッシュⅡA･B	1	各1		岡村･*辻*･*白畑*･*大瀧*
			英語コミュニケーションA･B	2	各1		Hernandez･*Suzuki*･田中 小田･ Arshavskaia･*青島*
		課題探究型英語Ⅰ（4単位）	英会話A･B	1･2		各1	Knowles･Hernandez Arshavskaia･Lawrence
			英作文A･B	1･2		各1	米山･岡村･*白畑*･Arshavskaia･相羽
			英語プレゼンテーションA･B	2･3		各1	A:ディハーン･ Knowles B:リダン･Knowles
			PBL English ⅠA･B	1･2		各2	リダン･*グランドン*
		課題探究型英語Ⅱ（4単位）	英語アクティブラーニング	1･2		2	澤田･岡村
			時事英語	2･3		2	澤田
			英語で読む国際関係入門A･B	1･2		各1	A:栗田･澤田･北野･村橋･*近藤* B:澤田･飯野光･青山･*近藤*
			PBL English ⅡA･B	2･3		各2	ディハーン

履　修　方　法

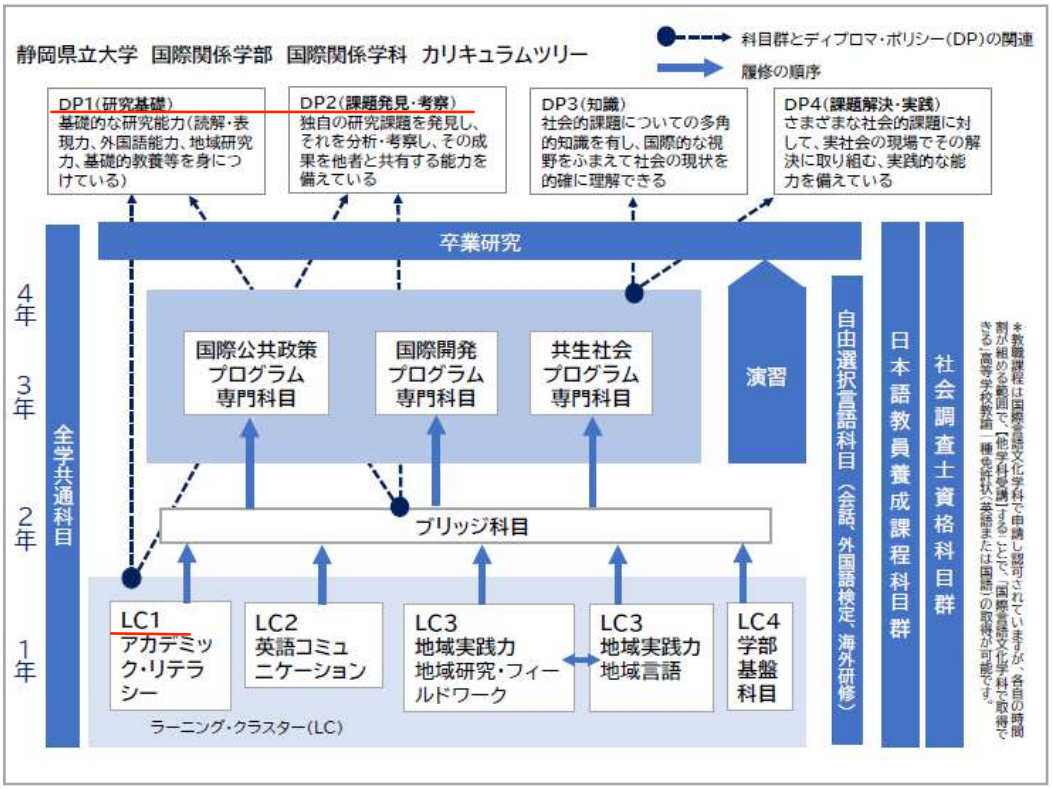
LC1アカデミック・リテラシー
国際言語文化学科においては, 国際言語文化学科LC1アカデミック・リテラシーに指定された科目のうちから8単位を修得しなければならない。

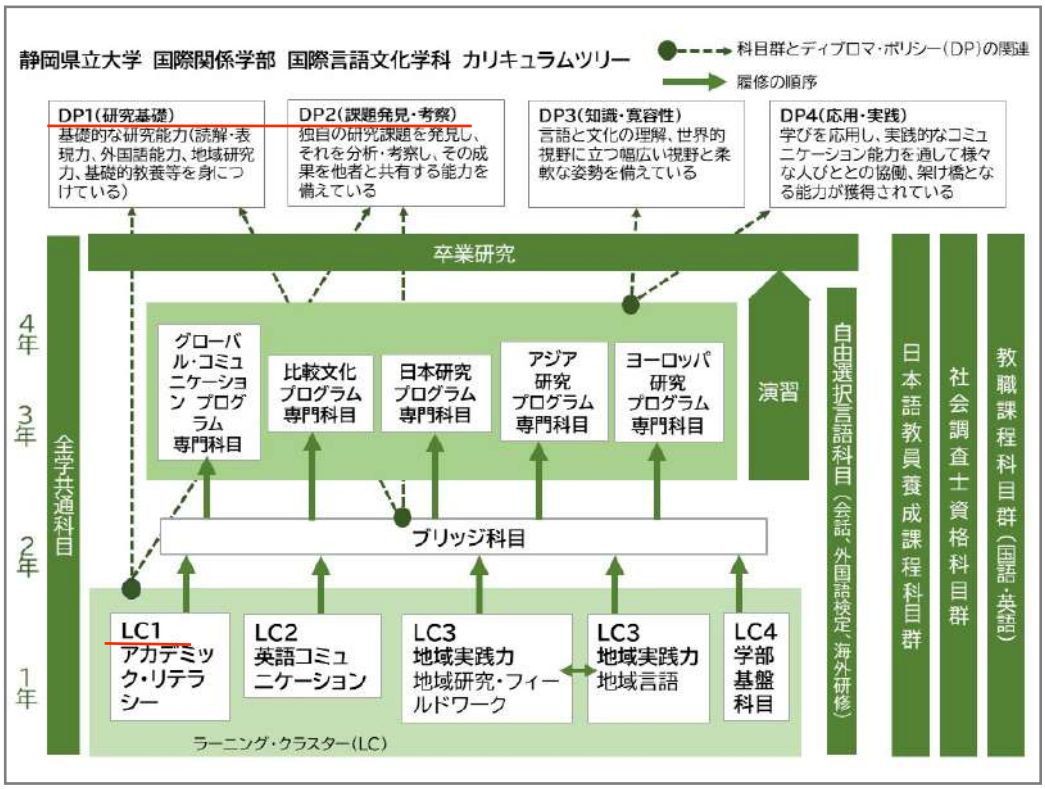
LC2英語コミュニケーション
（1）フレッシュマンイングリッシュⅠA・B, フレッシュマンイングリッシュⅡA・B及び英語コミュニケーションA・Bのすべてを修得しなければならない。

（2）課題探究型英語Ⅰに指定された科目のうちから4単位を修得しなければならない。ただし、各学期履修できる科目は原則1科目とする。また、PBL EnglishⅠA・Bは必ずAを先に履修しなければならない。

（3）課題探究型英語Ⅱに指定された科目のうちから4単位を修得しなければならない。ただし、各学期履修できる科目は原則1科目とする。また、PBL EnglishⅡA・Bは必ずAを先に履修しなければならない。

カリキュラムツリー（4年間のカリキュラムの流れ）





国際関係学部　国際関係学科　専門教育科目

科目群			科目名	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	担当教員（斜体は非常勤講師）	カリキュラムマップ DP1	DP2	DP3	DP4
ラーニングクラスター（46単位）	LC1 アカデミック・リテラシー（8単位）		国際政治入門Ⅰ	1･2		2	佐藤真	○	○		
			国際政治入門Ⅱ	1･2		2	今年度開講せず（山本）	○	○		
			国際政治入門Ⅲ	1･2		2	小窪	○	○		
			国際政治入門Ⅳ	1･2		2	今年度開講せず	○	○		
			政治学入門	1･2		2	前山	○	○		
			外交史入門	1･2		2	森山	○	○		
			国際法学入門	1･2		2	坂巻	○	○		
			障害学入門	1･2		2	二羽	○	○		
			家族･ジェンダー論入門	1･2		2	犬塚	○	○		
			グローバル化と地域社会	1･2		2	高畑	○	○		
			実践的文章論A･B	1･2		各2	飯野勝	○	○		
			ベーシック･スタディⅠ	1･2		2	宮崎	○	○		
			ベーシック･スタディⅡ	1･2		2	飯野光	○	○		
			ベーシック･スタディⅢ	1･2		2	青山	○	○		
			コンピュータ･リテラシー	1･2	2		青山･天野･竹内･坂本	○	○		
			社会調査法入門	1･2		2	坪田	○	○		
			社会統計学ⅠA･B	1･2		各2	坂本剛	○	○		
			日本語教育学A	1･2		2	酒井	○	○		
			日本文学研究ⅠA･B	1･2		各2	A:鈴木さ　B:細川	○	○		
	LC2 英語コミュニケーション（14単位）	必修英語（6単位）	フレッシュマンイングリッシュⅠA･B	1	各1		Hernandez･ Lawrence Knowles･Mostafanezhad	○	○		
			フレッシュマンイングリッシュⅡA･B	1	各1		岡村･白畑･大瀧･田村望	○	○		
			英語コミュニケーションA･B	2	各1		Hernandez･Suzuki･田中 Figer･青島	○	○		
		課題探究型英語Ⅰ（4単位）	英会話A･B	1･2		各1	Knowles･Hernandez Mostafanezhad･Lawrence	○	○		
			英作文A･B	1･2		各1	米山･岡村･白木･白畑･Arshavskaia･Figer	○	○		
			英語プレゼンテーションA･B	2･3		各1	A:ディハーン･ Knowles B:リダン･Knowles	○	○		
			PBL English ⅠA･B	1･2		各2	リダン･グランドン	○	○		
		課題探究型英語Ⅱ（4単位）	英語アクティブラーニング	1･2		2	澤田･岡村･寺尾	○	○		
			時事英語	2･3		2	澤田･寺尾	○	○		
			英語で読む国際関係入門A･B	1･2		各1	A:栗田･澤田･北野･村橋･近藤 B:澤田･飯野光･青山･近藤	○	○		
			PBL English ⅡA･B	2･3		各2	ディハーン	○	○		
	LC3 地域実践力（16単位）	地域言語（8単位）	中国語ⅠA･B	1		各1	王	○	○		
			中国語ⅡA･B	1		各1	奈倉	○	○		
			中国語ⅢA･B	2		各1	王	○	○		
			中国語ⅣA･B	2		各1	大野	○	○		
			韓国語ⅠA･B	1		各1	小針･金	○	○		
			韓国語ⅡA･B	1		各1	小針･金	○	○		
			韓国語ⅢA･B	2		各1	小針	○	○		
			韓国語ⅣA･B	2		各1	小針･金	○	○		

履　修　方　法

LC1アカデミック・リテラシー
国際関係学科においては，国際関係学科LC1アカデミック・リテラシーに指定された科目のうちから8単位を修得しなければならない。

LC2英語コミュニケーション
（1）フレッシュマンイングリッシュⅠA・B，フレッシュマンイングリッシュⅡA・B及び英語コミュニケーションA・Bのすべてを修得しなければならない。

（2）課題探究型英語Ⅰに指定された科目のうちから4単位を修得しなければならない。ただし、各学期履修できる科目は原則1科目とする。
また、PBL EnglishⅠA・Bは必ずAを先に履修しなければならない。

（3）課題探究型英語Ⅱに指定された科目のうちから4単位を修得しなければならない。ただし、各学期履修できる科目は原則1科目とする。
また、PBL EnglishⅡA・Bは必ずAを先に履修しなければならない。

LC3地域実践力
（1）地域言語に指定された科目である，中国語ⅠA・B～ⅣA・B，韓国語ⅠA・B～ⅣA・B，フィリピン語ⅠA・B～ ⅣA・B，ドイツ語ⅠA・B～ⅣA・B，フランス語ⅠA・B～ⅣA・B，スペイン語ⅠA・B～ⅣA・B，ロシア語ⅠA・B ～ⅣA・B，日本語ⅠA・B～ⅣA・Bのうちから1言語8単位を修得しなければならない。ただし，日本語ⅠA・B～ ⅣA・Bは留学生に限る。いずれの言語も同一年度内にⅠA・B，ⅡA・B（またはⅢA・B，ⅣA・B）と連続して履修しなければならない。

（2）地域研究・フィールドワークに指定された科目のうちから8単位を修得しなければならない。

国際関係学部　国際言語文化学科　専門教育科目

科目群			科目名	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	担当教員（斜体は非常勤講師）	カリキュラムマップ DP1	DP2	DP3	DP4
ラーニングクラスター（46単位）	LC1 アカデミック・リテラシー（8単位）		国際言語文化入門Ⅰ	1･2		2	澤田	○	○		
			国際言語文化入門Ⅱ	1･2		2	米山	○	○		
			国際言語文化入門Ⅲ	1･2		2	栗田	○	○		
			国際言語文化入門Ⅳ	1･2		2	今年度開講せず	○	○		
			比較文化入門Ⅰ	1･2		2	栗田	○	○		
			比較文化入門Ⅱ	1･2		2	米山	○	○		
			比較文化入門Ⅲ	1･2		2	志田	○	○		
			日本思想史A･B	1･2		各2	平山	○	○		
			ロシアの社会と文化	1･2		2	堀内	○	○		
			中華圏の社会と文化	1･2		2	奈倉	○	○		
			韓国朝鮮の社会と文化	1･2		2	小針	○	○		
			東南アジアの社会と文化	1･2		2	塩崎	○	○		
			文学と社会	1･2		2	小谷	○	○		
			歴史と社会	1･2		2	剣持	○	○		
			比較文学入門	1･2		2	森	○	○		
			映像と社会	1･2		2	ファイファー	○	○		
			ヨーロッパ文学入門	1･2		2	関	○	○		
			西洋古典入門	1･2		2	橋川	○	○		
			コンピュータ･リテラシー	1･2	2		青山･天野･竹内･坂本	○	○		
			日本語教育学A	1･2		2	酒井	○	○		
			日本文学研究ⅠA･B	1･2		各2	A:鈴木さ　B:細川	○	○		
			社会調査法入門	1･2		2	坪田	○	○		
			社会統計学ⅠA･B	1･2		各2	坂本剛	○	○		
	LC2 英語コミュニケーション（14単位）	必修英語（6単位）	フレッシュマンイングリッシュⅠA･B	1	各1		Hernandez･ Lawrence Knowles･Mostafanezhad	○	○		
			フレッシュマンイングリッシュⅡA･B	1	各1		岡村･白畑･大瀧･田村望	○	○		
			英語コミュニケーションA･B	2	各1		Hernandez･Suzuki･田中 Figer･青島	○	○		
		課題探究型英語Ⅰ（4単位）	英会話A･B	1･2		各1	Knowles･Hernandez Mostafanezhad･Lawrence	○	○		
			英作文A･B	1･2		各1	米山･岡村･白木･白畑･Arshavskaia･Figer	○	○		
			英語プレゼンテーションA･B	2･3		各1	A:ディハーン･ Knowles B:リダン･Knowles	○	○		
			PBL English ⅠA･B	1･2		各2	リダン･グランドン	○	○		
		課題探究型英語Ⅱ（4単位）	英語アクティブラーニング	1･2		2	澤田･岡村･寺尾	○	○		
			時事英語	2･3		2	澤田･寺尾	○	○		
			英語で読む国際関係入門A･B	1･2		各1	A:栗田･澤田･北野･村橋･近藤 B:澤田･飯野光･青山･近藤	○	○		
			PBL English ⅡA･B	2･3		各2	ディハーン	○	○		

履　修　方　法

LC1アカデミック・リテラシー
国際言語文化学科においては, 国際言語文化学科LC1アカデミック・リテラシーに指定された科目のうちから8単位を修得しなければならない。

LC2英語コミュニケーション（2023年度・2024年度入学生）

（1）フレッシュマンイングリッシュⅠA・B, フレッシュマンイングリッシュⅡA・B及び英語コミュニケーションA・Bのすべてを修得しなければならない。

（2）課題探究型英語Ⅰに指定された科目のうちから4単位を修得しなければならない。ただし、各学期履修できる科目は原則1科目とする。また、PBL EnglishⅠA・Bは必ずAを先に履修しなければならない。

（3）課題探究型英語Ⅱに指定された科目のうちから4単位を修得しなければならない。ただし、各学期履修できる科目は原則1科目とする。また、PBL EnglishⅡA・Bは必ずAを先に履修しなければならない。

令和6年度以降入学者用　科目一覧表

経営情報学部　　専門科目							
科目分類		授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		備　　考
					必修	選択	
学部基礎科目		基礎経営学	商　必	1	2		
		会計学総論	商　必	1	2		
		簿記論	商　必	1	2		
		基礎統計学Ⅰ	数　必	1	2		
		経営工学	数　必	1	2		
		基礎経済学		1	2		
		総合政策概論		2	2		
		行財政学概論		1	2		
		情報処理概論	情　必	1	2		
		経営情報システム概論	情　必	2	2		
		情報処理演習	情　必	1	2		
		情報リテラシⅠ	共　選　必	1	2		
		情報リテラシⅡ	情　必	1	2		
		プログラミング	商　必	2	2		
		観光学概論		1	2		
		基礎英語Ⅰ	商　必	1	1		
		基礎英語Ⅱ	商　必	1	1		
		英語会話Ⅰ	共　必	1	1		
		英語会話Ⅱ	共　必	1	1		
		英語講読Ⅰ		2	1		
		英語講読Ⅱ		2	1		
		検定英語Ⅰ		2	1		
		検定英語Ⅱ		2	1		
		スタートアップ演習		1	2		
専門教育科目	経営科目	組織行動論	商　選	2		2	
		企業論		1		2	
		国際経営論		1		2	
		多国籍企業論		3		2	
		国際比較経営論	商　必	3		2	
		起業家論		3		2	
		ベンチャービジネス論		3		2	
		経営戦略論		2		2	経営メジャー必修
		経営史		1		2	
		商業論	商　必	2		2	
		マーケティングⅠ	商　必	1		2	経営メジャー必修
		マーケティングⅡ	商　選	2		2	
		コーポレート・コミュニケーション	商　選	3		2	
		広告論	商　選	2		2	
		技術経営論		3		2	
		財務会計論	商　選	2		2	
		会社会計	商　選	1		2	
		経営分析	商　選	2		2	
		経営組織論	商　選	2		2	経営メジャー必修
		管理会計論	商　選	3		2	
		原価計算論	商　必	1		2	経営メジャー必修
		監査論		3		2	
		税務会計論	商　必	3		2	
		経営財務論	商　選	3		2	
		職業指導論	商　必	3		2	
		消費者行動論		2		2	
		経営統計調査法Ⅰ		3		2	
		経営統計調査法Ⅱ		3		2	
		ビジネス実践	商　必	3		2	経営メジャー必修
		人的資源管理論		2		2	
		国際人的資源管理論		2		2	

経営情報学部　　専門科目							
科目分類		授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		備　　考
					必修	選択	
専門教育科目	総合政策科目	公共政策論		2		2	総合政策メジャー必修
		ミクロ経済学		2		2	
		応用経済学		3		2	
		マクロ経済学		2		2	
		計量経済学	数　選	3		2	
		地域経済学		3		2	
		地域産業論		2		2	
		財政学		2		2	
		現代金融論		3		2	
		行政学		3		2	
		地方自治論		3		2	
		医療介護マネジメント論		3		2	
		保健医療システム論		2		2	
		地方財政論		3		2	
		社会保障政策論		2		2	総合政策メジャー必修
		公共経済学		3		2	
		地域福祉マネジメント論		3		2	
		医療介護政策論		3		2	
		日本国憲法	共 選 必	3		2	
		民法各論		3		2	
		法律学概論		3		2	総合政策メジャー必修
		ビジネスロー	商　必	3		2	
	情報科目	情報科学概論	情　必	1		2	
		情報理論	数　必	2		2	
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	数　必	2		2	データサイエンスメジャー必修
		オブジェクト指向プログラミング	情　必	3		2	
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	情　選	3		2	
		データベース	情　必	2		2	
		画像処理と認識	情　選	2		2	
		メディア処理論	情　必	3		2	
		人工知能	情　選	2		2	データサイエンスメジャー必修
		情報セキュリティ	情　必	2		2	
		Webシステム開発演習	情　選	3		2	
		情報システム開発論	情　必	2		2	
		経営情報システム探究	情　必	3		2	
		情報社会と情報倫理	情　必	3		2	
		情報と職業	情　必	3		2	
		情報工学実習	情　必	3		2	
		テキストマイニング		3		2	
		シミュレーション	情　必	3		2	
		データサイエンス実習		3		2	データサイエンスメジャー必修
		情報ネットワーク	情　必	2		2	データサイエンスメジャー必修
	数理科目	微分と積分	数　必	1		2	
		行列とベクトル	数　必	1		2	
		経営数学	数　選	2		2	
		確率論	数　選	2		2	
		基礎統計学Ⅱ	数　選	1		2	
		数理統計学	数　選	3		2	
		多変量解析	数　選	3		2	
		時系列分析	数　選	2		2	
		情報数学	数　必	2		2	
		数理工学	数　選	2		2	
		基礎統計学演習	数　選	2		2	
		離散数学	数　必	1		2	
		代数学応用	数　必	3		2	
		幾何学応用	数　必	3		2	
		解析学応用	数　必	3		2	
		機械学習	数　選	3		2	

経営情報学部　　専門科目							
科目分類		授業科目の名称	教職	配当年次	単位数		備　　考
					必修	選択	
専門教育科目	観光科目	観光産業論		2		2	観光マネジメントメジャー必修
		観光経営人材論		2		2	
		観光マネジメント		2		2	
		国際観光論		2		2	
		観光政策論		2		2	観光マネジメントメジャー必修
		観光経済学		2		2	
		観光調査法		3		2	観光マネジメントメジャー必修
		観光情報システム		3		2	
		観光まちづくり論		2		2	
		地方創生論		3		2	
		異文化コミュニケーション		3		2	
		観光人類学		3		2	
	複合科目	経営情報特別講義A		1		2	「会計専門職を目指すための講義」充当
		経営情報特別講義B		3		2	「ビジネスマンに学ぶビジネス入門」充当
		経営情報特別講義C		4		2	
		経営情報特別講義D		3		2	清水銀行「地域金融論」充当
		経営情報特別講義E		2		2	
		経営情報特別講義F		2		2	「リスクマネジメント論」充当
		経営情報特別講義G		2		2	「観光マネジメント」充当
		経営情報特別講義H		2		2	「国際観光論」充当
		経営情報特別講義I		2		2	「観光政策論」充当
		経営情報特別講義J		2		2	「観光経済学」充当
		経営情報特別講義K		3		2	「観光調査法」充当
		経営情報特別講義L		3		2	「観光情報システム」充当
		経営情報特別講義M				2	
		経営情報特別講義N		2		2	「観光学概論」充当
		経営情報総合A		3		2	
		経営情報総合B		3		2	
		経営情報総合C		1		2	ITﾊﾟｽﾎﾟｰﾄ試験合格をもって単位を与える ※2021年度入学生まで
		経営情報総合D		1		2	基本情報技術者試験合格をもって単位を与える ※2021年度入学生まで
		経営情報総合E		2		2	「観光産業論」充当
		経営情報総合F		2		2	「観光経営人材論」充当
		経営情報イノベーション特別講義A		1		1	
		経営情報イノベーション特別講義B		1		1	
	英語科目	海外英語研修A		1		2	
		海外英語研修B		1		2	
		海外英語研修C		1		2	
		海外英語研修D		1		1	
	自由選択科目	他学部開講科目	共選必			8以内	教職「共選必」は日本国憲法A又はB（～2012）
		他大学等開講科目				12以内	
	演　習	基礎演習Ⅰ		1		1	1年前期
		基礎演習Ⅱ		1		1	1年後期
		基礎演習Ⅲ		2		1	2年前期
		基礎演習Ⅳ		2		1	2年後期
		研究融合演習Ⅰ		3		1	
		研究融合演習Ⅱ		3		1	
		研究導入演習		3	2		3年前期 必修
		演習Ⅰ		3	2		3年後期 必修
		演習Ⅱ		4	2		4年前期 必修
	卒業研究	卒業研究		4	6		4年通年 必修

令和6年度以降入学者用　教職科目一覧表

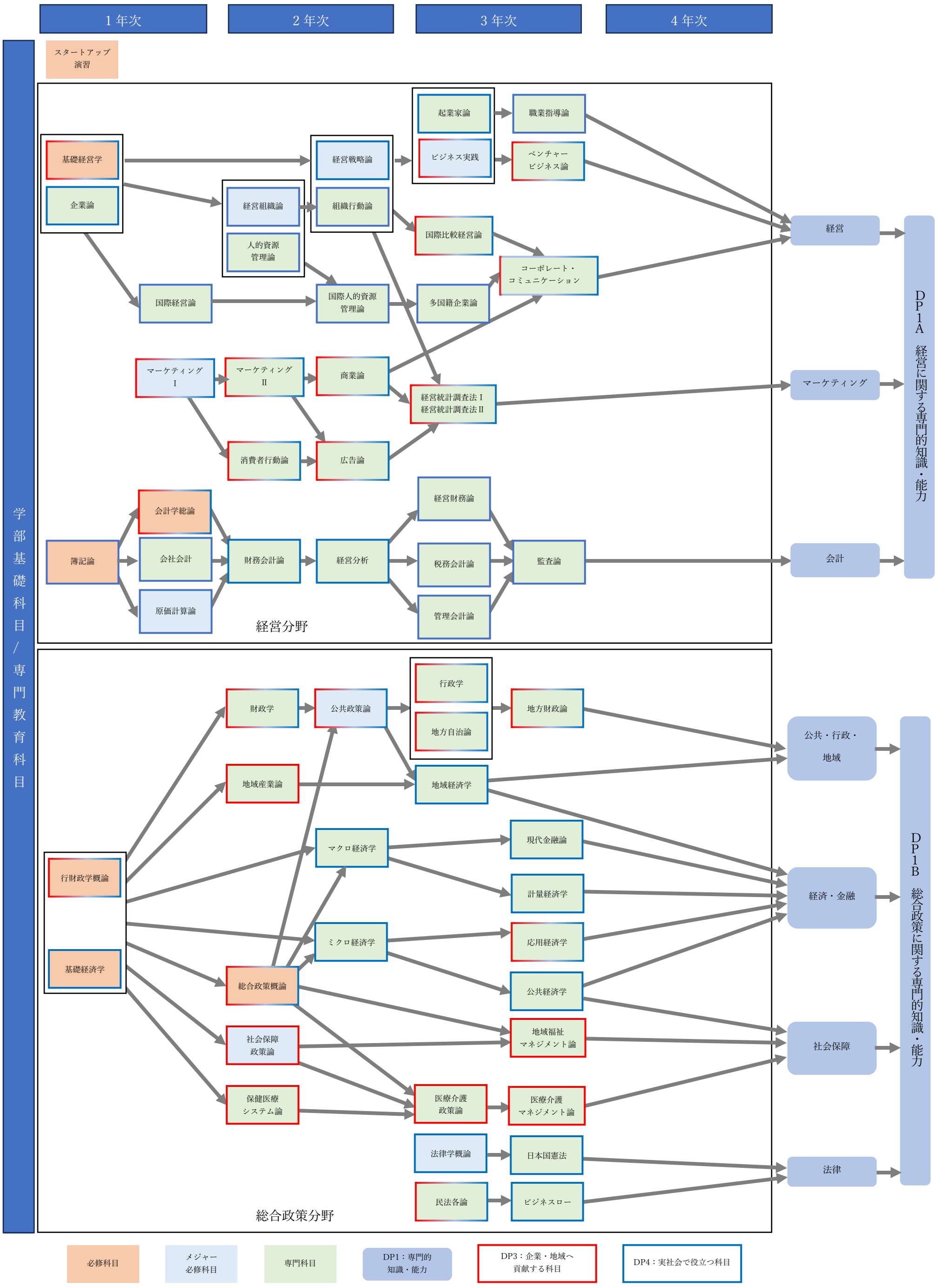
教育の基礎的理解に関する科目等							
区分	授業科目の名称	配当年次	学部（単位数）		教職（単位数）		
			必修	選択	教科	必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理A	2			共通	2	
	教育原理B	2			共通	2	
	教師論	2			共通	2	
	教育社会学	3			共通	2	
	教育心理学	2			共通	2	
	特別支援教育	3			共通	1	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合学習の指導法	3			共通	2	
	教育課程・特別活動論	3			共通	2	
	教育方法	2			共通	1	
	教育における情報通信技術の活用	2			共通	1	
	生徒指導・進路指導論	3			共通	2	
	学校カウンセリング	3			共通	2	
教育実践に関する科目	教育実習Ⅰ	4			共通	2	
	教育実習Ⅱ	4			共通	1	
	教職実践演習（高）	4			共通	2	
教職関連科目	日本国憲法　※3	2		2	共通	2	
	日本国憲法A又はB　※1	2		2	共通	2	
	身体運動科学A又はB　※2	1		2	共通	2	
	英語会話Ⅰ	1	1		共通	1	
	英語会話Ⅱ	1	1		共通	1	
	情報リテラシⅠ	1	2		共通	2	

※1　日本国憲法、日本国憲法A、日本国憲法Bのうち1つを履修すること。

※2　身体運動科学A、身体運動科学Bのうち1つを履修すること。

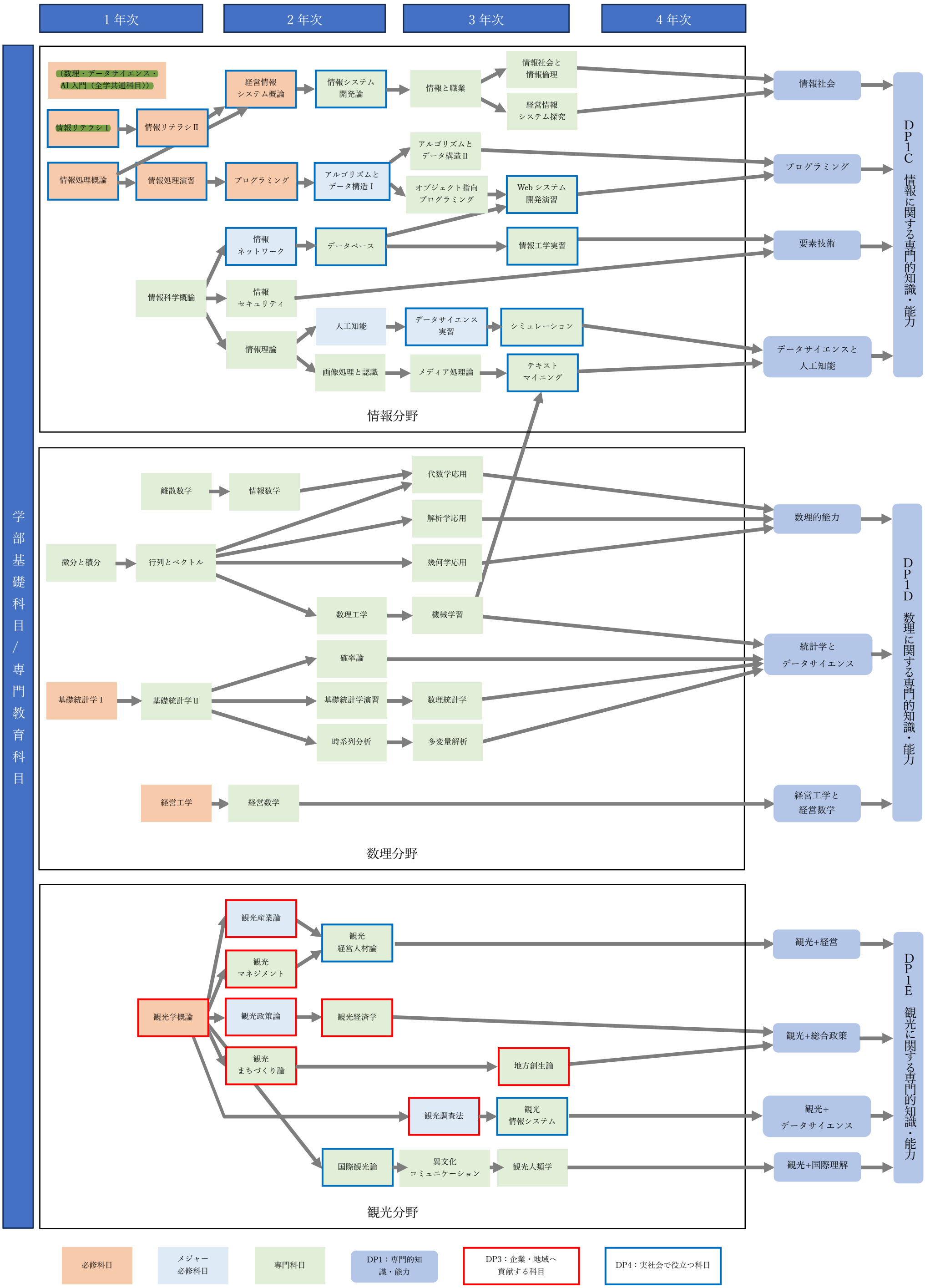
各教科の指導法に関する科目							
区分	授業科目の名称	配当年次	学部（単位数）		教職（単位数）		
			必修	選択	教科	必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	数学科教育法Ⅰ	3			数	2	
	数学科教育法Ⅱ	3			数	2	
	情報科教育法Ⅰ	3			情	2	
	情報科教育法Ⅱ	3			情	2	
	商業科教育法Ⅰ	3			商	2	
	商業科教育法Ⅱ	3			商	2	

経営情報学部 経営情報学科 カリキュラムツリー 令和６（2024）年度以降入学生用



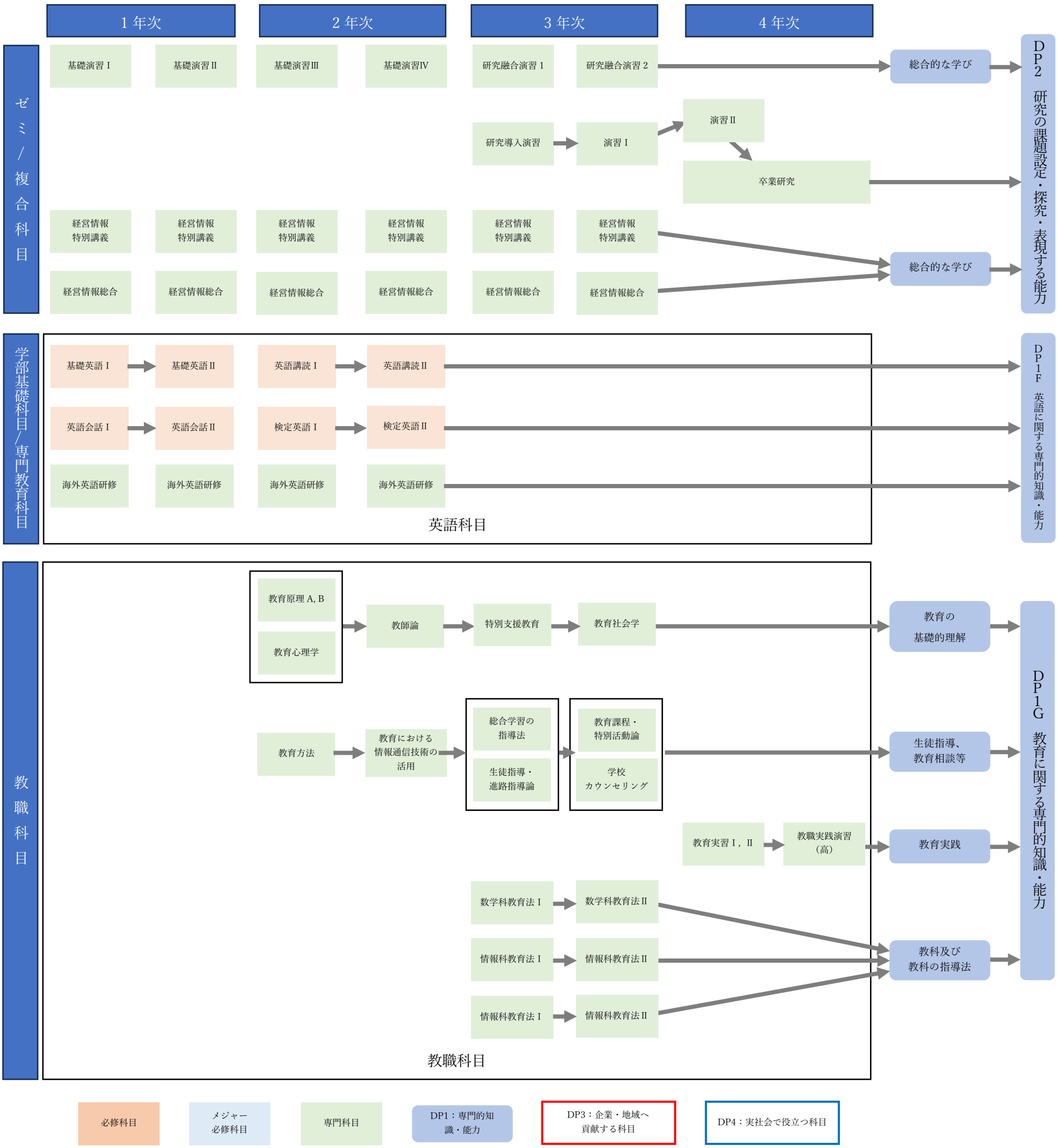
矢印の先の科目を履修して、元の科目を未履修の場合には、元の科目を履修することが望ましい

箱に囲まれた科目を履修する場合は、箱内のすべての科目を履修することが望ましい



矢印の先の科目を履修して、元の科目を未履修の場合には、元の科目を履修することが望ましい

箱に囲まれた科目を履修する場合は、箱内のすべての科目を履修することが望ましい



矢印の先の科目を履修して、元の科目を未履修の場合には、元の科目を履修することが望ましい

箱に囲まれた科目を履修する場合は、箱内のすべての科目を履修することが望ましい

経営情報学部ディプロマ・ポリシー（DP）

1．「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光マネジメント」「数理」を深く学ぶことによって、それらを活用することができる能力を身に付けている。

2．自ら研究課題を設定し、必要な情報を収集・分析して、論理的な思考力によって課題を探究し、克服していく能力と、自己の見解を文字及び口頭で表現できる能力を備えている。

3．企業や地域社会への高い関心とそれらへの貢献に対する意欲を持ち、社会の様々な場で円滑なコミュニケーションを図ることができる。

4．習得した知識や技能を柔軟に応用し、実社会で十分に活躍できる能力がある。

※カリキュラムマップ・ツリーでは、A：経営、B：総合政策、C：データサイエンス、D:数理、E：観光マネジメント、F：英語、G：教職に関連するものとして表記している。（例：DP１A→ディプロマ・ポリシーの№１のうち、「経営」に関連するもの）

経営情報学部　経営情報学科　カリキュラムマップ	令和6（2024）年度以降入学生用

教育研究上の目的	学位授与方針（ディプロマポリシー）
情報処理能力とマネジメント力を兼ね備えた、企業や地域社会に貢献することができる人材を養成する。	1.「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光マネジメント」「数理」を深く学ぶことによって、それらを活用することができる能力を身に付けている。 2. 自ら研究課題を設定し、必要な情報を収集・分析して、論理的な思考力によって課題を探究し、克服していく能力と、自己の見解を文字及び口頭で表現できる能力を備えている。 3. 企業や地域社会への高い関心とそれらへの貢献に対する意欲を持ち、社会の様々な場で円滑なコミュニケーションを図ることができる。 4. 習得した知識や技能を柔軟に応用し、実社会で十分に活躍できる能力がある。

科目区分		授業科目名	必修	選択	配当年次	DP1 専門的知識・能力	DP3 企業・地域への貢献	DP4 実社会で役立つ	備考
全学共通科目		数理・データサイエンス・AI入門	○		1	○			
学部基礎科目		スタートアップ演習	○		1				
		基礎経営学	○		1	○	○	○	
		簿記論	○		1	○		○	
		会計学総論	○		1	○	○	○	
		行財政学概論	○		1	○	○	○	
		基礎経済学	○		1	○		○	
		総合政策概論	○		2	○	○	○	
		数理・データサイエンス・AI入門（全学共通科目）	○		1	○			
		情報リテラシⅠ	○		1	○		○	
		情報リテラシⅡ	○		1	○		○	
		情報処理概論	○		1	○		○	
		情報処理演習	○		1	○		○	
		経営情報システム概論	○		2	○		○	
		プログラミング	○		2	○		○	
		基礎統計学Ⅰ	○		1	○			
		経営工学	○		1	○			
		観光学概論	○		1	○	○		
		基礎英語Ⅰ	○		1	○			
		基礎英語Ⅱ	○		1	○			
		英語会話Ⅰ	○		1	○			
		英語会話Ⅱ	○		1	○			
		英語講読Ⅰ	○		2	○			
		英語講読Ⅱ	○		2	○			
		検定英語Ⅰ	○		2	○			
		検定英語Ⅱ	○		2	○			

専門教育科目	経営科目	企業論		○	1	○		○	
		国際経営論		○	1	○		○	
		経営組織論		○	2	○		○	経営メジャー必修
		人的資源管理論		○	2	○		○	
		経営戦略論		○	2	○		○	経営メジャー必修
		組織行動論		○	2	○		○	
		国際人的資源管理論		○	2	○		○	
		起業家論		○	3	○		○	
		ビジネス実践		○	3	○	○	○	経営メジャー必修
		国際比較経営論		○	3	○	○	○	
		多国籍企業論		○	3	○		○	
		職業指導論		○	3	○		○	
		ベンチャービジネス論		○	3	○	○	○	
		コーポレート・コミュニケーション		○	3	○	○	○	
		マーケティングⅠ		○	1	○	○	○	経営メジャー必修
		マーケティングⅡ		○	2	○	○	○	
		消費者行動論		○	2	○	○	○	
		商業論		○	2	○	○	○	
		広告論		○	2	○	○	○	
		経営統計調査法Ⅰ		○	3	○	○	○	
		経営統計調査法Ⅱ		○	3	○	○	○	
		会社会計		○	1	○		○	
		原価計算論		○	1	○		○	経営メジャー必修
		財務会計論		○	2	○		○	
		経営分析		○	2	○		○	
		経営財務論		○	3	○		○	
		税務会計論		○	3	○		○	
		管理会計論		○	3	○		○	
		監査論		○	3	○		○	
	総合政策科目	財政学		○	2	○	○	○	
		地域産業論		○	2	○	○		
		公共政策論		○	2	○	○	○	
		行政学		○	3	○	○	○	
		地方自治論		○	3	○	○	○	
		地域経済学		○	3	○		○	
		地方財政論		○	3	○	○	○	
		マクロ経済学		○	2	○		○	
		ミクロ経済学		○	2	○		○	
		現代金融論		○	3	○		○	
		計量経済学		○	3	○		○	
		応用経済学		○	3	○	○	○	
		公共経済学		○	3	○		○	
		社会保障政策論		○	2	○	○		総合政策メジャー必修
		保健医療システム論		○	2	○	○		
		医療介護政策論		○	3	○	○		
		地域福祉マネジメント論		○	3	○	○		
		医療介護マネジメント論		○	3	○	○		
		法律学概論		○	3	○		○	総合政策メジャー必修
		民法各論		○	3	○	○	○	
		日本国憲法		○	3	○		○	
		ビジネスロー		○	3	○		○	

専門教育科目	情報科目	情報システム開発論		○	2	○		○	
		情報と職業		○	3	○			
		情報社会と情報倫理		○	3	○			
		経営情報システム探究		○	3	○			
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ		○	2	○		○	データサイエンスメジャー必修
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ		○	3	○			
		オブジェクト指向プログラミング		○	3	○			
		Webシステム開発演習		○	3	○		○	
		情報科学概論		○	1	○			
		情報ネットワーク		○	2	○		○	データサイエンスメジャー必修
		情報セキュリティ		○	2	○			
		データベース		○	2	○		○	
		情報工学実習		○	3	○		○	
		情報理論		○	2	○			
		人工知能		○	3	○			データサイエンスメジャー必修
		画像処理と認識		○	2	○			
		データサイエンス実習		○	3	○		○	データサイエンスメジャー必修
		メディア処理論		○	3	○			
		シミュレーション		○	3	○		○	
		テキストマイニング		○	3	○		○	
	数理科目	微分と積分		○	1	○			
		離散数学		○	1	○			
		行列とベクトル		○	1	○			
		情報数学		○	2	○			
		代数学応用		○	3	○			
		幾何学応用		○	3	○			
		解析学応用		○	3	○			
		基礎統計学Ⅱ		○	1	○			
		数理工学		○	2	○			
		確率論		○	2	○			
		基礎統計学演習		○	2	○			
		時系列分析		○	2	○			
		機械学習		○	3	○			
		数理統計学		○	3	○			
		多変量解析		○	3	○			
		経営数学		○	2	○			
	観光科目	観光産業論		○	2	○	○		観光マネジメントメジャー必修
		観光マネジメント		○	2	○	○		
		観光経営人材論		○	2	○		○	
		観光政策論		○	2	○	○		観光マネジメントメジャー必修
		観光まちづくり論		○	2	○	○		
		観光経済学		○	2	○	○		
		地方創生論		○	3	○	○		
		観光調査法		○	3	○	○		観光マネジメントメジャー必修
		観光情報システム		○	3	○		○	
		国際観光論		○	2	○		○	
		異文化コミュニケーション		○	3	○			
		観光人類学		○	3	○			
	複合科目	経営情報特別講義A～N		○		○			
		経営情報総合A～F		○		○			
	英語科目	海外英語研修A～D		○		○			
	自由選択科目	他学部開講科目		○		○			8単位以内
		他大学等開講科目		○		○			12単位以内
	演習	基礎演習Ⅰ		○	1	○			
		基礎演習Ⅱ		○	1	○			
		基礎演習Ⅲ		○	2	○			
		基礎演習Ⅳ		○	2	○			
		研究融合演習Ⅰ		○	3	○			
		研究融合演習Ⅱ		○	3	○			
		研究導入演習	○		3	○			
		演習Ⅰ	○		3	○			
		演習Ⅱ	○		4	○			
	卒業研究	卒業研究	○		4	○			

専門教育科目		教育原理A		○	2	○			
		教育原理B		○	2	○			
		教師論		○	2	○			
		特別支援教育		○	3	○			
		教育心理学		○	2	○			
		教育社会学		○	3	○			
		教育方法		○	2	○			
		教育における情報通信技術の活用		○	2	○			
		総合学習の指導法		○	3	○			
		生徒指導・進路指導論		○	3	○			
		教育課程・特別活動論		○	3	○			
		学校カウンセリング		○	3	○			
		教育実習Ⅰ		○	4	○			
		教育実習Ⅱ		○	4	○			
		教職実践演習（高）		○	4	○			
		数学科教育法Ⅰ		○	3	○			
		数学科教育法Ⅱ		○	3	○			
		情報科教育法Ⅰ		○	3	○			
		情報科教育法Ⅱ		○	3	○			
		商業科教育法Ⅰ		○	3	○			
		商業科教育法Ⅱ		○	3	○			

◎（当てはまる）○（一部当てはまる）

授業科目一覧表【令和4年度以降　入学者用】
看護学部履修細則別表1

	授業科目の名称			配当年次	開講学期	単位数 必修	単位数 選択	頁	修得必要単位
授業科目の概要	基礎分野Ⅰ（全学共通科目）	第1部門		1・2・3・4	前・後	1*	各2～1	36～129	10単位以上選択
		第2部門							
		第3部門							
		総合科目							
	基礎分野Ⅱ	運動	身体運動科学	1	通		2	132	
		研修	海外英語研修	1・2・3・4			2		
		教育	日本国憲法	1	後		2	134	
			教育学	2	後		2	136	
	基礎分野Ⅱ	主体性と判断力の育成	基礎セミナーⅠ	1	前	1		138	必修7単位
			基礎セミナーⅡ	2	前		1	140	
		英語コミュニケーション	フレッシュマンイングリッシュⅠ	1	前	1		142	
			フレッシュマンイングリッシュⅡ	1	前	1		143	
			フレッシュマンイングリッシュⅢ	1	後	1		144	
			フレッシュマンイングリッシュⅣ	1	後	1		146	
			英語コミュニケーションⅠ	2	前	1		148	
			英語コミュニケーションⅡ	2	後	1		149	
	専門基礎分野	人間と人間生活の理解	身体と心のセクシュアリティ	1	前	1		151	2単位選択必修 2単位選択必修 必修28単位＋選択4単位
			人間関係論Ⅰ	1	前	1		152	
			人間関係論Ⅱ	1	前		1	153	
			臨床心理学	2	後		1	154	
			健康行動論	2	前		1	155	
			運動と健康の生理学	1	前		1	156	
			健康環境論	1	前		1	157	
			医療・看護経済論	2	前		1	158	
			国際看護論	2	後		1	159	
		人体の構造と機能	機能形態学Ⅰ	1	前	2		160	
			機能形態学Ⅱ	1	後	2		162	
			生物化学	1	前	1		164	
			基礎健康科学演習	1	後	2		166	
		疾病の成り立ちと回復の促進	症候論	1	後	2		169	
			微生物学	1	後	1		171	
			臨床薬理学	2	前	2		173	
			臨床栄養学	2	前	2		175	
			病態学	2	前	2		177	
		健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	前	2		179	
			社会福祉論	1	後	1		181	
			保健福祉行政論	2	前	2		183	
			保健医療統計学	1	前	2		185	
			情報処理演習	1	後	1		187	
			疫学	2	後	2		189	
	基礎分野Ⅰ＋基礎分野Ⅱ＋専門基礎分野　単位数計								49（選択4含む）

	授業科目の名称			配当年次	開講学期	単位数 必修	単位数 選択	頁	修得必要単位
授業の概要	専門分野	専門分野Ⅰ	看護学概論	1	前	2		191	必修48単位
			基礎看護技術Ⅰ	1	前	1		193	
			看護コミュニケーション論	1	前	1		195	
			基礎看護技術Ⅱ	1	後	2		196	
			基礎看護技術Ⅲ	1	後	1		198	
			看護アセスメント演習	2	前	1		200	
			看護アセスメント方法論	2	前	1		202	
			基礎看護技術Ⅳ	2	後	1		204	
			看護と倫理※	2	後	1		206	
			基礎看護学実習Ⅰ	1	前	1		207	
			基礎看護学実習Ⅱ	2	通	2		208	
		専門分野Ⅱ	慢性看護学概論	2	後	2		210	
			慢性看護援助論演習	2	後	1		212	
			慢性看護学実習	3	後	2		214	
			急性期看護学概論	3	前	2		216	
			急性期看護援助論演習	3	前	1		218	
			急性期看護学実習	3	後	2		220	
			老年看護学概論	2	後	2		222	
			老年看護援助論	2	後	1		224	
			老年看護学演習	3	前	1		225	
			老年看護学実習	3	後	2		227	
			母性看護学概論	2	前	1		228	
			母性看護援助論Ⅰ	2	後	1		230	
			母性看護援助論Ⅱ	3	前	1		231	
			母性看護学演習	3	前	1		233	
			母性看護学実習	3	後	2		235	
			小児看護学概論	2	後	2		237	
			小児看護援助論	3	前	1		239	
			小児看護学演習	3	前	1		241	
			小児看護学実習	3	後	2		243	
			精神看護学概論	2	後	2		245	
			精神看護援助論	3	前	1		247	
			精神看護学演習	3	前	1		248	
			精神看護学実習	3	後	2		250	
		統合分野	地域包括ケア	1	後	1		252	
			災害看護セミナー	2	後	1		253	
			地域家族支援論	2	後	2		255	
			在宅看護学概論	3	前	2		257	
			在宅看護学演習	3	前	1		259	
			在宅看護学実習	3	後	2		261	

授業科目の概要			授業科目の名称	配当年次	開講学期	単位数 必修	単位数 選択	頁	修得必要単位
	専門分野	統合分野	公衆衛生看護学概論	1	後	2		263	必修27単位+選択2単位
			ヘルスプロモーション	2	前	1		265	
			国際保健・災害看護論	2	前	2		267	
			保健医療システム論	2	後	1		269	
			コミュニティ・アセスメント論	2	後	1		270	
			公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	後	2		271	
			公衆衛生看護学実習Ⅰ	2	後	1		273	
			公衆衛生看護活動論Ⅱ	3	前		2	274	※保健師国家試験受験資格要件 指定7科目11単位
			公衆衛生看護管理論Ⅰ	3	前		1	276	
			公衆衛生看護管理論Ⅱ	4	後		1	278	
			公衆衛生看護方法論	3	前		2	280	
			公衆衛生看護学演習	3	後		1	282	
			公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	前	2（選択必修）		284	
			公衆衛生看護学実習Ⅲ	4	前		2	285	
			多職種連携実習	3	通	1		287	
			看護研究	3	前	1		288	
			卒業研究A	3	通		2	290	
			卒業研究B	4	通	2		291	
			臨床シミュレーションEBN実習	4	前	2		292	
			国際保健・看護演習	4	前		1	294	
			国際保健・看護実習	4	通		2	295	※公衆衛生看護学実習Ⅱと 発展看護実習 いずれか選択必修
			発展看護実習	4	通	2（選択必修）		296	
			感染看護演習アドバンス	4	通		1	297	
			看護管理論	4	後	1		299	
			看護キャリアデザイン論	4	後		2	300	
			看護政策論	4	後	1		302	
							専門分野　単位数：計		77（選択2含む）
			卒業要件(最低単位数)						126

※卒業に必要な最低修得単位数は126単位である。卒業認定に必要な単位を修得することで、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

※さらに「保健師国家試験受験資格要件」で指定された11単位を修得することで「保健師」の国家試験受験資格を得られる。
　保健師国家試験受験資格取得を希望する場合は、3年前期に公衆衛生看護活動論Ⅱ（2単位）、公衆衛生看護管理論Ⅰ（1単位）、公衆衛生看護方法論（2単位）を修得すること。
　保健師国家試験受験資格取得の科目履修者として選抜された場合は、3年後期に公衆衛生看護学演習（1単位）、4年前期に公衆衛生看護学実習Ⅱ（2単位）、公衆衛生看護学実習Ⅲ（2単位）、4年後期に公衆衛生看護管理論Ⅱ（1単位）を修得することで、保健師国家試験受験資格が得られる。

※基礎分野Ⅰ（全学共通科目）の「しずおか学」科目群については、卒業までに2単位以上修得すること。

＊基礎分野Ⅰ（全学共通科目）の必修科目「数理・データサイエンス・AI入門」は、必ず修得すること。

【海外英語研修の履修・認定方法】

（1）本学部が認定した3週間あるいは4週間のコースを修了した学生に2単位を認定する。
　本学部授業期間中の履修については、原則として単位を認定しない。

（2）成績は本学で認定する。

（3）学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。

　ア 「海外英語研修単位認定申請書」

　イ 認定されたコースの修了書オリジナルとそのコピー

　ウ 担当教員よりStudent Report等の成績証明書が渡されている場合には、オリジナルとそのコピー

※ただし本学入学以前に終了したものについては認められない。また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

授業科目一覧表【令和4年度以降　編入学生（3年課程修了生用】
看護学部履修細則別表２

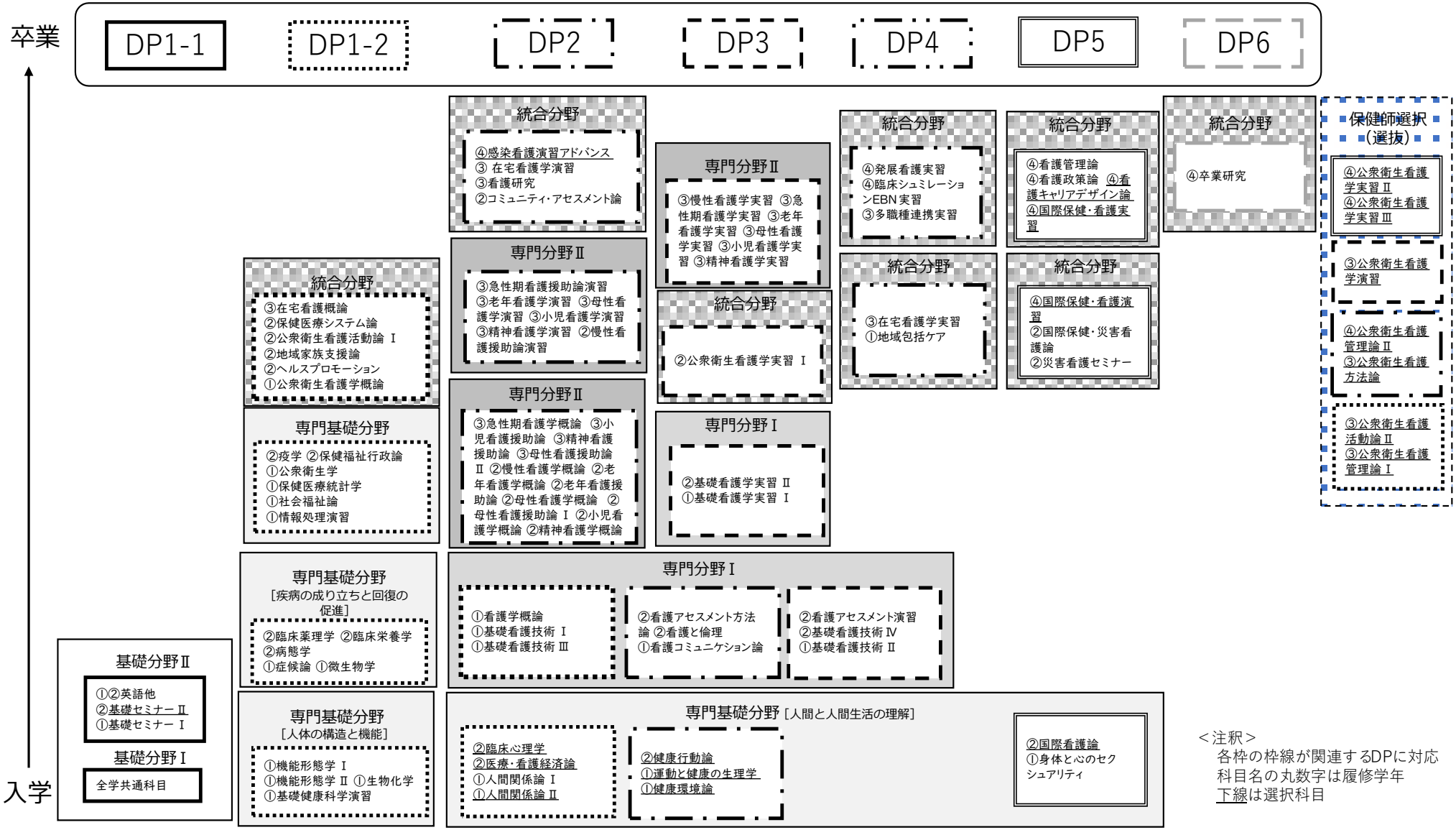
	授業科目の名称			配当年次	編入配当年次	開講学期	単位数 必修	単位数 選択	頁	修得必要単位
授業科目の概要	基礎分野Ⅰ（全学共通科目）	第1部門		1・2・3・4		前・後	1*	各2～1	36～129	10単位以上選択必修
		第2部門								
		第3部門								
		総合科目								
	基礎分野Ⅱ	運動	身体運動科学	1	3	通		2	132	
		研修	海外英語研修	1・2・3・4				2		
		教育	日本国憲法	1	3	後		2	134	
			教育学	2	3	後		2	136	
		主体性と判断力の育成	基礎セミナーⅠ	1	3	前	1		138	必修8単位
			基礎セミナーⅡ	2	4	前	1		140	
		英語コミュニケーション	フレッシュマンイングリッシュⅠ	1	3	前	1		142	
			フレッシュマンイングリッシュⅡ	1	3	前	1		143	
			フレッシュマンイングリッシュⅢ	1	3	後	1		144	
			フレッシュマンイングリッシュⅣ	1	3	後	1		146	
			英語コミュニケーションⅠ	2	4	前	1		148	
			英語コミュニケーションⅡ	2	4	後	1		149	
	専門基礎分野	人間と人間生活の理解	身体と心のセクシュアリティ	1	3	前	1		151	必修26単位
			人間関係論Ⅰ	1	3	前	1		152	
			臨床心理学	2	3	後	1		154	
			健康行動論	2	4	前	1		155	
			健康環境論	1	3	前	1		157	
			医療・看護経済論	2	3	前	1		158	
			国際看護論	2	3	後	1		159	
		人体の構造と機能	機能形態学Ⅰ	1	3	前		2	160	
			機能形態学Ⅱ	1	3	後		2	162	
			生物化学	1	3	前		1	164	
			基礎健康科学演習	1	3	後	2		166	
		疾病の成り立ちと回復の促進	症候論	1	3	後	2		169	
			微生物学	1	3	後	1		171	
			臨床薬理学	2	4	前	2		173	
			臨床栄養学	2	4	前	2		175	
			病態学	2	4	前	2		177	
		健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	3	前	2		179	
			社会福祉論	1	3	後	1		181	
			保健福祉行政論	2	4	前	2		183	
			保健医療統計学	1	3	前	2		185	
			情報処理演習	1	3	後	1		187	
	専門分野	専門分野Ⅰ	看護と倫理	2	4	後		1	206	必修22単位
		統合分野	地域包括ケア	1	3	後	1		252	
			災害看護セミナー	2	4	後	1		253	
			地域家族支援論	2	3	後	2		255	
			公衆衛生看護学概論	1	3	後	2		263	
			ヘルスプロモーション	2	4	前	1		265	
			国際保健・災害看護論	2	4	前	2		267	
			保健医療システム論	2	4	後	1		269	
			コミュニティ・アセスメント論	2	4	後		1	270	
			看護研究	3	3	前	1		288	
			卒業研究A	3	3	通	2		290	
			卒業研究B	4	4	通	2		291	
			発展看護実習	4	4	通	2		296	
			感染看護演習アドバンス	4	4	通	1		297	
			看護管理論	4	4	後	1		299	
			看護キャリアデザイン論	4	4	後	2		300	
			看護政策論	4	4	後	1		302	
									単位数：計	66単位

※ 基礎分野Ⅰ（全学共通科目）の「しずおか学」科目群については、卒業までに2単位以上修得すること。

＊基礎分野Ⅰ（全学共通科目）の必修科目「数理・データサイエンス・AI入門」は、必ず修得すること。

静岡県立大学看護学部カリキュラムツリー（令和４年度カリキュラム対応）

カリキュラムツリーは、授業科目の順序性・体系性をディプロマ・ポリシーと関連付けて示した図のことである。



＜注釈＞
各枠の枠線が関連するDPに対応
科目名の丸数字は履修学年
下線は選択科目

静岡県立大学教務委員会規程

平成19年4月1日　規程第46号

改正　平成19年7月26日、平成20年8月22日

平成24年4月1日、平成30年5月11日

（設置）

第１条　静岡県立大学（以下「本学」という。）における教務の円滑な遂行と改善を図るため、静岡県立大学学則第22条第１項の規定に基づき、本学に、静岡県立大学教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（所掌事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 教育課程、授業、試験等教務に関すること。

(2) 学部基礎科目及び専門教育科目についての学部間協力に関すること。

(3) 全学共通科目の運営・実施及び将来方向の検討に関すること。

(4) 単位互換など他の大学等（国内の大学等に限る。）との連携に関すること。

(5) 社会人教育（公開講座を除く。）に関すること。

(6) 全学的教育充実のための調査研究及び企画立案に関すること。

(7) 全学的な教務関係予算に関すること。

(8) 前7号に掲げるもののほか、教務についての学長からの諮問に関すること。

(9) その他教務に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 学生部長

(2) 学部ごとに、教授、准教授又は専任講師のうちから選出された者１人

(3) 研究科ごとに、教授、准教授又は専任講師のうちから選出された者１人

(4) 学府に属する、教授、准教授又は専任講師のうちから選出された者２人

(5) 健康支援センター長

(6) 情報センター長

(7) 言語コミュニケーション研究センター長

(8) キャリア支援センター長

(9) 男女共同参画推進センター長

(10) 学生室長

(11) その他学長が指名する者

２　前項の場合において、副学長を置くときは、当該副学長を委員会の委員とする。

（委員の任期）

第４条　前条第２号から第４号及び第11号の委員の任期は、１年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

２　前項の委員は、再任されることができる。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

２　委員長は、会務を総理する。

３　委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

（会議）

第６条　委員会は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。ただし、委員の３分の１以上の者の請求があったときは、委員長は委員会を招集しなければならない。

２　委員会は、委員の３分の２以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第７条　委員長が必要と認めるときは、委員会の議を経て、委員以外の者を会議に出席させ、説明を求め、又は意見を述べさせることができる。

（専門部会）

第８条　専門の事項を調査・審議するため必要があるときは、委員会に専門部会を置くことができる。

２　専門部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

（教育研究審議会への報告）

第９条　委員長は、毎年度、委員会の審議状況について、報告書を作成し、３月 31 日までに教育研究審議会に提出しなければならない。

（庶務）

第 10 条　委員会の庶務は、事務局において処理する。

（委任）

第 11 条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附　則

１　この規程は、平成 19 年４月１日から施行する。

２　委員長の選出については、第５条第１項の規程にかかわらず、当分の間、学長が第３条各号に掲げる者のうちから指名するものとする。

附　則

この規程は、平成 19 年７月 26 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 20 年８月 22 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 24 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 30 年５月 11 日から施行する。

静岡県立大学情報教育部会内規

（設　　置）

第１条　静岡県立大学教務委員会規程第８条の規定に基づき、情報教育部会を置く。

（目　　的）

第２条　情報教育部会は、情報教育に関する科目の実施・運営及び情報教育に関する科目の将来方向等を調査、審議することを目的とする。

（組　　織）

第３条　情報教育部会は、次に掲げる委員をもって構成する。

（１）　部会長

（２）　各学部又は研究科から選出された委員

（３）　その他学長が指名した者

２　部会長は、教務委員長が指名する。

（委員の任期）

第４条　前条第２号及び第３号の委員の任期は１年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

２　前項の委員は、再任されることができる。

（専門部門）

第５条　情報教育部会は、情報教育に関する多様な情報教育（以下、「プログラム」）、および、文部科学省の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）（以下、「教育プログラム」）を含む専門の事項を調査・審議するため以下の専門部門を置く。

部会	部門	所掌事項
情報教育部会	一般教育情報部門	（１）他専門部門に属しない情報教育に関するプログラムの立案、実施に関すること。 （２）前号のプログラムの自己点検・評価に関すること。 （３）前１号のプログラムの改善に関すること。 （４）その他前３号に掲げる事項に付随すること。
	MDASH 推進部門	（１）教育プログラムの立案、実施に関すること。 （２）教育プログラムの改善に関すること。 （３）その他前２号に掲げる事項に付随すること。
	MDASH 自己点検･評価部門	（１）教育プログラムの自己点検・評価に関すること。 （２）教育プログラムの改善に関すること。 （３）その他前２号に掲げる事項に付随すること。

２　第３条第１項第１号から第３号までに定める委員は、前条の専門部門のいずれかに所属するものとする。ただし、MDASH 推進部門と MDASH 自己点検・評価部門の双方に所属することはできない。

３　各専門部門には、コーディネーターを置き、コーディネーターは部門に所属する委員のうちから部門において選出する。

（会　　議）
第６条　会議は、部会長又はコーディネーターが招集し、部会長又はコーディネーターが議長となる。
２　会議は、部会もしくは部門の構成員の３分の２以上の出席をもって成立する。
３　議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
（委　　任）
第７条　この内規に定めるもののほか、情報教育部会の運営に関し必要な事項は、部会長が部会に諮って定める。

附　　則
この内規は、令和６年４月１日から施行する。

静岡県立大学教務委員会規程

平成19年4月1日　規程第46号

改正　平成19年7月26日、平成20年8月22日

平成24年4月1日、平成30年5月11日

（設置）

第１条　静岡県立大学（以下「本学」という。）における教務の円滑な遂行と改善を図るため、静岡県立大学学則第22条第１項の規定に基づき、本学に、静岡県立大学教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（所掌事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 教育課程、授業、試験等教務に関すること。

(2) 学部基礎科目及び専門教育科目についての学部間協力に関すること。

(3) 全学共通科目の運営・実施及び将来方向の検討に関すること。

(4) 単位互換など他の大学等（国内の大学等に限る。）との連携に関すること。

(5) 社会人教育（公開講座を除く。）に関すること。

(6) 全学的教育充実のための調査研究及び企画立案に関すること。

(7) 全学的な教務関係予算に関すること。

(8) 前7号に掲げるもののほか、教務についての学長からの諮問に関すること。

(9) その他教務に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 学生部長

(2) 学部ごとに、教授、准教授又は専任講師のうちから選出された者１人

(3) 研究科ごとに、教授、准教授又は専任講師のうちから選出された者１人

(4) 学府に属する、教授、准教授又は専任講師のうちから選出された者２人

(5) 健康支援センター長

(6) 情報センター長

(7) 言語コミュニケーション研究センター長

(8) キャリア支援センター長

(9) 男女共同参画推進センター長

(10) 学生室長

(11) その他学長が指名する者

２　前項の場合において、副学長を置くときは、当該副学長を委員会の委員とする。

（委員の任期）

第４条　前条第２号から第４号及び第11号の委員の任期は、１年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

２　前項の委員は、再任されることができる。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

２　委員長は、会務を総理する。

３　委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

（会議）

第６条　委員会は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。ただし、委員の３分の１以上の者の請求があったときは、委員長は委員会を招集しなければならない。

２　委員会は、委員の３分の２以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第７条　委員長が必要と認めるときは、委員会の議を経て、委員以外の者を会議に出席させ、説明を求め、又は意見を述べさせることができる。

（専門部会）

第８条　専門の事項を調査・審議するため必要があるときは、委員会に専門部会を置くことができる。

２　専門部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

（教育研究審議会への報告）

第９条　委員長は、毎年度、委員会の審議状況について、報告書を作成し、３月 31 日までに教育研究審議会に提出しなければならない。

（庶務）

第 10 条　委員会の庶務は、事務局において処理する。

（委任）

第 11 条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附　則

１　この規程は、平成 19 年４月１日から施行する。

２　委員長の選出については、第５条第１項の規程にかかわらず、当分の間、学長が第３条各号に掲げる者のうちから指名するものとする。

附　則

この規程は、平成 19 年７月 26 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 20 年８月 22 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 24 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 30 年５月 11 日から施行する。

静岡県立大学情報教育部会内規

（設　　置）

第１条　静岡県立大学教務委員会規程第８条の規定に基づき、情報教育部会を置く。

（目　　的）

第２条　情報教育部会は、情報教育に関する科目の実施・運営及び情報教育に関する科目の将来方向等を調査、審議することを目的とする。

（組　　織）

第３条　情報教育部会は、次に掲げる委員をもって構成する。

（１）　部会長

（２）　各学部又は研究科から選出された委員

（３）　その他学長が指名した者

２　部会長は、教務委員長が指名する。

（委員の任期）

第４条　前条第２号及び第３号の委員の任期は１年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

２　前項の委員は、再任されることができる。

（専門部門）

第５条　情報教育部会は、情報教育に関する多様な情報教育（以下、「プログラム」）、および、文部科学省の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）（以下、「教育プログラム」）を含む専門の事項を調査・審議するため以下の専門部門を置く。

部会	部門	所掌事項
情報教育部会	一般教育情報部門	（１）他専門部門に属しない情報教育に関するプログラムの立案、実施に関すること。 （２）前号のプログラムの自己点検・評価に関すること。 （３）前１号のプログラムの改善に関すること。 （４）その他前３号に掲げる事項に付随すること。
	MDASH 推進部門	（１）教育プログラムの立案、実施に関すること。 （２）教育プログラムの改善に関すること。 （３）その他前２号に掲げる事項に付随すること。
	MDASH 自己点検･評価部門	（１）教育プログラムの自己点検・評価に関すること。 （２）教育プログラムの改善に関すること。 （３）その他前２号に掲げる事項に付随すること。

２　第３条第１項第１号から第３号までに定める委員は、前条の専門部門のいずれかに所属するものとする。ただし、MDASH 推進部門と MDASH 自己点検・評価部門の双方に所属することはできない。

３　各専門部門には、コーディネーターを置き、コーディネーターは部門に所属する委員のうちから部門において選出する。

（会　　議）
第６条　会議は、部会長又はコーディネーターが招集し、部会長又はコーディネーターが議長となる。
２　会議は、部会もしくは部門の構成員の３分の２以上の出席をもって成立する。
３　議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
（委　　任）
第７条　この内規に定めるもののほか、情報教育部会の運営に関し必要な事項は、部会長が部会に諮って定める。

附　　則
この内規は、令和６年４月１日から施行する。

大学等名	静岡県立大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和 7 年度

特徴：専門性を探求する『データリテラシー』×『AI』の実践的基礎力を養う！

教育プログラムの目的

1) すべての学生が身につけるべき数理・データサイエンス・AIの基礎的な能力をアクティブラーニングにより修得する。

2) 各学部の専門性を探求できるデータリテラシーを修得して、問題解決に向けた提案ができる実践的基礎力を養う。

教育プログラムの到達目標

- Society 5.0時代の礎である数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する。
- データ倫理、情報セキュリティ、AI社会原則などデータ・ AI利活用の基礎を理解する。
- 目的に応じてPCでデータを分析・可視化（図表化）し結果を説明する基礎的な能力を養う。
- データ利活用により、実課題解決に向けた提案ができる基礎力を養う。

Step 1
アクティブラーニングによるリテラシーの向上

数理・データサイエンス・AI（入門）
- 全学共通科目（1年生）
- オンデマンド教材による学習
- 1単位

Step 2
PC演習によるデータリテラシーの向上

データリテラシー
- 学部別の授業・演習（1～2年生）
- PC演習
- 1～2単位

図1. 教育プログラム

特徴 ：アクティブラーニングとPC演習の
　　２つのステップによる教育プログラム
修了要件：２科目２～３単位
全２科目：卒業要件の科目

外部からの評価・意見
東海デジタル人材育成プラットフォーム
・教育モジュール検討会
・教育カリキュラム検討会

教務管理部 情報教育部会
MDASH推進部門

管理及び運営
教育の推進及び質保証
プログラムの開発

履修・修了の状況把握
自己点検・評価
各科目の到達目標を確認

教務管理部 情報教育部会
MDASH自己点検・評価部門

PDCA cycle

図2. 教育プログラムの実施及び運営、質保証向上、及び、自己点検・評価の実施体制

大学等名	静岡県立大学
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

申請レベル	リテラシーレベル
参考資料	リテラシーレベルの申請書（様式 1-1 ～ 1-5, 様式2）

表１．数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）

学部・学科		学年	科目	選/必	R03	R04	R05	R06	R07	R08	R09	R10	R11
薬学部		1	全学共通科目	必	－	－	－	○	○	○	○	○	○
		1	科学演習	必	○	○	○	○	○	○	○	○	○
食品栄養科学部	食品生命科学科	1	全学共通科目	必	－	－	－	○	○	○	○	○	○
		1	情報科学演習	必	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	栄養生命科学科	1	全学共通科目	必	－	－	－	○	○	○	○	○	○
		1	情報科学（栄養）	必	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	環境生命科学科	1	全学共通科目	必	－	－	－	○	○	○	○	○	○
		1	情報科学（環境）	必	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国際関係学部		1	全学共通科目	必	－	－	－	○	○	○	○	○	○
		1／2	コンピュータ・リテラシー（全学共通科目「情報検索演習」で代替可能）#1	必#2	○	○	○	○	○	○	○	○	○
経営情報学部		1	全学共通科目	必	－	－	－	○	○	○	○	○	○
		1	情報リテラシⅠ	必	○	○	○	○	○	○	○	○	○
看護学部#2		1	全学共通科目	必	－	－	－	○	○	○	○	○	○
		1	情報処理演習	必	○	○	○	○	○	○	○	○	○
履修率（様式３⑧）#3					－	－	－	23%	46%	69%	92%	96%	100%

↑全ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ開講完了　↑申請
すべての学部の、すべての学生に開講

#１：R06まで「選」（選択（卒業要件））であったが、R07より「必」（必修（卒業要件））となることから「情報検索演習」（選択（卒業要件））を廃止

#２：３年次編入生は、本プログラムを１年生と同様に履修する

#３：様式３③を参考に、学生数（収容定員ではなく、在学生数）で算出